

宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査事業

調査結果報告書

2024年3月20日

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ

(宮城県委託事業)

目 次

1. 宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査事業について	p 3
2. 調査の実施状況	p 4
A. 対象者アンケート質問項目と回答結果	p 5
対象者調査集計結果	p 6
(1) あなたのこと	p 6
(2) 仕事・学校のこと	p 10
(3) 住まい・家計のこと	p 12
(4) 健康・医療のこと	p 15
(5) 退所前・退所後のサポートのこと	p 18
(6) その他	p 29
B. 施設対象調査結果	p 33
(1) 対象者の確認	p 33
(2) 基本属性	p 33
(3) 措置時点の状況	p 34
(4) 措置解除時の状況	p 36
(5) 措置解除後の状況	p 40
(6) 貴所とのつながり	p 41
(7) 直近1年間(2022年12月10日～2023年12月10日)で把握できている生活状況	p 42
(8) 現在の困難	p 44
(9) 施設退所者等へのアフターケアの状況	p 46
C. 里親対象調査結果	p 52
(1) 対象者の確認	p 52
(2) 基本属性	p 52
(3) 委託時点の状況	p 52
(4) 委託解除時の状況	p 53
(5) 委託解除後の状況	p 54
(6) あなたとのつながり	p 55
(7) 直近1年間(2022年12月10日～2023年12月10日)で把握できている生活状況	p 55
(8) 現在の困難	p 56
(9) 施設退所者等へのアフターケアの状況	p 56
D. 考察	p 61
おわりに	p 66

資料

1. 宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査事業について

目的

児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設の入所措置解除者、里親又はファミリーホームの委託解除者及び児童自立生活援助の解除者（以下「施設退所者等」という。）の生活状況や社会生活上の課題・支援ニーズ等並びに施設の施設退所者等との関わり、支援状況等を把握・整理することを目的とする。

業務の内容

(1) 実態調査の実施

- イ 調査件数 330件程度（うち発送先住所が確認されたものを対象とする。）
- ロ 調査対象者
過去5年間（平成30年4月から令和5年3月）に、中学卒業以降で措置解除、委託解除及び援助解除となった者（悉皆）。
- ハ 調査対象施設
児童養護施設、児童自立支援施設、児童心理治療施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム
- ニ 調査対象里親
ロの対象者を過去5年間（平成30年4月から令和5年3月）に委託された里親

(2) 調査項目

- イ 調査対象者
 - ・就労・就学の状況、住まい・家計の状況
 - ・健康状態・医療サービスの提供状況
 - ・生活していた施設等とのつながり・相談相手の有無等
 - ・最後に生活していた施設等から受けたサポートの内容と評価、公的なサポートへの意見・要望 等
- ロ 調査対象施設・調査対象里親
 - ・退所児童等との退所後の関わり
 - ・行っている支援
 - ・実際にあった相談
 - ・今後必要と考える支援 等

(3) 委託業務の詳細

- イ 調査票の作成
- ロ 調査票の発送・回収
- ハ 施設職員へのアンケートの実施
- ニ 調査協力者への謝礼品準備・発送
- ホ 調査票集計結果のデータ入力・集計
- ヘ 分析・考察
- ト 上記を踏まえた調査報告書の作成

委託先

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ

2. 調査の実施状況

- (1) 「児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第1回」の実施
- (2) 委託契約 令和5年10月25日
- (3) 調査票の作成
- (4) 「児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第2回」の実施
- (5) 「宮城県における児童養護施設退所児童等実態調査に係る施設向け説明会」の実施
- (6) 調査票の作成
- (7) 調査票の発送にあたっての対象者名簿について
- (8) 名簿を元に発送準備
- (9) 調査票などの発送物
- (10) 調査票回収
- (11) 調査協力者（個人）への謝礼品準備・発送
- (12) 調査票集計結果のデータ入力・集計
- (13) 「児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第3回」のための報告作成
- (14) 「児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第3回」実施（3月6日書面開催）
- (15) 「児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第3回」の意見を受けての調整
- (16) 分析・考察
- (17) 報告書提出

A. 対象者アンケート質問項目と回答結果

対象者調査票の発送方法

県の担当課より令和5年12月18日に名簿を受け取り、送付方法については下記の①～④に分類し、①～③は発送、④は発送なし、として作業を進めた。

- ① 施設や里親が対象者に事前に連絡をして、受託団体に対して個人情報を提供することの了解をとったので直接送付で問題がない、という施設や里親の判断で、住所、氏名等の宛名記載を受託団体が行って発送。
- ② 受託団体の名称で発送したものを対象者が受け取った場合、なじみのない差出人名を見て開封するかが懸念されるという施設や里親の判断で、住所、氏名等の宛名記載を受託団体が行き、差出人の記載がない形で封筒を施設や里親へ送り、そこから本人へ郵送。
- ③ 住所、氏名等は記載せず、調査票を封入したものを受託団体が作成し、施設・里親へ送付、施設・里親が宛名を記入し、そこから本人へ郵送。
- ④ 居所不明で送付できないため送付なし。

対象者本人への送付状況

	発送元	発送方法			発送無	計
		①	②	③	④	
児童養護施設	旭が丘学園		4	1	23	28
	丘の家子どもホーム			18	7	25
	小松島子どもの家			3	4	7
	小百合園		11		12	23
	仙台天使園		20		6	26
	ラ・サール・ホーム			16	10	26
	計	0	35	38	62	135
			73	62	135	
自立援助ホーム	せんだんの家	15			3	18
	まきばフリースクール		13	5	3	21
	はやぶさ			2	1	3
	ラパン			1		1
	ロージーベル			1	14	15
	計	15	13	9	21	58
			37	21	58	
ファミリーホーム	子どもの家きむら			3		3
	ざおうホーム		1		2	3
	どんぐりとやまねこ				7	7
	みんなの家				1	1
	計	0	1	3	10	14
			4	10	14	
児童自立支援施設	さわらび学園		1		21	22
	計	0	1	0	21	23
				1	21	23
里親	里親	8	16	40	25	89
	計	8	16	40	25	89
				64	25	89
	総計	23	66	90	139	318

対象者調査 調査対象者数は 318 名

対象者数 318	発送数 179	発送率 56.3%
発送数 179	回答者数 62	発送者数に対する回答率 34.6%
対象者数 318	回答者数 62	対象者数に対する回答率 19.5%

対象者調査集計結果

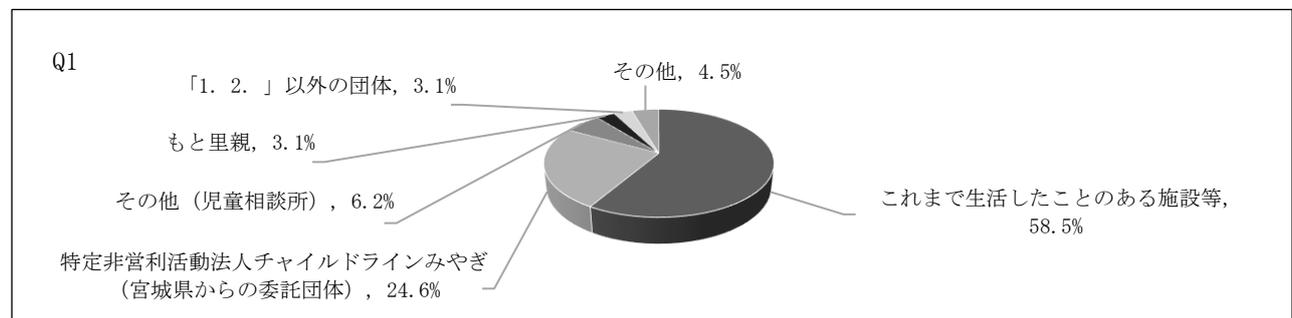
凡例

- ① 以下、表中の単位のない数値は、但し書きのない限り、人数または件数を表す。
- ② 調査項目大項目（１）あなたのこと（２）仕事・学校のこと（３）住まい・家計のこと（４）健康・医療のこと（５）退所前・退所後のサポートのこと（６）その他 ごとに、回答結果の表やグラフを記載した。各大項目の末尾の囲み部分には、回答結果を分析した文章を記載している。
- ③ 文中の円グラフは、集計結果の表の上位１位から５位を表示し、６位以下はその他としてまとめて集計したものを表示している。６位以下詳細については表を参照。
- ④ 「チャイルドラインみやぎ」とは、宮城県より「社会的養護自立支援事業業務」を、仙台市より「仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア事業」を受託し、対象者のアフターケアも行っている「特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ」のこと。

（１）あなたのこと

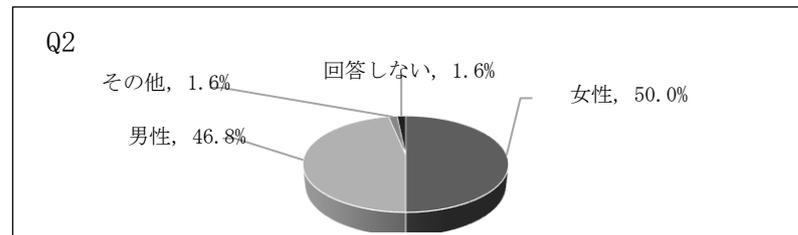
Q1 このアンケートは誰から送られてきましたか？ または紹介されましたか？（複数回答）

1. 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ（宮城県からの委託団体）	16	24.6%
2. これまで生活したことがある施設等	38	58.5%
3. もと里親	2	3.1%
4. 社会的養護経験者の当事者団体	1	1.5%
5. 「1. 2. 」以外の団体	2	3.1%
6. 友人・知人	2	3.1%
7. その他（児童相談所）	4	6.2%
計	65	100.0%



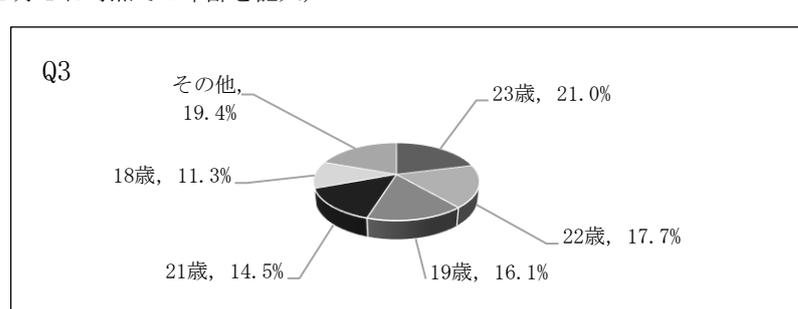
Q2 あなたの性別を教えてください。

1. 女性	31	50.0%
2. 男性	29	46.8%
3. その他	1	1.6%
4. 回答しない	1	1.6%
計	62	100.0%



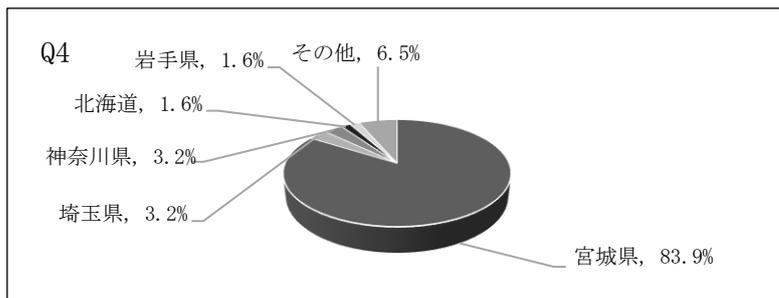
Q3 年齢を教えてください。（2023年12月1日時点での年齢を記入）

16歳	1	1.6%
17歳	2	3.2%
18歳	7	11.3%
19歳	10	16.1%
20歳	7	11.3%
21歳	9	14.5%
22歳	11	17.7%
23歳	13	21.0%
24歳	2	3.2%
計	62	100.0%



Q4 現在住んでいる場所(都道府県)を教えてください。

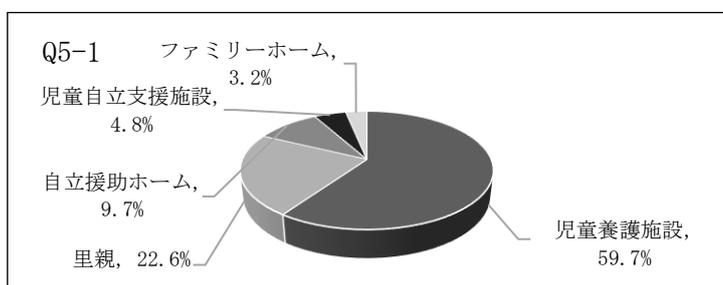
北海道	1	1.6%
岩手県	1	1.6%
秋田県	1	1.6%
山形県	1	1.6%
宮城県	52	83.9%
埼玉県	2	3.2%
千葉県	1	1.6%
神奈川県	2	3.2%
沖縄県	1	1.6%
計	62	100.0%



Q5 最後に生活していた施設についてお聞きします。

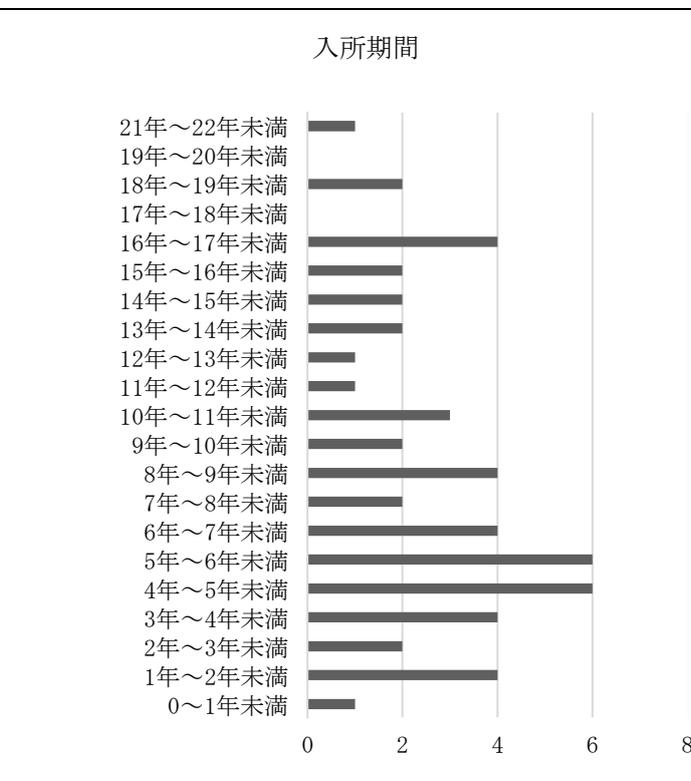
① 最後に生活していた施設を以下から選んでください。

1. 児童養護施設	37	59.7%
2. 児童自立支援施設	3	4.8%
3. 児童心理治療施設	0	0.0%
4. ファミリーホーム	2	3.2%
5. 自立援助ホーム	6	9.7%
6. 里親	14	22.6%
計	62	100.0%



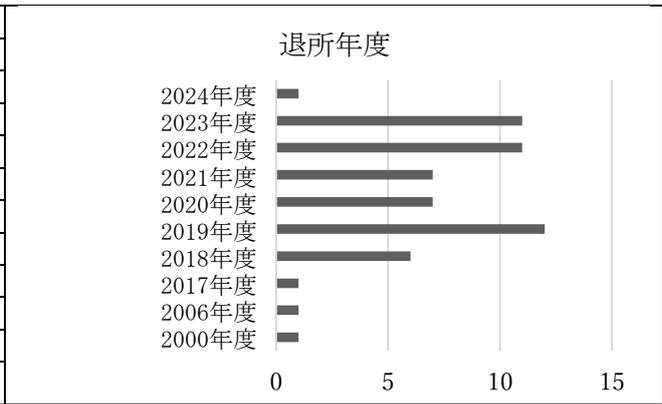
② 入所期間を教えてください。

0～1年未満	1	1.6%
1年～2年未満	4	6.5%
2年～3年未満	2	3.2%
3年～4年未満	4	6.5%
4年～5年未満	6	9.7%
5年～6年未満	6	9.7%
6年～7年未満	4	6.5%
7年～8年未満	2	3.2%
8年～9年未満	4	6.5%
9年～10年未満	2	3.2%
10年～11年未満	3	4.8%
11年～12年未満	1	1.6%
12年～13年未満	1	1.6%
13年～14年未満	2	3.2%
14年～15年未満	2	3.2%
15年～16年未満	2	3.2%
16年～17年未満	4	6.5%
17年～18年未満	0	0.0%
18年～19年未満	2	3.2%
19年～20年未満	0	0.0%
21年～22年未満	1	1.6%
記入なし	8	12.9%
無効	1	1.6%
計	62	100.0%



③ 退所年度を教えてください。

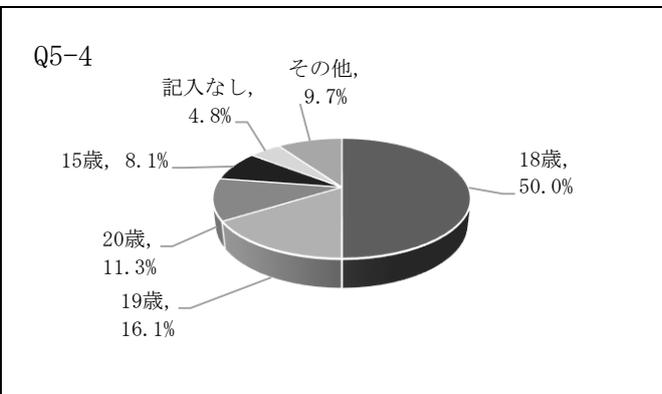
2000年度	1	1.6%
2006年度	1	1.6%
2017年度	1	1.6%
2018年度	6	9.7%
2019年度	12	19.4%
2020年度	7	11.3%
2021年度	7	11.3%
2022年度	11	17.7%
2023年度	11	17.7%
2024年度	1	1.6%
記入無	4	6.5%
計	62	100.0%



※この調査の対象者は2018年度から2022年度となっているが、回答からは本人が退所年度を正確に把握していない様子も
うかがえる。ここでは本人が記載したまま掲載した。

④ 退所時の年齢は何歳でしたか。

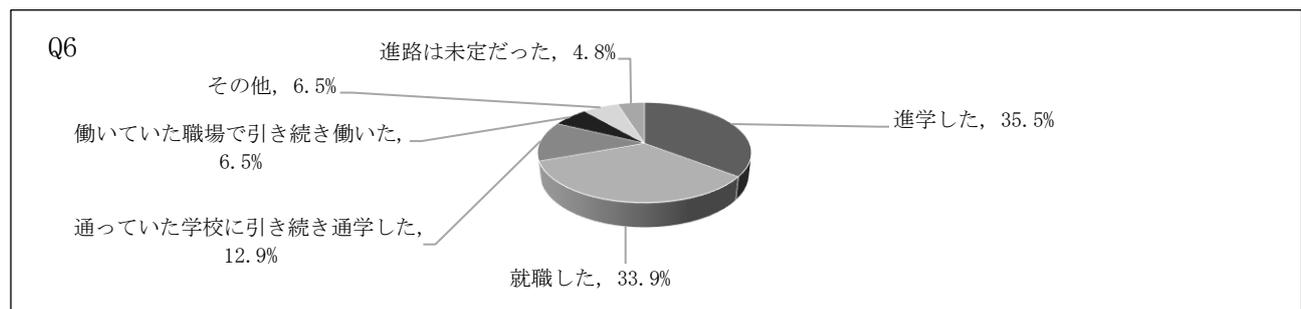
0歳	1	1.6%
6歳	1	1.6%
15歳	5	8.1%
16歳	1	1.6%
17歳	1	1.6%
18歳	31	50.0%
19歳	10	16.1%
20歳	7	11.3%
21歳	1	1.6%
22歳	1	1.6%
記入なし	3	4.8%
計	62	100.0%



※この調査の対象者は2018年度から2022年度となっているが、回答からは本人が退所年度を正確に把握していない様子も
うかがえる。ここでは本人が記載したまま掲載した。

Q6 最後に生活していた施設等を退所、または里親の委託が解除された直後はどうしていましたか？

1. 就職した		21	33.9%
2. 働いていた職場で引き続き働いた		4	6.5%
3. 進学した		22	35.5%
4. 通っていた学校に引き続き通学した		8	12.9%
5. 進路は未定だった		3	4.8%
その他	グループに入居し、B型事業所へ通所	1	1.6%
	障害福祉サービスを利用	1	1.6%
	3月に退所予定	1	1.6%
	言いたくない	1	1.6%
計		62	100.0%



分析

(1) あなたのこと (Q1～Q6)

Q1 このアンケートは誰から送られてきましたか？ または紹介されましたか？

報告書冒頭に記載した送付方法を採用したため、発送、発信元を記載した人が多い。

Q2 あなたの性別を教えてください。

男女ほぼ同数であった。

Q3 年齢を教えてください。

年齢から推測すると 18 歳で措置解除、22 歳で大学卒業と共に解除となった人が多い。

Q4 現在住んでいる場所(都道府県)を教えてください。

宮城県在住が 83.9%と最多であるが、北海道から沖縄まで広く分布している。

Q5 最後に生活していた施設についてお聞きします。

①最後に生活していた施設を以下から選んでください。

児童養護施設 59.7%、里親 22.6%を合わせて 82.3%となっている。

②入所期間を教えてください。

1 年未満から 22 年未満まで幅広い。

最多が 4～6 年となっている。記入なしが 8 人となっており、自分ではよくわからないことも多いのではないと思われる。

③退所年度を教えてください。

この調査の対象者は 2018 年度から 2022 年度となっているが、回答からは本人が退所年度を正確に把握していない様子もうかがえる。

④退所時の年齢は何歳でしたか。

最多が 18 歳、延長して 19・20 歳で措置解除になった人が多かったと思われる。

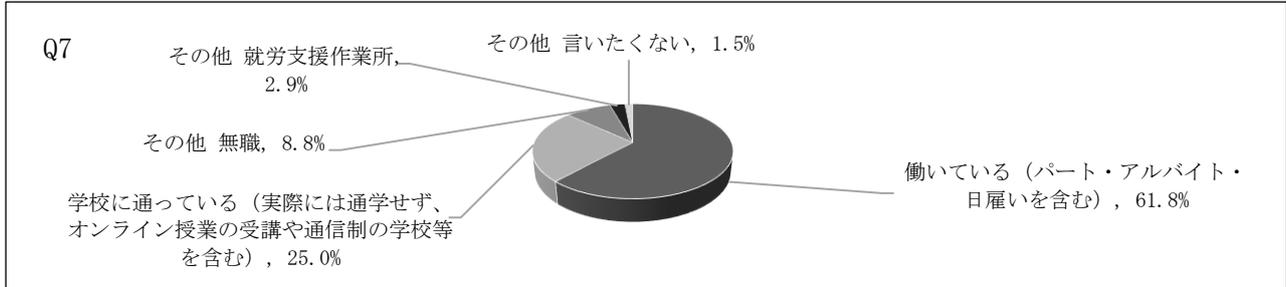
Q6 最後に生活していた施設等を退所、または里親の委託が解除された直後はどうしていましたか？

働いた人と進学・通学した人がほぼ同数となっている。

(2) 仕事・学校のこと

Q7 現在のお仕事や学校について、教えてください。(複数回答)

1. 働いている (パート・アルバイト・日雇いを含む)	42	61.8%
2. 学校に通っている (実際には通学せず、オンライン授業の受講や通信制の学校等を含む)	17	25.0%
その他	就労支援作業所	2 2.9%
	無職	6 8.8%
	言いたくない	1 1.5%
計	68	100.0%



Q8 前の Q7 で「1. 働いている」を選んだ人にお聞きします。

① 現在、あなたはいくつの勤務先で働いていますか。

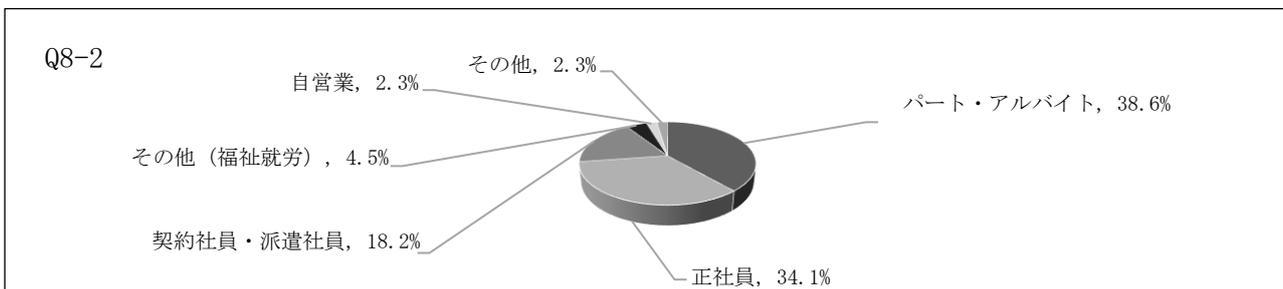
1. 1 か所	36	87.8%
2. 2 か所	5	12.2%
計	41	100.0%

※Q7 の 1 の回答数は 42 だったが、この設問での回答は 41 であった。理由は不明のためそのまま掲載した。

② 現在の働き方は、以下のどれに当てはまりますか。

1. 正社員	15	34.1%
2. 契約社員・派遣社員	8	18.2%
3. パート・アルバイト	17	38.6%
4. 日雇い・期間工	0	0.0%
5. 自営業	1	2.3%
6. わからない	1	2.3%
7. その他 (福祉就労)	2	4.5%
計	44	100.0%

※Q7 の 1 の回答数は 42 だったが、この設問での回答は 44 であった。理由は不明のためそのまま掲載した。

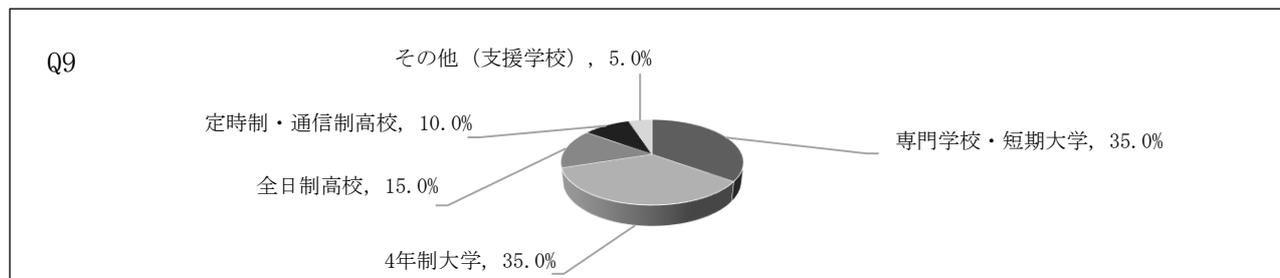


Q9 前の Q7 で「2. 学校に通っている」を選んだ人にお聞きします。

現在、どの学校に通っていますか。

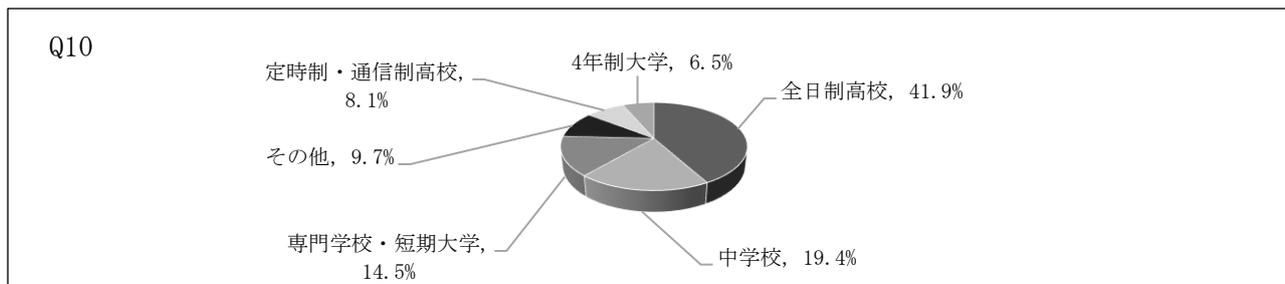
1. 全日制高校	3	15.0%
2. 定時制・通信制高校	2	10.0%
3. 専門学校・短期大学	7	35.0%
4. 4年制大学	7	35.0%
5. その他（支援学校）	1	5.0%
計	20	100.0%

※Q7 2を選んだのは17であったが、この設問では20人が回答している。理由は不明なのでそのまま掲載した。



Q10 最終学歴(最後に卒業・修了した学校)を教えてください。

1. 中学校	12	19.4%	
2. 全日制高校	26	41.9%	
3. 定時制・通信制高校	5	8.1%	
4. 専門学校・短期大学	9	14.5%	
5. 4年制大学	4	6.5%	
6. その他	特別支援学校高等部	2	3.2%
	高等学園	1	1.6%
記入なし	2	3.2%	
記入あったが無効	1	1.6%	
計	62	100.0%	



分析 (2) 仕事・学校のこと (Q7~Q10)

Q7 現在のお仕事や学校について、教えてください。

就労支援作業所も含め、働いている人の割合が就職支援作業所を含めると64.7%、学校に通っている25.0%を足すと、89.7%と、かなり高い率を示している。回答してきた人たちの多くは、生活が比較的安定していると推察される。

Q8 前の Q7 で「1. 働いている」を選んだ人にお聞きします。

①現在、あなたはいくつの勤務先で働いていますか。

87.8%が1か所で12.2%が2か所という結果になっている。Q7の結果と同様の傾向が見られる。

②現在の働き方は、以下のどれに当てはまりますか。

前の質問の回答は「1ヶ所で働いている」が多かったが、正社員の割合は34.1%と、それほど高くなく、契約・派遣・パート・アルバイトの割合が56.8%となっており、就労継続の危うさも見られる。

Q9 前のQ7で「2. 学校に通っている」を選んだ人にお聞きします。現在、どの学校に通っていますか。

専門学校・短期大学、4年制大学を合わせると、70%となっている。当時、コロナ禍で就職が難しいこともあって、進学を勧めたケースもあったという情報もあった。

Q10 最終学歴(最後に卒業・修了した学校)を教えてください。

中卒の学歴で社会に出た人が19.4%となっている。その人たちが現在どのような職種に就いているのかの調査項目があっても良かったのではないかと思われた。

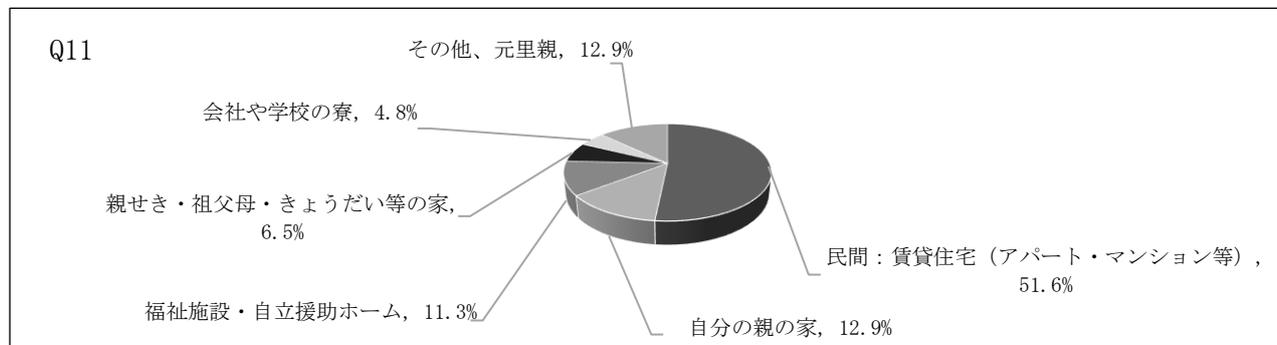
特別支援学校高等部の選択肢がなかったため、全日制高校を選択した人もあったと思われる。

2022年リクルート総研の調査によると、進学率は4年制大学では55.3%、短期大学は3.7%、専門学校は16.7%であることと比較すると、今回調査回答者の学歴が4年制大学6.5%、専門学校・短期大学14.5%という現状はあまりに格差があると言わざるを得ない。

(3) 住まい・家計のこと

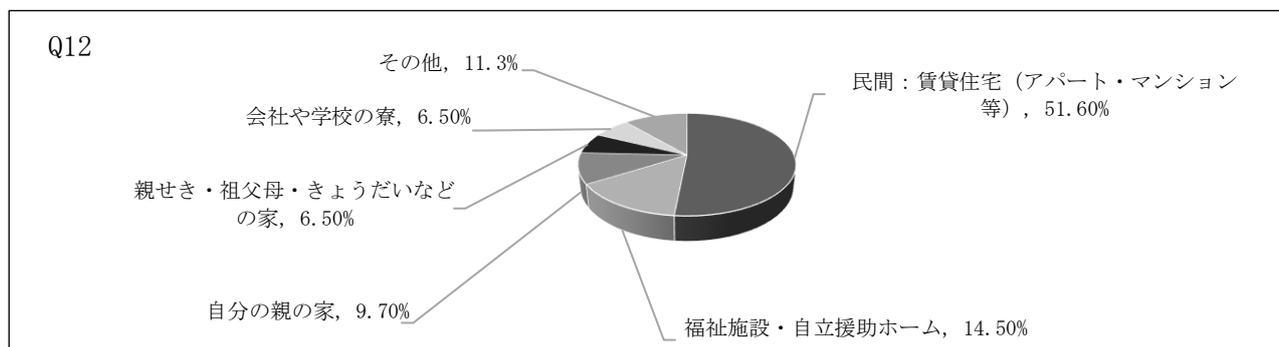
Q11 施設等を退所した直後、どのようなところに住みましたか。

1. 民間：賃貸住宅（アパート・マンション等）		32	51.6%
2. 公的：賃貸住宅（公団・県営・市営住宅など）		0	0.0%
3. 自分の持ち家（戸建・マンション等）		2	3.2%
4. 自分の親の家		8	12.9%
5. 親せき・祖父母・きょうだいなどの家		4	6.5%
6. 友人の家		0	0.0%
7. 交際中の人の家		0	0.0%
8. 会社や学校の寮		3	4.8%
9. 福祉施設・自立援助ホーム		7	11.3%
10. その他	シェアハウス	1	1.6%
	元里親	3	4.8%
	社会的養護自立支援事業の枠組みで継続して施設で生活	1	1.6%
	入院	1	1.6%
計		62	100.0%



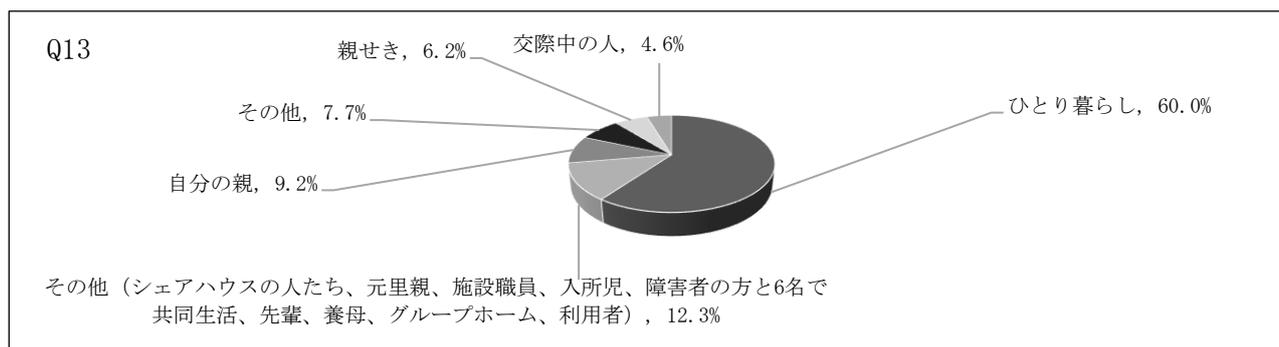
Q12 現在は、どのようなところに住んでいますか。

1. 民間：賃貸住宅（アパート・マンション等）	32	51.6%
2. 公的：賃貸住宅（公団・県営・市営住宅など）	0	0.0%
3. 自分の持ち家（戸建・マンション等）	1	1.6%
4. 自分の親の家	6	9.7%
5. 親せき・祖父母・きょうだいなどの家	4	6.5%
6. 友人の家	0	0.0%
7. 交際中の人の家	1	1.6%
8. 会社や学校の寮	4	6.5%
9. 福祉施設・自立援助ホーム	9	14.5%
10. 以前住んでいた里親の家や施設	3	4.8%
11. その他（シェアハウス・社会的養護自立支援制度関係）	2	3.2%
計	62	100.0%



Q13 現在、誰と暮らしていますか。（複数回答）

1. ひとり暮らし	39	60.0%	
2. 交際中の人	3	4.6%	
3. 配偶者（結婚相手）	0	0.0%	
4. 自分の子ども	0	0.0%	
5. 自分の親	6	9.2%	
6. 配偶者の親	0	0.0%	
7. きょうだい	1	1.5%	
8. 祖父母	3	4.6%	
9. 親せき	4	6.2%	
10. 友人	1	1.5%	
11. その他	シェアハウスの人たち	8	12.3%
	元里親		
	施設職員、入所児		
	障害者の方と6名で共同生活		
	先輩		
	養母		
	グループホーム利用者		
計	65	100.0%	

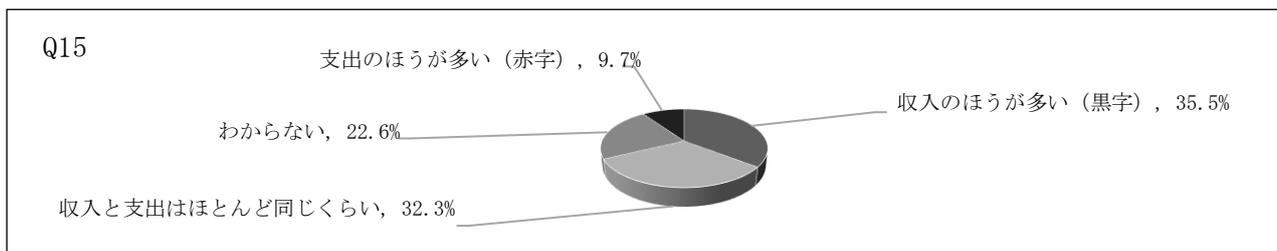


Q14 前のQ13で「4.自分の子ども」を選んだ人にお聞きします。

- ① 現在、何人の子と一緒に暮らしていますか。 ※該当なし
- ② またその子は何歳ですか。全ての子どもの年齢を記入してください。 ※該当なし

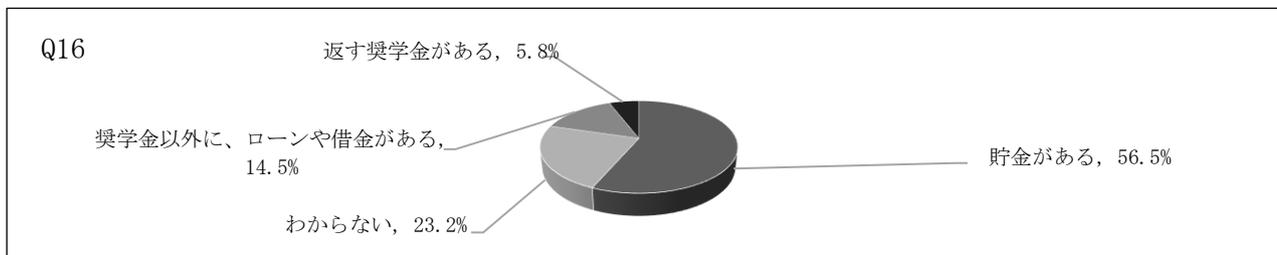
Q15 現在、毎月の収入(給料、アルバイト料、年金、奨学金など)と支出(家賃、食費、生活費、学費など)を比べるとどちらが多いですか。

1. 収入のほうが多い(黒字)	22	35.5%
2. 収入と支出はほとんど同じくらい	20	32.3%
3. 支出のほうが多い(赤字)	6	9.7%
4. わからない	14	22.6%
計	62	100.0%



Q16 現在の家計の状況として、当てはまるものを選んでください。(複数回答)

1. 貯金がある	39	56.5%
2. 返す奨学金がある	4	5.8%
3. 2.の奨学金以外に、ローンや借金がある	10	14.5%
4. わからない	16	23.2%
計	69	100.0%



分析 (3) 住まい・家計のこと (Q11~Q16)

Q11 施設等を退所した直後、どのようなところに住みましたか。

51.6%が民間住宅に入居している。選択肢2は公営住宅だが、入居した人はなかった。調査対象者の中には、保証人になってくれる人がいないため、住居探しに苦労した人もいたと思われるので、今後、公営住宅入居も選択肢の一つになったらよいと思われる。

Q12 現在は、どのようなところに住んでいますか。

Q11で民間・賃貸住宅と答えた人の数と現在住んでいる場所として同じ数が出ている。同じ人が引き続き住んでいるかどうかはわからないが、収入が安定しているためか通学中のため貸付を受けているために住み続けられている人が多いと思われる。Q11で公営住宅入居者がいなかったが、この設問でも入居者はいなかった。令和2年度の「児童自立支援施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」では、現在公的賃貸住宅へ入居している人が2.7% (※推計78人: n=2,980より割り出した数値)あった。対象者が宮城県内の公的住宅入居の基準を満たしていないのか、他の事情があるのか調査し、今後門戸を広げていく可能性を探ってはどうかと思われる。

Q13 現在、誰と暮らしていますか。

ひとり暮らしが 60.0%と最多だった。アフターケア事業の中で聞き取りを行うと、「施設から出る際には『これで自由だ』などと思うが、施設など大勢で暮らす場所から急にひとり暮らしになると、寂しく感じたり、どうしていいかわからない時、そばに誰もいないので不安になったりする。施設に行ってみても、職員は今入所している子たちの対応で忙しそうなので、邪魔してはいけないと思った。」などという言葉が聞かれる。近年、寂しさから SNS に友達を求め、被害に会うことも少なくないため、ひとり暮らしの人たちには特に丁寧な対応が望まれる。

Q14 前の Q13 で「4. 自分子ども」を選んだ人にお聞きします。

配偶者や子どもがいると答えた人はいなかった。Q3 で、調査対象者が 24 歳までと若いこともあるかもしれないが、家族関係や経済状態で結婚等が難しい状況もあるのではと推察される。

Q15 現在、毎月の収入(給料、アルバイト料、年金、奨学金など)と支出(家賃、食費、生活費、学費など)を比べるとどちらが多いですか。

収支が同じくらい以上という回答が 67.8%に上っているが、収支がわからないとした回答が 22.6%、赤字が 9.7%の人たちは金銭管理がうまくいっていないのではないかと懸念がある。

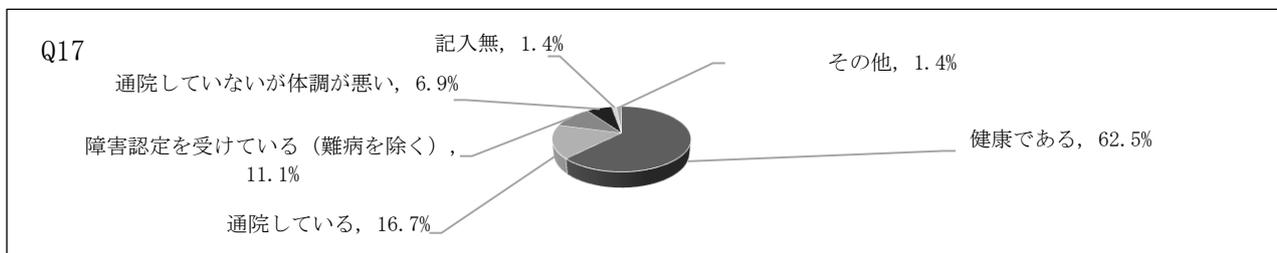
Q16 現在の家計の状況として、当てはまるものを選んでください。

奨学金以外のローンや借金ありが 20.3%あった。返済についてどう考えているかの調査項目があってもよかった。わからないと答えた 23.2%については、非常に不安な要素があるのではないかとと思われる。

(4) 健康・医療のこと ※施設や里親・ファミリーホームのことを「施設等」としてしています。

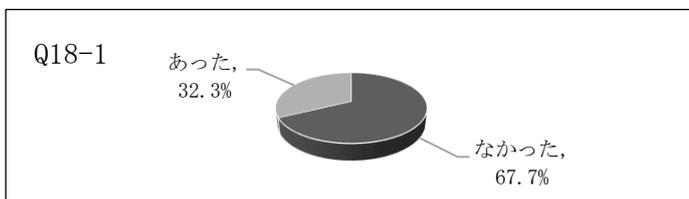
Q17 現在の心身の状態等として、当てはまるものを選んでください。(複数回答)

1. 健康である	45	62.5%
2. 通院している	12	16.7%
3. 入院中である	0	0.0%
4. 通院していないが体調が悪い	5	6.9%
5. 障害認定を受けている(難病を除く)	8	11.1%
6. 難病の指定を受けている	1	1.4%
記入無	1	1.4%
計	72	100.0%



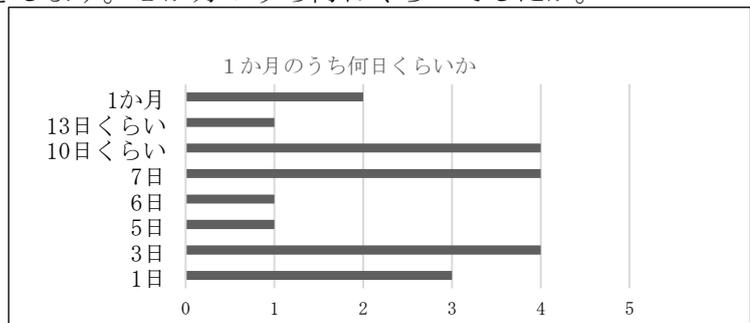
Q18-1 最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、仕事や学校を休んだり、家事ができなかったことはありますか。

1. なかった	42	67.7%
2. あった	20	32.3%
計	62	100.0%



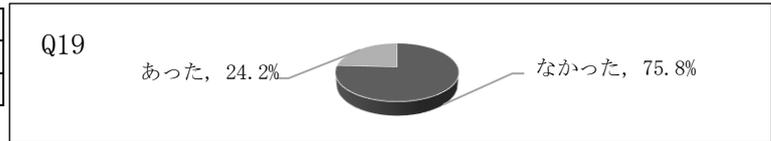
Q18-2 「2. あった」と答えた方にお聞きします。1か月のうち何日くらいでしたか。

1日	3	15.0%
3日	4	20.0%
5日	1	5.0%
6日	1	5.0%
7日	4	20.0%
10日くらい	4	20.0%
13日くらい	1	5.0%
1か月	2	10.0%
計	20	100.0%



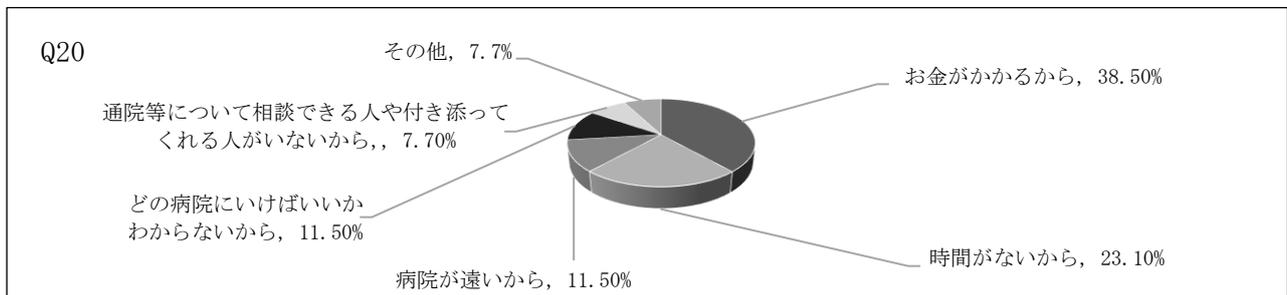
Q19 過去1年間に、病院や歯医者に行きたいのに、行けなかったことがありますか。

1. なかった	47	75.8%
2. あった	15	24.2%
計	62	100.0%



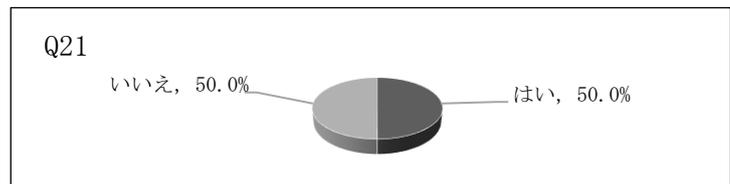
Q20 前のQ19で「2. あった」と回答した方にお聞きします。その理由として、当てはまるものを選んでください。（複数回答）

1. お金がかかるから	10	38.5%
2. 保険証がないから	1	3.8%
3. 時間がないから	6	23.1%
4. 病院が遠いから	3	11.5%
5. 通院等について相談できる人や付き添ってくれる人がいないから	2	7.7%
6. どの病院にいけばいいかわからないから	3	11.5%
7. コロナの時、病院が混んでいて受け入れて貰えなかった	1	3.8%
計	26	100.0%



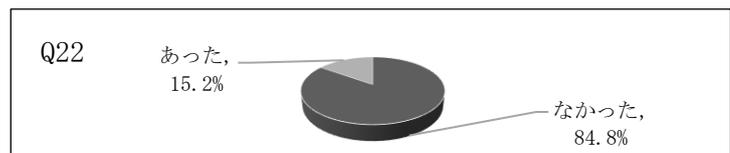
Q21 施設等で生活していた時に治療・通院・カウンセリング等を受けていましたか。

1. はい	31	50.0%
2. いいえ	31	50.0%
計	62	100.0%



Q22 前のQ21で「1. はい」を選んだ方にお聞きします。施設等を退所した後に、治療・通院・カウンセリング等を受けたいけれど受けられなくなったことがありますか。

1. なかった	28	84.8%
2. あった	5	15.2%
計	33	100.0%



※Q21の1の回答数は31だったが、この設問での回答は33であった。理由は不明のためそのまま掲載した。

Q23 前の Q22 で「2. あった」を選んだ人にお聞きします。治療・通院等がしづらくなった理由は何ですか。（複数回答）

1. お金がかかるから	3	27.3%
2. 保険証がないから	1	9.1%
3. 時間がないから	2	18.2%
4. 通院等について相談できる人や付き添ってくれる人がいないから	2	18.2%
5. 引っ越しなどで、今までの通院先やカウンセリング先に行けなくなったから	0	0.0%
6. どの病院にいけばいいかわからないから	2	18.2%
7. 病院に断られた	1	9.1%
計	11	100.0%

Q24 これまでに病院にかかった時、どのように治療費を支払いましたか。（複数回答）

1. 保険証を見せる	51	68.9%	
2. 医療券・調剤券を渡す	5	6.8%	
3. 全額を自費で払う	7	9.5%	
4. わからない	6	8.1%	
5. その他	言いたくない	2	2.7%
	施設にいる証明書カードを見せて無料でしてもらっていた	1	1.4%
	自立支援医療受給者証	1	1.4%
	指定難病などで無料	1	1.4%
計	74	100.0%	

分析（4）健康・医療のこと（Q17～24）

Q17 現在の心身の状態等として、当てはまるものを選んでください。

健康であるが 62.5%、残りの 37.5%は健康に問題がある。対象者が 10 代～20 代であることを考えると健康に問題がある人の率が高いように思われる。

Q18-1 最近 1 か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、仕事や学校を休んだり、家事ができなかったことはありますか。

1 ヶ月のうちの体調不良があった人が、回数者 62 人のうち 20 人と、かなり高率である印象があった。

Q18-2 Q18-1 で 「2. あった」と答えた方にお聞きします。1 か月のうち何日くらいでしたか。

体調不良があった 20 人のうち 2 人は 1 ヶ月全部、1 週間以内が 13 人、10 日～13 日が 5 人と、かなり心配な状況にある。

Q19 過去 1 年間に、病院や歯医者に行きたいのに、行けなかったことがありますか。

62 人中 15 人が病院や歯医者に行きたいのに、行けなかったことがあったと回答。

Q20 前の Q19 で「2. あった」と回答した方にお聞きします。その理由として、当てはまるものを選んでください。

「お金がかかるから」が、10 人あった。その他、時間がない、病院が遠い、どの病院に行けばいいかわからない、相談できる人や付き添ってくれる人がいないなど、様々な理由があった。金銭的理由で受診できず、健康を害してしまうことは何とか回避したいところであり、生活保護とは別の若者に対する支援が望まれる。

Q21 施設等で生活していた時に治療・通院・カウンセリング等を受けていましたか。

「はい」と「いいえ」がちょうど半数の 31 であった。

Q22 前の Q21 で「1. はい」を選んだ方にお聞きします。施設等を退所した後に、治療・通院・カウンセリング等を受けたいけれど受けられなくなったことがありますか。

Q22 は複数回答ではなかったもので、Q21 との関連でいうと 31 人の回答であるべきだったが、回答した 33 人中 5 名が受けられなくなったと答えている。

Q23 前の Q22 で「2. あった」を選んだ人にお聞きします。治療・通院等がしづらくなった理由は何ですか。

Q20 の回答と似た結果となっている。

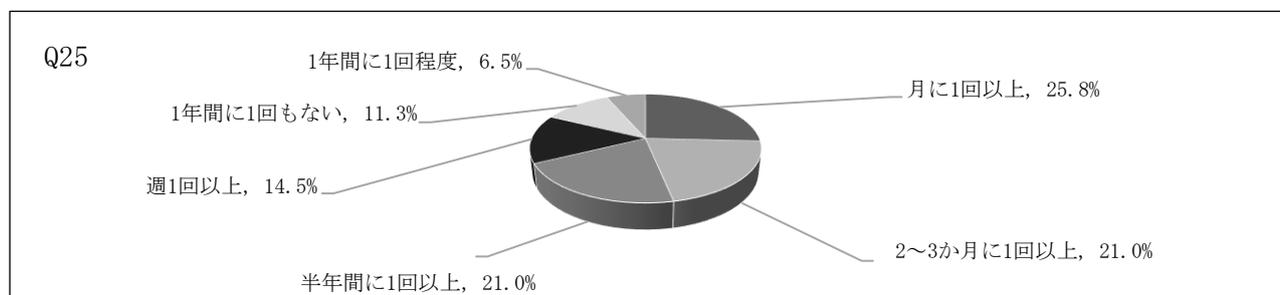
Q24 これまでに病院にかかった時、どのように治療費を支払いましたか。

保険証を持っていると思われる人が 51 人、その他医療券、社会的養護対象者である証明等を提示が 8 人。全額自費 7 人、わからない 6 人等、通院が難しい様子がある人も 13 人ほどいる。保険制度について理解ができていないのかも不安な状況である。

(5) 退所前・退所後のサポートのこと

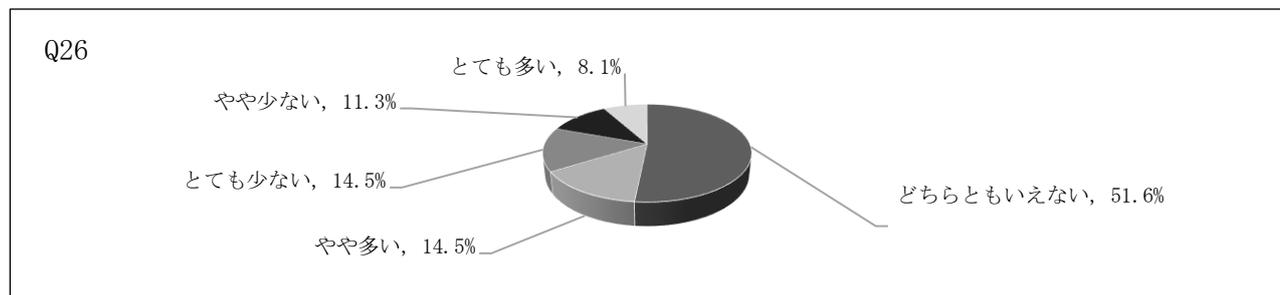
Q25 この 1 年間で、施設職員、里親、ファミリーホーム職員等とどのくらい連絡をとりましたか。
(「連絡」とは対面・手紙・電話・メール・SNS などによるもの)

1. 週 1 回以上	9	14.5%
2. 月に 1 回以上	16	25.8%
3. 2~3 か月に 1 回以上	13	21.0%
4. 半年間に 1 回以上	13	21.0%
5. 1 年間に 1 回程度	4	6.5%
6. 1 年間に 1 回もない	7	11.3%
計	62	100.0%



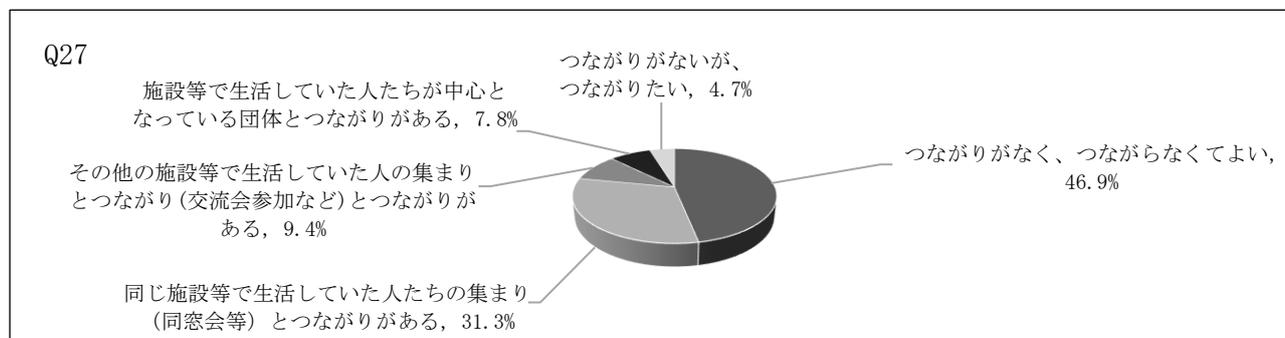
Q26 施設等との連絡の頻度は多いと感じますか、少ないと感じますか？

1. とても多い	5	8.1%
2. やや多い	9	14.5%
3. どちらともいえない	32	51.6%
4. やや少ない	7	11.3%
5. とても少ない	9	14.5%
計	62	100.0%



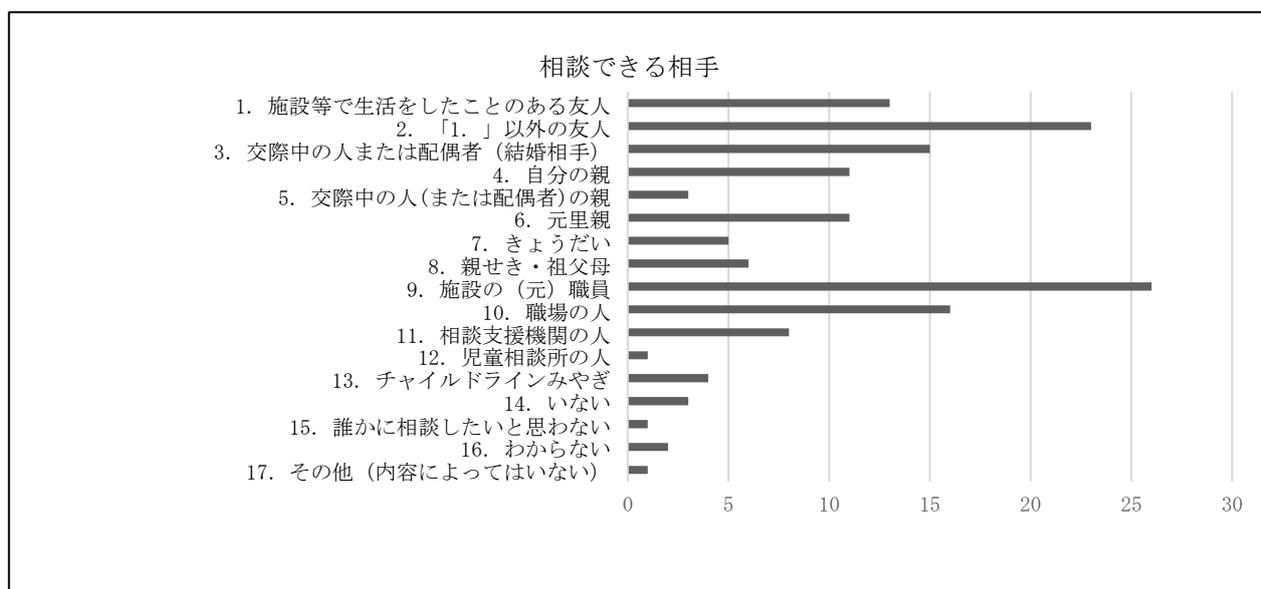
Q27 施設等で生活していた人たちの集まり（交流会）や団体とのつながりや関わりはありますか。（複数回答）

1. 同じ施設等で生活していた人たちの集まり（同窓会等）とつながりがある	20	31.3%
2. 施設等で生活していた人たちが中心となっている団体とつながりがある	5	7.8%
3. 1・2以外の施設等で生活していた人の集まりとつながり（交流会参加など）とつながりがある	6	9.4%
4. つながりがないが、つながりたい	3	4.7%
5. つながりがなく、つながらなくてよい	30	46.9%
計	64	100.0%



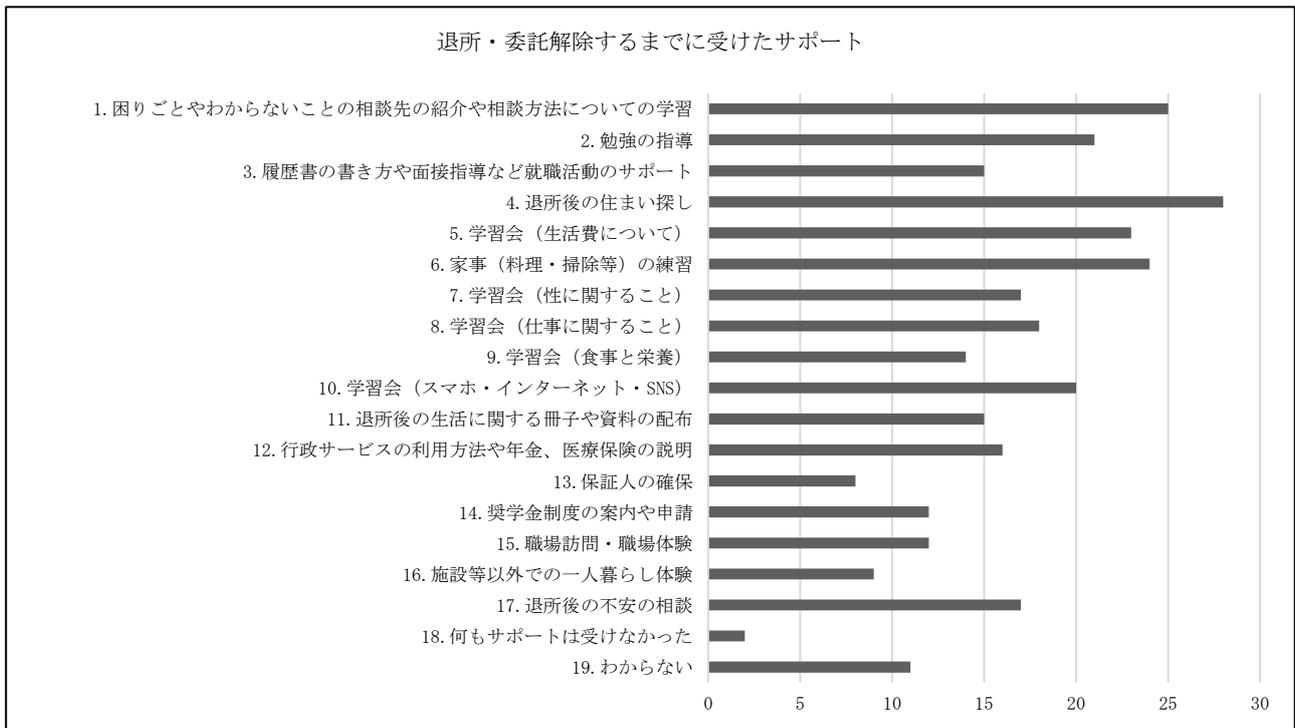
Q28 もし困ったことがあったときに、相談できる相手はだれ（どこ）ですか。（複数回答）

1. 施設等で生活をしたことのある友人	13	8.7%
2. 「1.」以外の友人	23	15.4%
3. 交際中の人または配偶者（結婚相手）	15	10.1%
4. 自分の親	11	7.4%
5. 交際中の人（または配偶者）の親	3	2.0%
6. 元里親	11	7.4%
7. きょうだい	5	3.4%
8. 親せき・祖父母	6	4.0%
9. 施設の（元）職員	26	17.4%
10. 職場の人	16	10.7%
11. 相談支援機関の人	8	5.4%
12. 児童相談所の人	1	0.7%
13. チャイルドラインみやぎ	4	2.7%
14. いない	3	2.0%
15. 誰かに相談したいと思わない	1	0.7%
16. わからない	2	1.3%
17. その他（内容によってはいない）	1	0.7%
計	149	100.0%



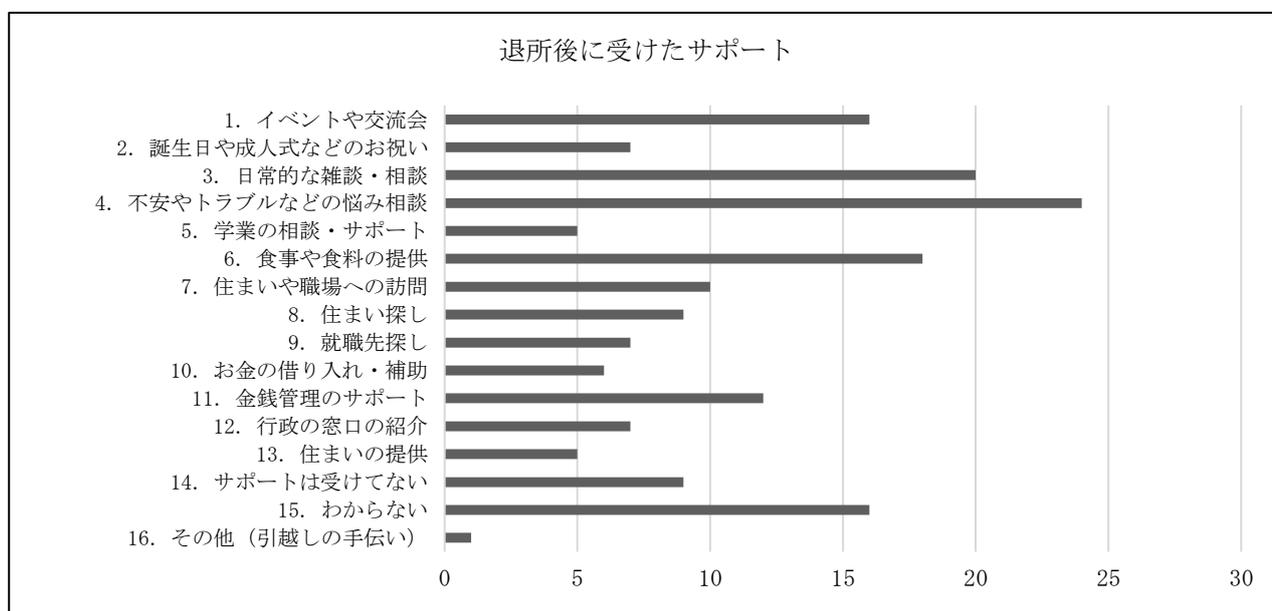
Q29 施設にいる間や退所するまでに、どのようなサポートを受けたり、学習会で学んだりしましたか。(複数回答)

1. 困りごとやわからないことの相談先の紹介や相談方法についての学習	25	8.1%
2. 勉強の指導	21	6.8%
3. 履歴書の書き方や面接指導など就職活動のサポート	15	4.9%
4. 退所後の住まい探し	28	9.1%
5. 学習会（生活費について）	23	7.5%
6. 家事（料理・掃除等）の練習	24	7.8%
7. 学習会（性に関すること）	17	5.5%
8. 学習会（仕事に関すること）	18	5.9%
9. 学習会（食事と栄養）	14	4.6%
10. 学習会（スマホ・インターネット・SNS）	20	6.5%
11. 退所後の生活に関する冊子や資料の配布	15	4.9%
12. 行政サービスの利用方法や年金、医療保険の説明	16	5.2%
13. 保証人の確保	8	2.6%
14. 奨学金制度の案内や申請	12	3.9%
15. 職場訪問・職場体験	12	3.9%
16. 施設等以外での一人暮らし体験	9	2.9%
17. 退所後の不安の相談	17	5.5%
18. 何もサポートは受けなかった	2	0.7%
19. わからない	11	3.6%
計	307	100.0%



Q30 施設等を退所した後、退所した施設等や相談支援機関(チャイルドラインみやぎを含む)から、どのようなサポートを受けましたか。(複数回答)

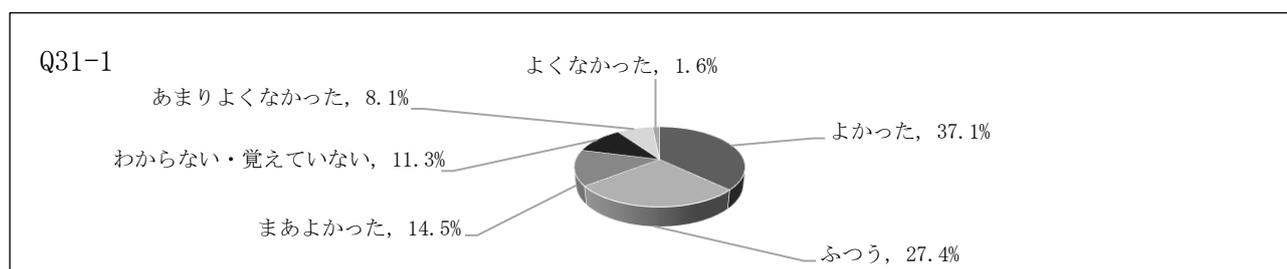
1. イベントや交流会	16	9.3%
2. 誕生日や成人式などのお祝い	7	4.1%
3. 日常的な雑談・相談	20	11.6%
4. 不安やトラブルなどの悩み相談	24	14.0%
5. 学業の相談・サポート	5	2.9%
6. 食事や食料の提供	18	10.5%
7. 住まいや職場への訪問	10	5.8%
8. 住まい探し	9	5.2%
9. 就職先探し	7	4.1%
10. お金の借り入れ・補助	6	3.5%
11. 金銭管理のサポート	12	7.0%
12. 行政の窓口の紹介	7	4.1%
13. 住まいの提供	5	2.9%
14. サポートは受けてない	9	5.2%
15. わからない	16	9.3%
16. その他(引越しの手伝い)	1	0.6%
計	172	100.0%



Q31 施設等で生活していたときから現在までをふり返って、これまで受けたサポートをどう思っていますか。①～⑥それぞれについて、教えてください。

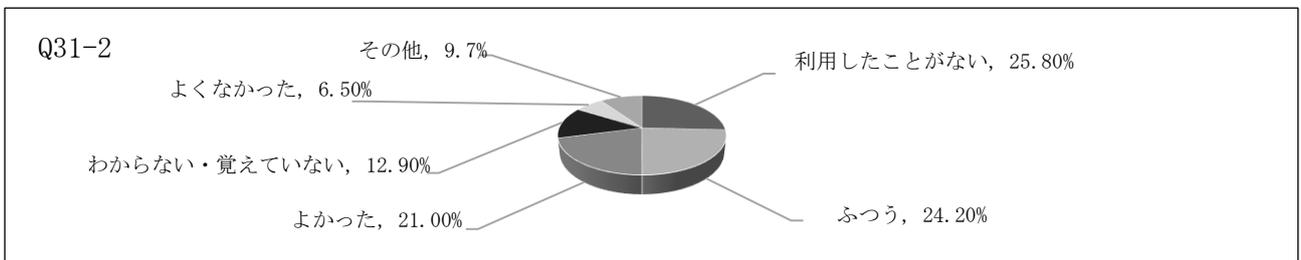
①児童相談所の職員の対応

1. よくなかった	1	1.6%
2. あまりよくなかった	5	8.1%
3. ふつう	17	27.4%
4. まあよかった	9	14.5%
5. よかった	23	37.1%
6. わからない・覚えていない	7	11.3%
計	62	100.0%



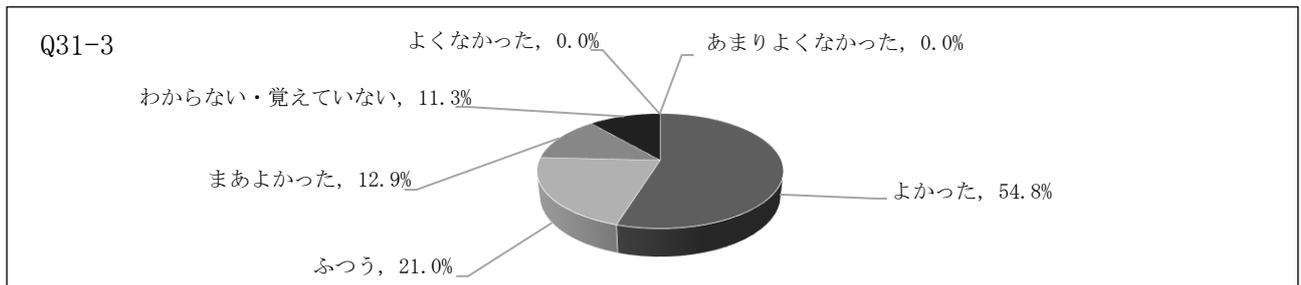
②一時保護所の職員の対応

1. よくなかった	4	6.5%
2. あまりよくなかった	2	3.2%
3. ふつう	15	24.2%
4. まあよかった	4	6.5%
5. よかった	13	21.0%
6. わからない・覚えていない	8	12.9%
7. 利用したことがない	16	25.8%
計	62	100.0%



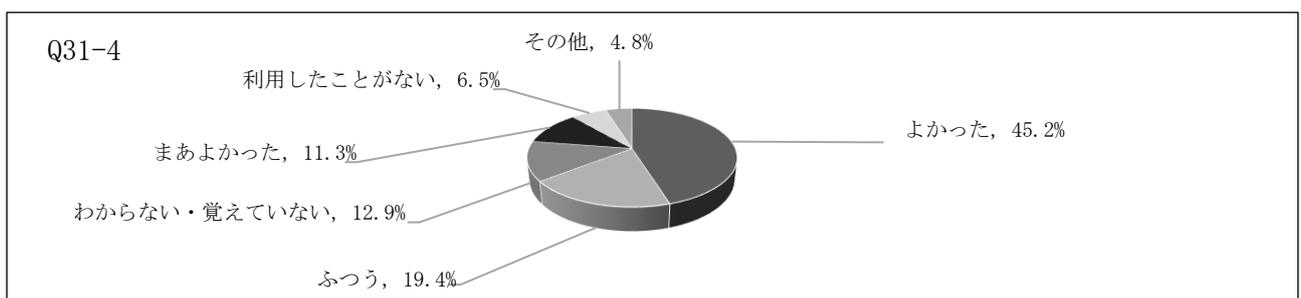
③施設等での生活・施設職員等の対応

1. よくなかった	0	0.0%
2. あまりよくなかった	0	0.0%
3. ふつう	13	21.0%
4. まあよかった	8	12.9%
5. よかった	34	54.8%
6. わからない・覚えていない	7	11.3%
計	62	100.0%



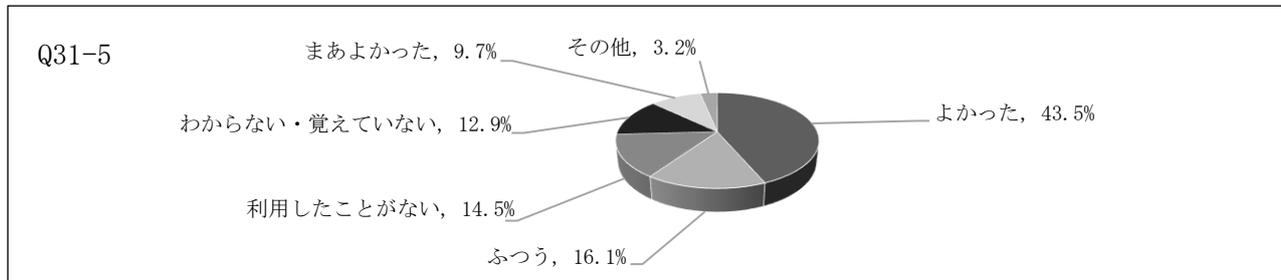
④退所に向けたサポート

1. よくなかった	0	0.0%
2. あまりよくなかった	3	4.8%
3. ふつう	12	19.4%
4. まあよかった	7	11.3%
5. よかった	28	45.2%
6. わからない・覚えていない	8	12.9%
7. 利用したことがない	4	6.5%
計	62	100.0%



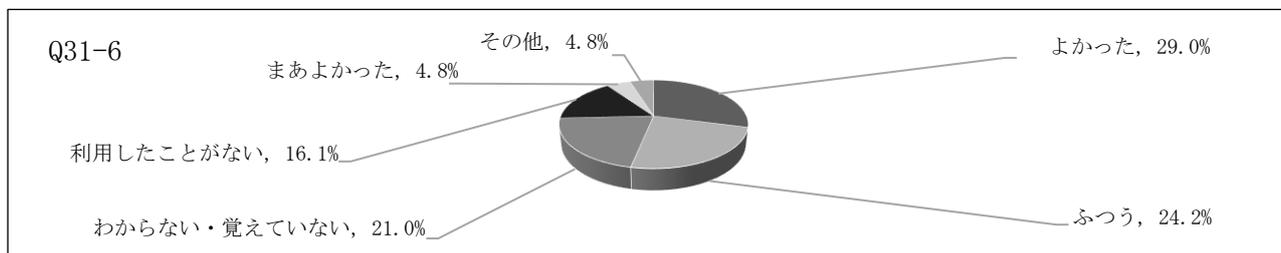
⑤退所後の施設等からのサポート

1. よくなかった	0	0.0%
2. あまりよくなかった	2	3.2%
3. ふつう	10	16.1%
4. まあよかった	6	9.7%
5. よかった	27	43.5%
6. わからない・覚えていない	8	12.9%
7. 利用したことがない	9	14.5%
計	62	100.0%



⑥退所後の施設等以外からのサポート

1. よくなかった	2	3.2%
2. あまりよくなかった	1	1.6%
3. ふつう	15	24.2%
4. まあよかった	3	4.8%
5. よかった	18	29.0%
6. わからない・覚えていない	13	21.0%
7. 利用したことがない	10	16.1%
計	62	100.0%



Q32 前の Q31 について、今後改善してほしいことなどがあれば具体的に教えてください。

(自由記述)

どこに行って相談しても途中でうまくいかなくなる
一時保護所の職員の態度の悪さや生活のスタイルが、児童にとって、とてつもなくストレスがあるように感じたため、根本を見つめ直した方がよいと思われる。(トラウマを刺激する可能性もあるため) また、現在は退職済みだが、200X年度の職員に不適切な対応を受けたことがあるので要注意。
会ったことがない人だと、何事もお願ひするハードルが非常に高いため、あまり気安くチャイルドラインさんなどを利用できない
子供の成長は環境によって左右されることだと思います。 子供一人一人が心に傷をつけながら児童相談所などにいるため「あたたかい」環境というのは大事なのかと考えています。いろいろな子供がいますがぜひ手をさしのべてほしいと思います。
仙台以外にサポートしてくれるところがあればいい。それか元の施設の人が時間できるようになればいい。

Q33 施設等を退所する前に、不安だったことや心配だったことはどんなことでしたか。

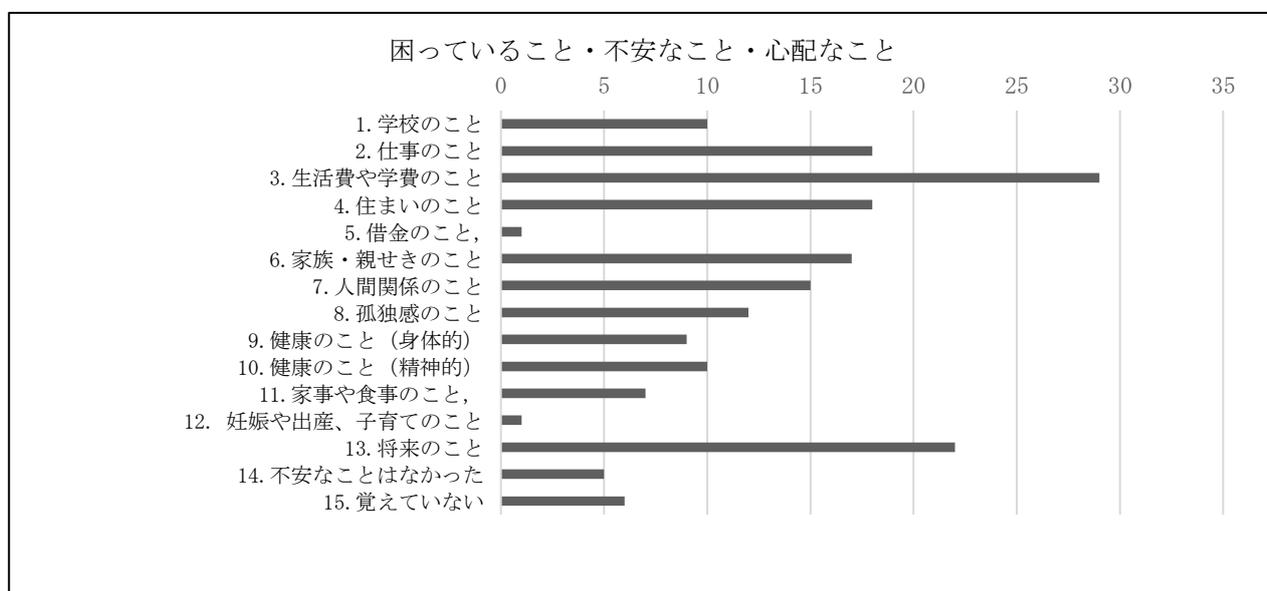
(複数回答)

1. 学校のこと	10	5.6%
2. 仕事のこと	18	10.0%
3. 生活費や学費のこと	29	16.1%
4. 住まいのこと	18	10.0%
5. 借金のこと	1	0.6%
6. 家族・親せきのこと	17	9.4%
7. 人間関係のこと	15	8.3%
8. 孤独感のこと	12	6.7%
9. 健康のこと (身体的)	9	5.0%
10. 健康のこと (精神的)	10	5.6%
11. 家事や食事のこと	7	3.9%
12. 妊娠や出産、子育てのこと	1	0.6%
13. 将来のこと	22	12.2%
14. 不安なことはなかった	5	2.8%
15. 覚えていない	6	3.3%
計	180	100.0%

Q34 現在の暮らしのなかで、困っていること、不安なこと、心配なことはありますか。

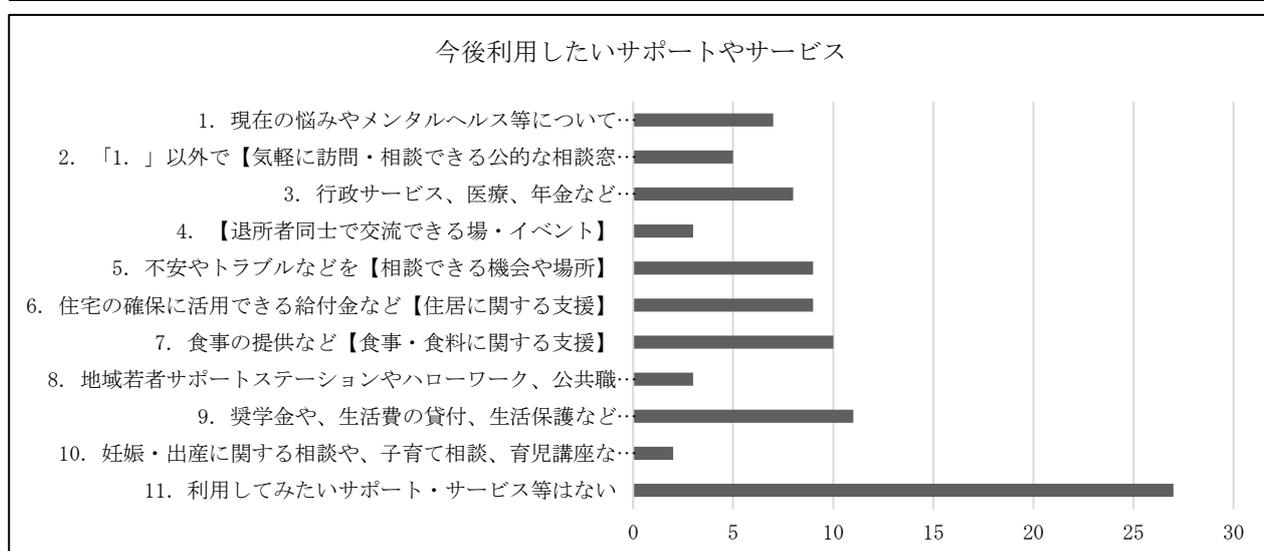
(複数回答)

1. 学校のこと	3	2.1%	
2. 仕事のこと	12	8.5%	
3. 生活費や学費のこと	19	13.4%	
4. 住まいのこと	8	5.6%	
5. 借金のこと	4	2.8%	
6. 家族・親せきのこと	8	5.6%	
7. 人間関係のこと	12	8.5%	
8. 孤独感のこと	10	7.0%	
9. 健康のこと (身体的)	9	6.3%	
10. 健康のこと (精神的)	10	7.0%	
11. 家事や食事のこと	4	2.8%	
12. 妊娠や出産、子育てのこと	2	1.4%	
13. 将来のこと	23	16.2%	
14. 困っていることはない	13	9.2%	
15. その他	人のお金を盗ってしまったこと	3	2.1%
	この国の未来	1	0.7%
	就職後のこと	1	0.7%
計	142	100.0%	



Q35 現在の暮らしのなかでの不安・心配なことに対して、今後利用したいサポートやサービスはありますか。（複数回答）

1. 現在の悩みやメンタルヘルス等について電話や SNS で相談できる【非対面の相談窓口】	7	7.4%
2. 「1.」以外で【気軽に訪問・相談できる公的な相談窓口】	5	5.3%
3. 行政サービス、医療、年金など【公的な制度・サービスに関する情報の提供】	8	8.5%
4. 【退所者同士で交流できる場・イベント】	3	3.2%
5. 不安やトラブルなどを【相談できる機会や場所】	9	9.6%
6. 住宅の確保に活用できる給付金など【住居に関する支援】	9	9.6%
7. 食事の提供など【食事・食料に関する支援】	10	10.6%
8. 地域若者サポートステーションやハローワーク、公共職業訓練など【就業・就労に関する支援】	3	3.2%
9. 奨学金や、生活費の貸付、生活保護などの【金銭面に関する支援】	11	11.7%
10. 妊娠・出産に関する相談や、子育て相談、育児講座など【妊娠・出産・子育てに関する支援】	2	2.1%
11. 利用してみたいサポート・サービス等はない	27	28.7%
計	94	100.0%



Q36 いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望があれば教えてください。犬を飼いたい、資格を取りたいなど、転職したい、結婚したいなど、自由に記入してください。（自由記述）

お金がほしい
お金を稼ぐ
お金を貯めたい
サッカー選手
とりあえず自活できるようになること。
ねこを飼いたい。
バイトをしてお金を貯めて友達と遊びたい
ひとり暮らし 一般就労
引っ越して結婚して子供も産む
何に対してもやる気が出ず、やりたいことも特にない。正直自分の未来に希望はないと思っている。逃げたい。
海外に住んでみたい
結婚をして子供がいる家庭を築きたい
健康的に過ごしたい。（去年の10月に気管支炎にかかったから）
元気になりたい 不安にならないようになりたい
後悔がないように生きられればいい。
国家試験に向けて勉強中です
今現在将来のために貯金している。

仕事を長くつづけてちょきんをためる。わるい事をしないようになりたい。
資格を取りたい、ペットが欲しい、結婚したい
自立して生活したい
車が欲しい、私生活を豊かにしたい、仕事もがんばりたい
車の免許を取りたい。
就活頑張る！
就職したい
精神面での悩みやストレスを少しでも減らしたい
動物を飼う、色々な資格を取りたい
猫を飼いたい。プログラミングの資格を取りたい。親友や恋人など、頼れる人を作る。
猫を飼いたいと思っている
彼女を作る。
墓石をたてたい
システムエンジニアの資格をとりたい。
結婚したい。

Q37 前の Q36 のことを実現するためには、どのようなサポートやサービスなどがあってほしいと思いますか。（自由記述）

ホームの職員さんともっと関わってもらえたらありがたいと思います
一緒にアパートや仕事を探してくれるところ
応援すること？ 嬉しいから！
合コン
今までどおりだれかに近くでみまってもらいたい。
資金制度
児童がやってみたいことを早いうちに引き出してあげる。（本人も知らないようなことも）サポートがあればなおよい。
自信をもつ
奨学金の返済サポート等があると助かります
相談できる機会や場所
食糧支援
貸与型の貸付とかがあればいいなど思ったことはあります。
特にありません（5名）
わかりません（2名）

分析（5）退所前・退所後のサポートのこと（Q25～Q37）

Q25 この1年間で、施設職員、里親、ファミリーホーム職員等とのくらい連絡をとりましたか。（「連絡」とは対面・手紙・電話・メール・SNSなどによるもの）

週1回以上が14.5%あるのに対し、1年に1回もないのが11.3%と、かなり差がある。平均的には半年間に1回程度くらいか。

Q26 施設等との連絡の頻度は多いと感じますか、少ないと感じますか？

どちらともいえない、やや少ない、とても少ない、を合わせて77.4%となっている。

Q27 施設等で生活していた人たちの集まり（交流会）や団体とのつながりや関わりはありますか。

つながりがなく、つながらなくてよいが46.9%を占めた。理由を聞く項目があっても良かったかもしれない。次いで、同じ施設等で生活していた人たちの集まり（同窓会等）とつながりがあるという人が31.3%あった。「3. 1・2以外の施設等で生活していた人の集まりとつながり（交流会参加など）とつながりがある」の回答が6人あった。「4. つながりが無いが、つながりたい」という人に情報を届ける方法を工夫する必要がある。

Q28 もし困ったことがあったときに、相談できる相手はだれ（どこ）ですか。

施設職員（元を含む）が最多で17.4%、施設以外の友人が15.4%、職場の人が10.7%、交際中の人10.1%、施設内での友人8.7%、親と元里親が7.4%、親、きょうだい、祖父母、親戚などを合わせた親族が11.7%と、意外に親族との交流がある人が多いことがわかった。1以外の友人が15%と多いが、通学中の対象者が多いこともあって、友人に相談しているためと思われる。職場の人など、新たな人間関係ができてきている様子もうかがえる。

Q29 施設にいる間や退所するまでに、どのようなサポートを受けたり、学習会で学んだりしましたか。

退所後の住まい探しが最多となっており、住居確保が困難であることや、本人が行う最初の大きな契約ということで、サポートを受けることが多かったと思われる。次いで多かったのが、1. 困りごとやわからないことの相談先の紹介や相談方法についての学習であったが、誰にどのような相談をしたかの質問もあるとよかったと思われた。

仙台市児童養護施設入所児童等自立支援事業では、「学習会」「施設以外での一人暮らし体験」「職場訪問・体験」を実施していた。この事業の対象者は当初施設が設置されている仙台市の事業として開始されたが、のちに入所施設や措置元では対象者を分けず、すべての入所児童や里親委託児童を対象を広げている。

「学習会」とは、ソーシャルスキル習得を目指し、主に児童養護施設内で様々なテーマで専門の講師が行ったものであり、「施設以外での一人暮らし体験」は、受託者が借り上げているアパートで、対象者が日帰りで調理、洗濯、掃除などを行うと共に、防犯やゴミ出しのルールなど、施設とアパートでの一人暮らしの違いを体験するものである。また、受託者が企業などと共に立案して、職場訪問・体験を行った。コロナ禍で中止も多かったが、今回の統計上92人が学習会を、9人が施設外での一人暮らし体験を選択し、全体の32.9%となっていることで、成果の一端が見られた。一方で、何もサポートは受けなかった、わからないと回答した人が13人あることも見逃せない。

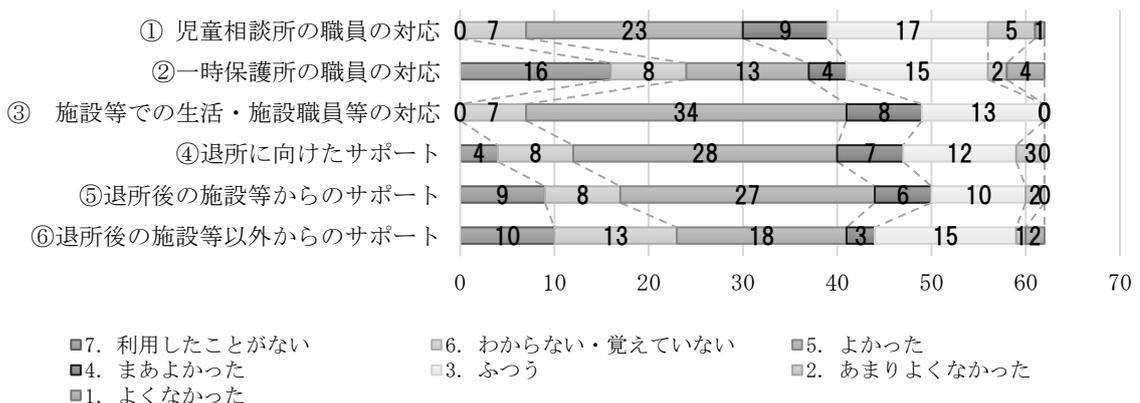
Q30 施設等を退所した後、退所した施設等や相談支援機関(チャイルドラインみやぎを含む)から、どのようなサポートを受けましたか。

1位が不安やトラブルなどの悩み相談、2位が日常的な雑談・相談、3位が食事や食料の提供、4位がイベントや交流会、5位が金銭管理のサポートとなっている。相談などについては誰かとつながっている状況と思われるが、食事や食料の提供を受けていることや、金銭管理のサポートを受けていることについては、日常生活が困難である状況も想像される。

Q31 施設等で生活していたときから現在までをふり返って、これまで受けたサポートをどう思っていますか。①～⑥それぞれについて、教えてください。

児童相談所と一時保護所の職員の対応の評価がやや低めだが「ふつう、まあよかった、よかった」一時保護所の対応について「わからない、覚えていない、利用したことがない」の回答が多かった。退所後のサポートについても同様の傾向が見られた。以下は比較したグラフ。

これまでに受けたサポートについて



Q32 前の Q31 について、今後改善してほしいことなどがあれば具体的に教えてください。（自由記述）

一時保護所の対応について、訴えている人があった。

会ったことがないと気安く依頼できないという指摘があった。できるだけ入所中に対象者と出会うべくしておくこと、措置解除直前ではなく、1 年位前から児童相談所や里親と本人に出会って、アフターケアができる体制づくりを行う必要がある。

全国で社会的養護自立援助事業を行っている事業所は増加しており、そのネットワークも広がっている。実際に他県の事業所につなげた事例もあるので、対象者や施設・里親への広報を強化すべきと思われる。

Q33 施設等を退所する前に、不安だったことや心配だったことはどんなことでしたか。

生活費や学費のことが 16%、将来のことが 12%、仕事のことと住まいのことがどちらも 10%、次いで家族・親戚のことが 9%と続いている。一人暮らしが多い割に、家族・親戚のことを 17 人挙げている。多くは親の虐待で社会的養護となった対象者が、退所後家族や親戚との間にどのような問題があるのか、詳細な聞き取りがあるとよいのではないかと思われる。

Q34 現在の暮らしのなかで、困っていること、不安なこと、心配なことはありますか。

将来に不安を持ち、生活費・学費などお金のこと、次いで仕事、人間関係、孤独感、精神的健康などに不安を持っている人が多い。

Q35 現在の暮らしのなかでの不安・心配なことに対して、今後利用したいサポートやサービスはありますか。

利用してみたいサポートはないという回答が多かったが、次いで、「奨学金、生活費の貸付、生活保護など金銭面に関する支援」「食事・食料に関する支援」「住居の確保に活用できる給付金など」の希望が多かった。相談窓口は多くあるが、どこへ行ったらよいかわからない、相談を躊躇するなど、実際には相談していない様子が見える。気軽な相談窓口としてアフターケア事業を利用してもらえるよう、退所までに本人に事業内容を伝えることができる体制が望まれる。

Q36 いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望があれば教えてください。犬を飼いたい、資格を取りたいなど、転職したい、結婚したいなど、自由に記入してください。（自由記述）

お金	6
自活・住まい	6
資格	5
ペット	5
仕事・将来	5
結婚	4
友達・恋人	2
健康	2
子ども	2
車・免許	2
未来に希望はない	1
悩み・ストレスの解消	1
墓石をたてる	1
後悔しない生活をした	1
	43

対象者の記載内容を左表のように分類してみたところ、お金に関すること、自活や住まいに関するものが 6 人ずつ、資格、ペット、仕事・将来が 5 人ずつ、結婚 4 人、友達・恋人、健康、子ども、車・免許が 2 人ずつであった。資格を取りたいという回答も多かったが、時間や経費の関係で難しさもあるのではないかと想像される。運転免許など入所中にとれたら良い資格などもあった。ひとり暮らしの寂しさからか、ペット（猫）を飼いたいという希望が多かった。ペットを飼える住居を確保するのも難しいのではないだろうか。未来に希望はないとか、墓石を立てるといった回答があったことが気になることである。

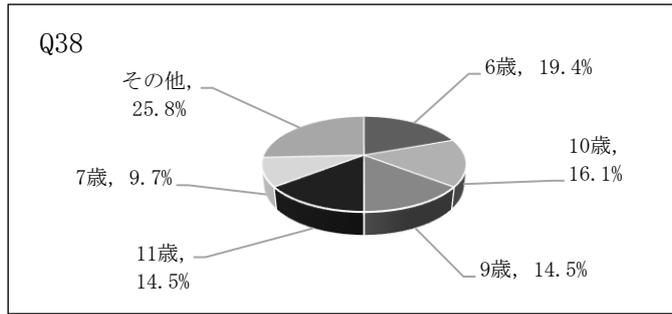
Q37 前の Q36 のことを実現するためには、どのようなサポートやサービスなどがあつたらいいと思いますか。（自由記述）

特になし、わからないが合わせて 7 人あった。見守りや相談先を望む内容が 6 人、資金制度や奨学金返済サポート等 3 人であったが、中には食糧支援を望むものもあり、生活の厳しい状況が見える。合コンについては、出会いと将来の結婚・子どもを望むことにつながっていると思われるが、進学者に比べ、就職者は出会いの場が少ないことも想像できる。

(6) その他

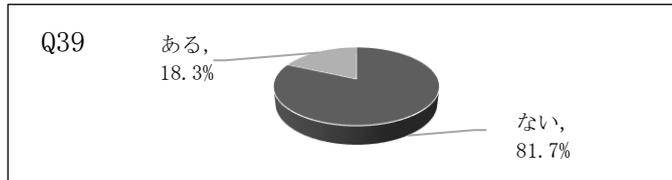
Q38 東日本大震災の時（2011年3月11日）何歳でしたか。

4歳	2	3.2%
5歳	3	4.8%
6歳	12	19.4%
7歳	6	9.7%
8歳	5	8.1%
9歳	9	14.5%
10歳	10	16.1%
11歳	9	14.5%
12歳	1	1.6%
未記入	5	8.1%
計	62	100.0%



Q39 東日本大震災の影響を感じることがありますか。

1. ある	11	18.3%
2. ない	49	81.7%
計	60	100.0%



Q40 前のQ39で「ある」と答えた方にお聞きします。それほどのようなことか教えてください。
(自由記述)

2024.1.1の能登半島地震での映像を見たとき徐々に恐怖を感じた。
ご飯食べてる時とかに家族がいたらな、と考えることがある
サイレンの音やアラームの音が異常に怖く感じる。
また来て欲しくない。
家が無くなった
周囲の環境
精神面での影響
地震の時に喘息と過呼吸が出やすい
地鳴りが怖い、音が怖い
当時の映像や記録が見られない。
目の前で家も人もながされた

分析 (6) その他

東日本大震災の影響

Q38 東日本大震災の時（2011年3月11日）何歳でしたか。

4歳から12歳まで存在したが、6歳12人、10歳10人、9歳・11歳が9人で、小学生以下だった。

Q39 東日本大震災の影響を感じることがありますか。

影響を感じることが「ある」と感じている人は18%で11人あった。

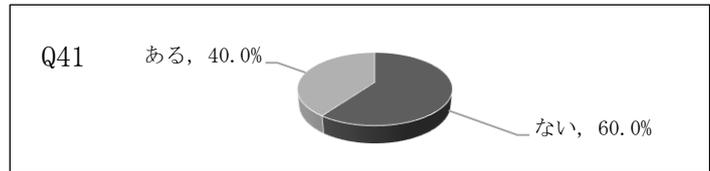
今回回答した人の3倍の調査対象者がいるので、この項目の回答数を単純に3倍と考えると、対象者のうち33人ほどがトラウマを抱えているのではないかと懸念される。対象者の中には、被災の結果、親族を失って社会的養護となった人もある。最近発生した能登半島地震などの報道を見て、フラッシュバックを起こしていないかなども気がかりで、今後も慎重な支援が必要となっている。

Q40 前の Q39 で「ある」と答えた方にお聞きします。それほどのようなことか教えてください。

家をなくした、家族を亡くした、人が流されるのを見たなど、当時の記憶が忘れられない人や、サイレンやアラームの音に恐怖を感じるなどのほか、心身に影響が出たりしていることも記載されている。東日本大震災後の調査では、震災の体験が自分の子育てにも影響している若者の事例も報告されているため、これらの対象者にはまだケアが必要と思われるため、アフターケアとしても心のケアに取り組んでいく必要があると思われた。

1 新型コロナウイルス感染症の影響を感じたことはありますか。

1. ある	24	40.0%
2. ない	36	60.0%
計	60	100.0%

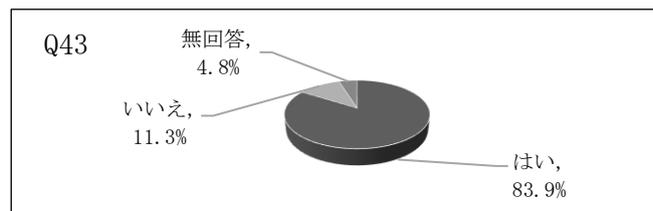


Q42 前の Q41 で「ある」と答えた方にお聞きします。それはどのようなことか教えてください。
(自由記述)

オンラインで行う行事が増えて、便利になったと考える
お店が減った
マスクをしていたり、予防の意識が国民全員に根付いてきたと感じるため。
マスクを常備するようになったことなど
学校に行けなかった
学校行事の制限。
去年の12月頃コロナウイルスにかかった
現在通学している大学の学生生活が半分以上オンラインになった。
行動があまりできず青春ができなかった。
高校生活がコロナで行事がなくなったりしたから
仕事上コロナの影響をもちに受ける職業なので、仕事量が増える。
自分がかかったから
授業がオンラインの時期があったこと 外に出られない時期があったこと
人に会うことが減った
人前でマスクを外すのが嫌になった
大学がほとんどオンライン授業だったこと。
中高での学校、施設での生活
物価が高くなった。
無駄なマスクを着用しなければならない
罹患したからです

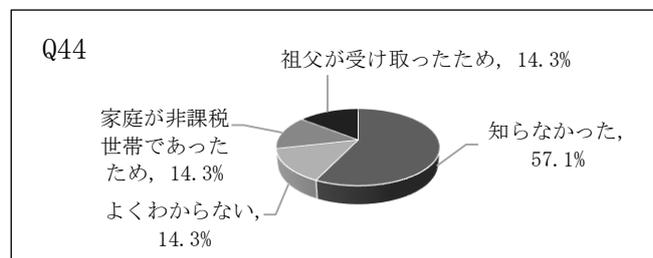
Q43 2020年に実施された、新型コロナウイルス感染症対策の国民1人10万円の特別定額給付金は受け取りましたか。

1. はい	52	83.9%
2. いいえ	7	11.3%
無回答	3	4.8%
計	62	100.0%



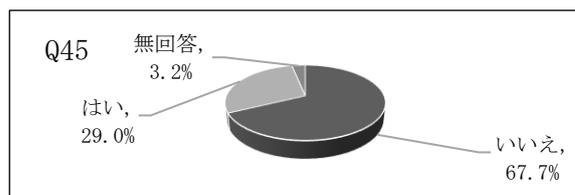
Q44 前の Q43 で「いいえ」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。

1. 知らなかった	4	57.1%	
その他	よくわからない	1	14.3%
	家庭が非課税世帯であったため。	1	14.3%
	祖父が受け取ったため。	1	14.3%
計	7	100.0%	



Q45 宮城県で「社会的養護自立支援事業」を、仙台市で「仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア事業」（同封の青い鳥イラスト三つ折りパンフレット参照）としてアフターケアをしていることを知っていましたか。

1. はい	18	29.0%
2. いいえ	42	67.7%
無回答	2	3.2%
計	62	100.0%



新型コロナウイルス感染症の影響

Q41 新型コロナウイルス感染症の影響を感じたことはありますか。

「ある」が24人で40%、「ない」が36人で60%。日本で流行したのは2020年からのので、そのころ学生だったり、就労していたりした人はかなり影響を受けていると思われる。

Q42 前のQ41で「ある」と答えた方にお聞きします。それはどのようなことか教えてください。

自分が罹患した、学生時代を十分に感じられなかった、マスクを常時着けていることや、仕事への影響があったなど、様々な影響があったことが記載されている。

Q43 2020年に実施された、新型コロナウイルス感染症対策の国民1人10万円の特別定額給付金は受け取りましたか。

かなり話題になったことで、情報が行き届いた結果と思われる。「はい」が52人で83.9%と、ほとんどの人は受け取っていたが、11.3%の7人は受け取っていなかった。

Q44 前のQ43で「いいえ」と答えた方にお聞きします。それはなぜですか。

受け取らなかった7人のうち、「知らなかった」という人が5人あった。アフターケア事業の中では、郵便が来ても開封しないという人も多いので、書類を見ることもなかったことも考えられる。

Q45 宮城県で「社会的養護自立支援事業」を、仙台市で「仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア事業」（同封の青い鳥イラスト三つ折りパンフレット参照）としてアフターケアをしていることを知っていましたか。

知っていた人が18人で29%というのはまだまだ広報が足りないということだが、Q29でのべ100人以上が学習会や一人暮らし体験を行った記憶があるにしては数値が低い。宮城県・仙台市の事業として行っているという認識がなかったかもしれない。

児童養護施設での学習会ではパンフレットを渡しているが、里子や養護施設以外の対象者に届いていないこともあるため、今後様々な機会に説明を行ったり、パンフレットを渡したり、オンラインのツールを使って対象者に届く広報ができればよい。

Q46 最後に、国や自治体（都道府県や市区町村）、施設等、里親に何か伝えたいことがあればメッセージを自由に記入して下さい。（自由記述）

ありがとうございました
ありがとうございます
お世話になりました。ありがとうございました。
すごく感謝しています。
里親に対して、ここまで立派に成長させて頂きとても感謝しています。 どのような形で恩を返せるか分からないのですが自分なりに頑張ってみます。本当に有難う御座います。
今まで手厚くサポートして頂きありがとうございました
天使園の皆サポートしてくれてありがとう
災害対策をしっかり行うようお願い致します。
施設を退所して2年目になりますが、一人暮らしに慣れません。 毎日毎日悲しい気持ちです。自分ひとりではなんにもできなくて、とても情けないです。
私は大学に行かせてもらっていますが、ほとんどの施設出身者は大学に行かず高校を卒業して働いています。 それが悪いことではないですが、大学に行くと可能性が広がると身をもって実感したので、そのようなチャンスがあれば施設出身の人達にもどんどんチャレンジしてもらいたいと感じていますし、そのような環境づくりも必要だと感じています。
自分の両親に会いたい
実親に実家にいた際虐待を受けたのに加え 36 万円取られたままです。どうにかしたいくらいです。
相談にのるって色んなところの人は言うけど、結局、何かしてくれるのは元いた施設
ガソリン安くして
虐待される子供たちが1日でも早く減りますように。

B. 施設対象調査結果

凡例

- ①以下、表中の単位のない数値は、但し書きのない限り、人数または件数を表す。
- ②「チャイルドラインみやぎ」とは、宮城県より社会的養護自立支援事業業務を、仙台市より仙台市児童養護施設入所児童等自立支援事業を受託し、対象者のアフターケアも行っている「特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ」のこと。
- ③調査項目大項目「（１）対象者の確認（２）基本属性（３）措置時点の状況（４）措置解除時の状況（５）措置解除後の状況（６）貴所とのつながり（７）直近１年間で把握できている生活（８）現在の困難（９）施設退所者などへのアフターケアの状況」ごとに、回答結果の表やグラフを記載した。その後の囲み部分は、回答結果を分析した文章を記載している。
- ④児童養護施設、自立援助ホーム、ファミリーホーム、児童自立支援施設ごとの表で２段になっているところについて
 - ・施設種類、回答項目別の縦計は施設種類ごと各回答項目の数（項目ごと上段に記載）とパーセンテージ（項目ごと下段に記載＝100.0%）の合計を示す。
 - ・横合計はすべての施設の回答数の合計（項目ごと上段に記載）とパーセンテージ（項目ごと下段に記載）を表し、縦合計は以上の数（上段）とパーセンテージ（下段＝100.0%）を示す。

（１）対象者の確認

Q1 この調査の対象者 205 人

過去５年間（平成30年４月から令和５年３月）に、中学卒業以降で措置解除、委託解除及び援助解除となった児童等。

（２）基本属性

Q2 性別

問 2 施設別	女性		男性		計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
児童養護施設	60	52.6%	54	47.4%	114	100%
自立援助ホーム	24	42.1%	33	57.9%	57	100%
ファミリーホーム	8	66.7%	4	33.3%	12	100%
児童自立支援施設	8	36.4%	14	63.6%	22	100%
計	100	48.8%	105	51.2%	205	100%

Q3 貴施設の入所年数

問3	児童養護施設					自立援助ホーム					ファミリーホーム			児童自立支援施設	計		
	旭が丘学園	丘の家子どもホーム	小松島子どもの家	小百合園	天使園	ラ・サール・ホーム 昴	せんだんの家	まきばフリースクール	はやぶさ	ラパン	ロージ少年の家	きむらの家	ざおうホーム	どんぐりとやまねこ		みんなの家	さわらび学園
0～1年未満	1		1				5		2	1	7			1		3	21
1～2年未満	1	1	2			3	6	3	1		4			3		18	42
2～3年未満		1	1	4		2	5	4			4			1		1	23
3～4年未満	1	1		2	2	1	1	5				1					14
4～5年未満	1	1	1	2	1	9	1	5				1		1			23
5～6年未満		1		1	1			1									4
6～7年未満		1		3	3	1						1					9
7～8年未満	1				1	1											3
8～9年未満	1	1	2	2	2			1						1	1		11
9～10年未満	2	3			1	1											7
10～11年未満		1	1	2	1	1											6
11～12年未満				1	2	1											4
12～13年未満				1	2												3
13～14年未満		1			2												3
14～15年未満		2		1	3	3		1									10
15～16年未満		6		3	3	1							1				14
16～17年未満		4		1	2												7
17～18年未満		1															1
18～19年未満																	0
計	8	25	8	23	26	24	18	20	3	1	15	3	1	7	1	22	205
施設別計	114					57					12			22	205		

(3) 措置時点の状況

Q4 措置時点の養育者

問4	措置時点の養育者				計
	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	
1. 両親世帯	30	7	2	8	47
	26.3%	12.3%	16.7%	36.4%	22.9%
2. 父子世帯	19	5	2	3	29
	16.7%	8.8%	16.7%	13.6%	14.1%
3. 母子世帯	59	18	8	11	96
	51.8%	31.6%	66.7%	50.0%	46.8%
4. 親族・知人	6	5	0	0	11
	5.3%	8.8%	0.0%	0.0%	5.4%
5. その他	0	22	0	0	22
	0.0%	38.6%	0.0%	0.0%	10.7%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q5 措置時点の父母など主な養育者の状況（複数回答）

※「主な養育者」には、父母から養・継父母の場合、父母のどちらかの場合も含めてお答えください

問5	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 死亡・行方不明	8	3	0	0	11
	4.2%	4.2%	0.0%	0.0%	3.6%
2. 就労	15	2	1	0	18
	7.9%	2.8%	5.0%	0.0%	5.9%
3. 失業・不就労	5	4	2	2	13
	2.6%	5.6%	10.0%	7.7%	4.2%
4. 拘禁	7	0	1	0	8
	3.7%	0.0%	5.0%	0.0%	2.6%
5. 疾病・身体障害	6	1	1	0	8
	3.2%	1.4%	5.0%	0.0%	2.6%
6. 知的障害	12	1	0	0	13
	6.3%	1.4%	0.0%	0.0%	4.2%
7. 精神障害	31	4	2	4	41
	16.3%	5.6%	10.0%	15.4%	13.4%
8. 依存問題	9	1	0	0	10
	4.7%	1.4%	0.0%	0.0%	3.3%
9. DV	11	3	0	3	17
	5.8%	4.2%	0.0%	11.5%	5.5%
10. 経済的困難・低所得	38	12	4	1	55
	20.0%	16.9%	20.0%	3.8%	17.9%
11. 不安定な住環境	12	1	0	0	13
	6.3%	1.4%	0.0%	0.0%	4.2%
12. 不和・孤立	18	4	0	0	22
	9.5%	5.6%	0.0%	0.0%	7.2%
13. その他	15	12	9	16	52
	7.9%	16.9%	45.0%	61.5%	16.9%
14. わからない	3	23	0	0	26
	1.6%	32.4%	0.0%	0.0%	8.5%
計	190	71	20	26	307
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q6 措置時点の子どもの状況（被虐待経験）（複数回答）

※児童相談所から提示された主たる措置理由に限らずお答えください

問6	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. ネグレクト	50	20	1	7	78
	30.3%	24.4%	7.7%	29.2%	27.5%
2. 身体的虐待	45	15	1	5	66
	27.3%	18.3%	7.7%	20.8%	23.2%
3. 性的虐待	6	3	0	1	10
	3.6%	3.7%	0.0%	4.2%	3.5%
4. 心理的虐待	37	27	2	7	73
	22.4%	32.9%	15.4%	29.2%	25.7%
5. その他	5	1	5	0	11
	3.0%	1.2%	38.5%	0.0%	3.9%
6. 特になし	22	16	4	4	46
	13.3%	19.5%	30.8%	16.7%	16.2%
7. わからない	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	165	82	13	24	284
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q7 措置時点の子どもの障害等の状況（複数回答）

※「情緒障害」とは、何らかの要因により、感情・情緒が著しく不安定である状態が続くことで、学校生活や社会生活に適応できない状態のこと

問7	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 知的障害	19	8	0	5	32
	16.4%	10.3%	0.0%	20.0%	13.9%
2. 発達障害	2	13		12	27
	1.7%	16.7%	0.0%	48.0%	11.7%
3. 身体障害		8	1	0	9
	0.0%	10.3%	8.3%	0.0%	3.9%
4. 情緒障害	2	12	0	0	14
	1.7%	15.4%	0.0%	0.0%	6.1%
5. 精神障害	0	7	1	0	8
	0.0%	9.0%	8.3%	0.0%	3.5%
6. 難病	0	0	0	0	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7. 病弱	1	0	0	0	1
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%
8. その他	5	1	0	1	7
	4.3%	1.3%	0.0%	4.0%	3.0%
9. 特になし	86	28	10	7	131
	74.1%	35.9%	83.3%	28.0%	56.7%
10. わからない	1	1	0	0	2
	0.9%	1.3%	0.0%	0.0%	0.9%
計	116	78	12	25	231
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q8 措置時点の子どもがヤングケアラーだった場合の状況（複数回答）

問8	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 養育者の世話や家事	5	1	0	0	6
	4.8%	1.8%	0.0%	0.0%	3.6%
2. きょうだいの世話	5	2	1	0	8
	4.8%	3.6%	11.1%	0.0%	4.7%
3. 特になし	69	44	8	0	121
	66.3%	78.6%	88.9%	0.0%	71.6%
4. わからない・ヤング ケアラーではなかった	25	9	0	0	34
	24.0%	16.1%	0.0%	0.0%	20.1%
計	104	56	9	0	169
	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%

（４）措置解除時の状況

Q9 措置解除年度

問9	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
2018年度	21	9	3	3	36
	18.8%	15.8%	25.0%	14.3%	17.8%
2019年度	24	13	1	5	43
	21.4%	22.8%	8.3%	23.8%	21.3%
2020年度	23	9	4	4	40
	20.5%	15.8%	33.3%	19.0%	19.8%
2021年度	19	9	0	4	32
	17.0%	15.8%	0.0%	19.0%	15.8%
2022年度	25	17	4	5	51
	22.3%	29.8%	33.3%	23.8%	25.2%
計	112	57	12	21	202
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（未記入2・対象外1）

Q10 措置解除時の年齢

問 10	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
15 歳	8	1	0	9	18
	7.1%	1.8%	0.0%	47.4%	9.0%
16 歳	8	3	1	8	20
	7.1%	5.3%	8.3%	42.1%	10.0%
17 歳	15	7	0	0	22
	13.3%	12.3%	0.0%	0.0%	10.9%
18 歳	74	18	6	2	100
	65.5%	31.6%	50.0%	10.5%	49.8%
19 歳	7	12	3	0	22
	6.2%	21.1%	25.0%	0.0%	10.9%
20 歳	1	15	2	0	18
	0.9%	26.3%	16.7%	0.0%	9.0%
21 歳	0	1	0	0	1
	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.5%
22 歳	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
計	113	57	12	19	201
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(注 14歳4人)

(4月1日生まれで3月31日措置解除であれば対象となるが、確認が困難なため注記にとどめる。)

Q11 措置解除時の学歴

※卒業見込みの方は卒業としてください

問 11	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 中学卒業	4	8	0	12	24
	3.5%	14.3%	0.0%	54.5%	11.8%
2. 高校在学中	23	8	2	8	41
	20.2%	14.3%	16.7%	36.4%	20.1%
3. 高校中退	22	19	0	0	41
	19.3%	33.9%	0.0%	0.0%	20.1%
4. 高校卒業	54	17	7	0	78
	47.4%	30.4%	58.3%	0.0%	38.2%
5. 大学・専門学校等 在学中	2	1	1	0	4
	1.8%	1.8%	8.3%	0.0%	2.0%
6. 大学・専門学校等 中退	0	1	0	0	1
	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.5%
7. 大学・専門学校等 卒業	0	1	2	0	3
	0.0%	1.8%	16.7%	0.0%	1.5%
8. その他	9	1	0	2	12
	7.9%	1.8%	0.0%	9.1%	5.9%
計	114	56	12	22	204
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(未記入1)

Q12 措置解除時、どのような面での困難が心配されていましたか（複数回答）

※当てはまる番号を選択し、具体的な内容をご記入下さい

問 12	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 進学・学業の継続	43	11	3	17	74
	13.1%	4.6%	6.8%	58.6%	11.6%
2. 就職・就業の継続	43	29	6	1	79
	13.1%	12.2%	13.6%	3.4%	12.3%
3. 生活費・学費	33	22	2	0	57
	10.0%	9.2%	4.5%	0.0%	8.9%
4. 住居	5	16	0	0	21
	1.5%	6.7%	0.0%	0.0%	3.3%
5. 金銭管理	39	34	3	0	76
	11.9%	14.3%	6.8%	0.0%	11.9%
6. 実親・親戚との関係	56	21	2	4	83
	17.0%	8.8%	4.5%	13.8%	13.0%
7. 人間関係	37	26	8	5	76
	11.2%	10.9%	18.2%	17.2%	11.9%
8. 孤独	5	15	1	0	21
	1.5%	6.3%	2.3%	0.0%	3.3%
9. 健康（身体的）	7	4	2	0	13
	2.1%	1.7%	4.5%	0.0%	2.0%
10. 健康（精神的）	17	15	3	0	35
	5.2%	6.3%	6.8%	0.0%	5.5%
11. 家事・食事	11	9	9	0	29
	3.3%	3.8%	20.5%	0.0%	4.5%
12. 家族形成	2	7	1	0	10
	0.6%	2.9%	2.3%	0.0%	1.6%
13. 将来のこと	24	28	4	0	56
	7.3%	11.8%	9.1%	0.0%	8.8%
14. その他	3	1	0	2	6
	0.9%	0.4%	0.0%	6.9%	0.9%
15. 特に無い	4	0	0	0	4
	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.6%
計	329	238	44	29	640
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問 12-自由回答	
児童養護施設 B	就労の継続
	母、パートナーとの関わり
	就労の継続 金銭管理
	就労継続
	性的問題
	就労継続
	母、養父との関わり
	就労継続 金銭管理
	人間関係
	就労継続 人間関係
児童養護施設 E	遠方で、親戚縁者もいない慣れない地での生活。
	親との関係薄い
	程よい距離感の人間関係作りが難しい。自分に集中できず、周囲の人や家族、妹たちの事ばかり気に掛けてしまう。
	特に同年代と対等な関係を作れない所が見られ、職場の人間関係も心配された。
	入所中より人間関係作りが苦手。家事全般が苦手。
	毎日起きてしっかり勤務続けられるか心配だった。また金銭管理についてもゲームの課金等入所時より問題あり。
	親に住所を知られたくない。
	継続性が薄い児だったので心配だった。
	就職が高校卒業時に決まらず措置延長、障害者職業センターに通い就職決まった。職場に適應できるか心配だった。また、実親との距離感の心配もあった。
	学業の不安は入所中より心配されていた。
入所時より人間関係の不安定な様子は心配された。	

	入所時母が遠方におり、入所中宮城県内に戻ってきたことから母子交流が始まる。新たに関係を築き始めた母と母のパートナー宅へ措置解除。
	親との距離感を今後も程よい関係性であれば良いと思う。
	長年住んでいた園を離れて初めての一人暮らしなので生活に慣れるまで時間を要すると思われた。
	人間関係が対等に築けない事が多く、就職先でも上手く適応できるか心配された。
	自動車学校がまだ卒業できないまま退所となり、通い続ける心配があった。
	人に対し厳しく本人の捉え方も独特なところがあり、人間関係について心配していた。
	人間関係で孤立しがちだった。
	親との距離感で心配あり、初めての一人暮らしという事で金銭管理、生活面の心配があった。
	初めての一人暮らしなので生活力がどのくらいあるか心配だった。
	就労の継続できるか心配だった。
	一人暮らしと進学の両立が心配された。
	衝動性が高く、スマートフォンに依存気味で、ゲームなど思い通りにならないと画面を叩いてしまい、何度も壊している。安定した生活を送れるか心配だった。
児童養護施設 G	人間関係におけるトラブルがあると他責的な所があり、職場でのトラブルが予測されていた。
	高専を卒業する前に一人暮らしをする形での退所だったため卒業まで見守りが必要だった。
	高等支援校に通っていた頃、人間関係でのトラブルが何度かあり職場でも同様な事が起こる事が予測されていた。
	他県に大学進学だったため、経済的な面も含めてやりくり出来るのか。保護者とは必要最低限の関わりなため、大学卒業まで書類の準備等見守りが必要な状況。
	施設を早く出たがっていた子で、こちらの連絡に応じてくれるか、状況把握も出来るか心配だった。
	精神的な弱さがあるため、就職が長続きするか懸念があった。
自衛隊というハードな職業なため続くかどうか心配があった。	
自立援助ホーム J	脱走し行方不明
ファミリーホーム P	親。姉が児童の収入に依存しようとしている
	手の障害
児童自立支援施設 Q	再犯
	対人暴力
	万引き等再犯

Q13 措置解除時の施設等との関係性

問 13	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. とても良好	43	19	4	0	66
	37.7%	33.3%	33.3%	0.0%	32.2%
2. 良好	41	13	0	22	76
	36.0%	22.8%	0.0%	100.0%	37.1%
3. どちらとも いえない	21	20	8	0	49
	18.4%	35.1%	66.7%	0.0%	23.9%
4. 悪い	7	3	0	0	10
	6.1%	5.3%	0.0%	0.0%	4.9%
5. とても悪い	2	2	0	0	4
	1.8%	3.5%	0.0%	0.0%	2.0%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(5) 措置解除後の状況

Q14-1 措置解除後の進路 ※福祉的就労は、1または2としてください

問 14-1	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 就労	48	29	8	1	86
	42.1%	50.9%	66.7%	4.5%	42.0%
2. 当時の勤務先継続	9	7	1	0	17
	7.9%	12.3%	8.3%	0.0%	8.3%
3. 進学	29	6	0	13	48
	25.4%	10.5%	0.0%	59.1%	23.4%
4. 当時の進学先継続	17	6	2	6	31
	14.9%	10.5%	16.7%	27.3%	15.1%
5. 未定	5	6	0	0	11
	4.4%	10.5%	0.0%	0.0%	5.4%
6. 把握していない	3	0	1	2	6
	2.6%	0.0%	8.3%	9.1%	2.9%
7. その他	3	3	0	0	6
	2.6%	5.3%	0.0%	0.0%	2.9%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q14-2 Q14-1で「7.」と回答した場合「その他」の具体的な内容をご記入ください

問 14-2	
児童養護施設 D	定時制高校中退後、通信制高校に入学
児童養護施設 F	転校
児童養護施設 G	半年もせず仕事を辞め、現在は4月から職業訓練校に進学予定
自立援助ホーム J	行方不明の為
自立援助ホーム K	GH入居
自立援助ホーム L	入院

Q15 措置解除後の住まい

問 15	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 民間賃貸住宅	39	32	4	8	83
	34.2%	56.1%	33.3%	36.4%	40.5%
2. 公的賃貸住宅	3	1	0	1	5
	2.6%	1.8%	0.0%	4.5%	2.4%
3. 持ち家	6	0	0	9	15
	5.3%	0.0%	0.0%	40.9%	7.3%
4. 親の家	23	4	1		28
	20.2%	7.0%	8.3%	0.0%	13.7%
5. 親せき・祖父母・ きょうだいの家	3	3			6
	2.6%	5.3%	0.0%	0.0%	2.9%
6. 友人の家	0	0	0	1	1
	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	0.5%
7. 交際中の人の家	1	0	0	0	1
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
8. 会社・学校の寮	12	6	2		20
	10.5%	10.5%	16.7%	0.0%	9.8%
9. 福祉施設・ 自立援助ホーム	25	6	0	0	31
	21.9%	10.5%	0.0%	0.0%	15.1%
10. 里親の家	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
11. 措置施設	1	1			2
	0.9%	1.8%	0.0%	0.0%	1.0%
12. その他	0	2	0	1	3
	0.0%	3.5%	0.0%	4.5%	1.5%
13. 把握していない	1	2	5	2	10
	0.9%	3.5%	41.7%	9.1%	4.9%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(6) 貴所とのつながり

Q16-1 この1年間で、貴所(あなた)との直接の交流(対面・電話・SNS等、形式不問)はありますか

問 16-1	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 週に1回	3	5	1	0	9
	2.6%	8.8%	8.3%	0.0%	4.4%
2. 月に1回	18	21	2	0	41
	15.8%	36.8%	16.7%	0.0%	20.0%
3. 2～3か月に1回	19	4	0	8	31
	16.7%	7.0%	0.0%	36.4%	15.1%
4. 半年間に1回	28	6	2	1	37
	24.6%	10.5%	16.7%	4.5%	18.0%
5. 1年間に1回	25	3	1	1	30
	21.9%	5.3%	8.3%	4.5%	14.6%
6. 1年間に1回もない	21	18	6	12	57
	18.4%	31.6%	50.0%	54.5%	27.8%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q16-2 Q16-1で「6.」と回答した場合、交流のない主な理由として、次のどれが当てはまりますか

問 16-2	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 措置解除先でのケアが整っており、必要性が低い	5	0	0	0	5
	23.8%	0.0%	0.0%	0.0%	8.8%
2. 措置解除先との関係上かかわりがもてない	1	2	0	0	3
	4.8%	11.1%	0.0%	0.0%	5.3%
3. 措置解除先からの要望	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
4. 施設退所者等のプライバシーへの配慮	1	0	0	0	1
	4.8%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
5. 施設入所児へのケアを優先している	0	1	6	0	7
	0.0%	5.6%	100.0%	0.0%	12.3%
6. 施設退所者等が施設との接触を避けている	11	1	0	0	12
	52.4%	5.6%	0.0%	0.0%	21.0%
7. 施設退所者等に連絡がつかない	2	8	0	0	10
	9.5%	44.4%	0.0%	0.0%	17.5%
8. 施設退所者等が遠方に転居し、会うのが難しい	0	3	0	0	3
	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%	5.3%
9. その他	1	3	0	12	16
	4.8%	16.7%	0.0%	100.0%	28.0%
計	21	18	6	12	57
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q16-3 Q16-2で「9.」と回答した場合、「その他」の具体的な内容をご記入ください

問 16-3	
児童養護施設 E	退所後は進学先の学費管理や金銭の相談で定期的に関わりがあったが、就職後県外、遠方に引っ越し、住基ブロックをした様子で全く園と関わりがない。
自立援助ホーム J	会った事が無い 3件
児童自立支援施設 Q	終結済み 12件

(7) 直近1年間(2022年12月10日～2023年12月10日)で把握できている生活状況

※把握していない場合は「わからない」を選択

Q17-1 最終学歴について学校の種類

問 17-1	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 中学校	4	14	0	1	19
	3.5%	24.6%	0.0%	4.5%	9.3%
2. 全日制高校	53	22	7	7	89
	46.5%	38.6%	63.6%	31.8%	43.6%
3. 定時制・通信制高校	13	12	2	1	28
	11.4%	21.1%	18.2%	4.5%	13.7%
4. 専門学校・短期大学	16	4	1	0	21
	14.0%	7.0%	9.1%	0.0%	10.3%
5. 4年制大学	9	1	0	0	10
	7.9%	1.8%	0.0%	0.0%	4.9%
6. その他	13	1	0	0	14
	11.4%	1.8%	0.0%	0.0%	6.9%
7. わからない	6	3	1	13	23
	5.3%	5.3%	9.1%	59.1%	11.3%
計	114	57	11	22	204
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(未記入1)

Q17-2 卒業等の有無

問 17-2	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 在学中	19	3	2	7	31
	16.7%	5.4%	18.2%	31.8%	15.3%
2. 休学	0	1	0	0	1
	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%	0.5%
3. 中退	9	16	0	1	26
	7.9%	28.6%	0.0%	4.5%	12.8%
4. 卒業	78	32	4	1	115
	68.4%	57.1%	36.4%	4.5%	56.7%
5. わからない	8	4	5	13	30
	7.0%	7.1%	45.5%	59.1%	14.8%
計	114	56	11	22	203
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(未記入1・不明の回答1)

Q18-1 就労状況について就労の有無

問 18-1	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 働いている	77	30	9	2	118
	70.0%	52.6%	100.0%	9.1%	59.6%
2. 働いていない	17	11		1	29
	15.5%	19.3%	0.0%	4.5%	14.6%
3. わからない	16	16		19	51
	14.5%	28.1%	0.0%	86.4%	25.8%
計	110	57	9	22	198
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(未記入7)

Q18-2 雇用形態(複数回答)

問 18-2	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 正社員	33	11	7	1	52
	42.3%	35.5%	77.8%	33.3%	
2. 契約社員・派遣社員	4	5	0	1	10
	5.1%	16.1%	0.0%	33.3%	
3. パート・アルバイト	15	7	0	0	22
	19.2%	22.6%	0.0%	0.0%	
4. 日雇い・期間工	1	0	1	0	2
	1.3%	0.0%	11.1%	0.0%	
5. 自営業	1	0	0	0	1
	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
6. その他	15	3	0	0	18
	19.2%	9.7%	0.0%	0.0%	
7. わからない	9	5	1	1	16
	11.5%	16.1%	11.1%	33.3%	
計	78	31	9	3	121
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

Q19 同居者を教えてください（複数回答）

問 19	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. ひとり暮らし	44	27	3	0	74
	37.9%	45.0%	25.0%	0.0%	35.1%
2. 恋人・配偶者	7	6		0	13
	6.0%	10.0%	0.0%	0.0%	6.2%
3. 子ども	4	4	0	0	8
	3.5%	6.7%	0.0%	0.0%	3.8%
4. 親	11	3	1	6	21
	9.5%	5.0%	8.3%	26.1%	10.0%
5. 交際中の人・配偶者の親	2	0	0	0	2
	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
6. きょうだい	2	0	0	0	2
	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%
7. 親せき・祖父母	6	2		1	9
	5.2%	3.3%	0.0%	4.3%	4.3%
8. 元里親	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
9. 友人	0	0	0	0	0
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
10. その他	17	2	1	0	20
	14.7%	3.3%	8.3%	0.0%	9.5%
11. わからない	23	16	7	16	62
	19.8%	26.7%	58.3%	69.6%	29.4%
計	116	60	12	23	211
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q20 現在の居住地

問 20	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 宮城県内	91	40	10	7	148
	79.8%	70.2%	83.3%	31.8%	72.2%
2. 宮城県以外	12	7	2	1	22
	10.5%	12.3%	16.7%	4.5%	10.7%
3. わからない	11	10		14	35
	9.6%	17.5%	0.0%	63.6%	17.1%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

(8) 現在の困難 ※把握していない場合は「わからない」を選択

Q21 現在、どのような面での困難が心配されていますか (複数回答)

※当てはまる番号を選択し、具体的な内容をご記入ください

問 21	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 進学・学業の継続	10	4	2	8	24
	4.0%	1.5%	6.3%	26.7%	4.1%
2. 就職・就業の継続	22	29	1	1	53
	8.8%	10.8%	3.1%	3.3%	9.1%
3. 生活費・学費	18	26	0	0	44
	7.2%	9.7%	0.0%	0.0%	7.6%
4. 住居	9	20	0	0	29
	3.6%	7.4%	0.0%	0.0%	5.0%
5. 金銭管理	30	27	8	1	66
	12.0%	10.0%	25.0%	3.3%	11.3%
6. 実親・親戚との関係	41	19	1	2	63
	16.3%	7.1%	3.1%	6.7%	10.8%
7. 人間関係	22	20	0	2	44
	8.8%	7.4%	0.0%	6.7%	7.6%
8. 孤独	2	21	0	0	23
	0.8%	7.8%	0.0%	0.0%	4.0%
9. 健康 (身体的)	8	15	1	0	24
	3.2%	5.6%	3.1%	0.0%	4.1%
10. 健康 (精神的)	13	25	2	2	42
	5.2%	9.3%	6.3%	6.7%	7.2%
11. 家事・食事	15	12	7	0	34
	6.0%	4.5%	21.9%	0.0%	5.8%
12. 家族形成	6	16	1	0	23
	2.4%	5.9%	3.1%	0.0%	4.0%
13. 将来のこと	18	28	8	0	54
	7.2%	10.4%	25.0%	0.0%	9.3%
14. その他	0	0	0	2	2
	0.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.3%
15. 特に無い	4	1	0	0	5
	1.6%	0.4%	0.0%	0.0%	0.9%
16. わからない	33	6	1	12	52
	13.1%	2.2%	3.1%	40.0%	8.9%
計	251	269	32	30	582
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q21 の具体的な内容（自由記述）

児童養護施設 B	人間関係
	就労できるか
	親子関係 4件
	子育て
	金銭管理 5件
	大学を中退し、就労しているが人間関係でのトラブルを抱えている。
児童養護施設 E	養父や他家族との距離感の課題あり
	お金の使い方の心配、周囲の人、家族、妹達の心配が強く、自分に集中できない
	職場で本当は同年代の人達と仲良く過ごしたいが、上手な関係築けず。
	本人自身特に問題なく頑張って学業、生活を送っているが、母親との距離感が課題になってくるだろうと思われる。
	退所後体調を崩し、生活が安定できず園で支援続けている。精神手帳交付し、福祉サービスにつなげる予定。
	金銭管理が苦手で、時々生活費が足りなくなることがある。
	金銭に余裕ないが車を購入、入籍、子ども出産し相手方の両親のサポートもあるが心配なところでもある。
	支払いが足りないという相談があった。
	実親の意見に影響受けやすいので周囲（実親、本人）の支援者と情報を密にしている。
	現在仕事も頑張り安定しているが、学生の時の実習で不安定な様子を当時の同じ学校の学友から伺う。
	人に対し依存傾向あり。
	ゲームの課金に給料の多くを使っている様子
	繊細なところがあり前職でのパワハラ的な事が今でもトラウマ的な反応あり。心配になったり不安感が強く出ることが見られる。
	親族との不和
	春に大学卒業、就職先も決まっているが県外に出て遠方になる事で心配あり。親族との付き合い方も程よい関係性であれば良いと思う。
	仕事を辞めたいという発言が良く聞かれていた。仕事は継続中。
	人間関係や金銭面でのトラブルあり。精神的にも安定していない。
	前職場でのパワハラ的な扱いが現在も影響しており、転職後、事務的な手続きの電話を入れる事を恐れ、職員同席し電話をさせ、手続きを進めた経緯がある。
	仕事を辞めたいという発言が良く聞かれていた。仕事は継続中だが、探している様子。
	現在仕事を続けているが、辞めたいと話している。
	転職したい気持ちが見られるようになっている。金銭管理が難しい様子。適切な人間関係の距離感を図れず、断れない様子も見られる。
	給料の中でやりくりできそうだったが、あるだけ使っている事が分かり再度金銭管理について伝えて行く必要がある。
	生活力が弱い、一人暮らしを希望している所が心配。
就職先が遠方になりそう、という事で今までのように家族交流の頻度が少なくなり、家族交流の方法の工夫必要。	
グループホーム入居中の為スタッフさんの支援があるが、最近昼食をしっかりと食べているか心配なところ（ゲームに夢中）。片付けなど家事も苦手な様子。	
自立援助ホーム H	借金等 3件
	失神あり
	グレーゾーン
	障害者枠就労
	グレーゾーン
	酷い頭痛あり
	就労 B グループホーム
	触法行為
	自殺願望
	彼氏との関係
	喪失経験
	精神科受診
	就労困難
	男女トラブル
オーバードーズ	
ファミリーホーム M	仕事の日雇いの土工で不安定。将来設計ができない。
	結婚のこと
	母との関係
児童自立支援施設 Q	再犯

(9) 施設退所者等へのアフターケアの状況

Q22-1 貴所や自治体等が提供するアフターケアを受けていますか

問 22-1	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. 受けている	55	38	4	1	98
	48.2%	66.7%	33.3%	4.5%	47.8%
2. 受けていない	40	1			41
	35.1%	1.8%	0.0%	0.0%	20.0%
3. わからない	19	18	8	21	66
	16.7%	31.6%	66.7%	95.5%	32.2%
計	114	57	12	22	205
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q22-2 Q22-1 で「1.」と回答した場合、貴所が提供するどんなアフターケアを受けていますか
(複数回答)

問 22-2	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. イベント・交流会	5	8	0	1	14
	3.6%	3.7%	0.0%	50.0%	3.8%
2. 記念事のお祝い	6	22	0	1	29
	4.3%	10.0%	0.0%	50.0%	7.9%
3. 日常的な雑談	40	33	2	0	75
	29.0%	15.1%	28.6%	0.0%	20.5%
4. 相談支援	34	38	2	0	74
	24.6%	17.4%	28.6%	0.0%	20.2%
5. 学業の相談・支援	7	4	0	0	11
	5.1%	1.8%	0.0%	0.0%	3.0%
6. 食事の提供	10	11	0	0	21
	7.2%	5.0%	0.0%	0.0%	5.7%
7. 住まい・職場訪問	11	23	0	0	34
	8.0%	10.5%	0.0%	0.0%	9.3%
8. 住宅支援	0	13	0	0	13
	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	3.6%
9. 就職支援	2	15	0	0	17
	1.4%	6.8%	0.0%	0.0%	4.6%
10. 経済的支援	5	18	2	0	25
	3.6%	8.2%	28.6%	0.0%	6.8%
11. 金銭管理	4	6	0	0	10
	2.9%	2.7%	0.0%	0.0%	2.7%
12. 行政の窓口紹介	2	28	0	0	30
	1.4%	12.8%	0.0%	0.0%	8.2%
13. その他	9	0	1	0	10
	6.5%	0.0%	14.3%	0.0%	2.7%
14. 特に無し	3	0	0	0	3
	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
計	138	219	7	2	366
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

Q22-3 Q22-1 で「1.」と回答した場合、自治体等（宮城県・仙台市から受託しているアフターケア事業所を含む）が提供するどんなケア・サービスを受けていますか（複数回答）

問 22-3	児童養護施設	自立援助ホーム	ファミリーホーム	児童自立支援施設	計
1. イベント・交流会	3	0	0	0	3
	2.6%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
2. 記念事のお祝い	1	0	0	0	1
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
3. 日常的な雑談	10	1	0	0	11
	8.8%	3.0%	0.0%	0.0%	7.2%
4. 相談支援	11	1	1	1	14
	9.6%	3.0%	33.3%	50.0%	9.2%
5. 学業の相談・支援	1	0	0	0	1
	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%
6. 食事の提供	5	0	0	0	5
	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%
7. 住まい・職場訪問	10	0	0	0	10
	8.8%	0.0%	0.0%	0.0%	6.6%
8. 住宅支援	7	0	0	0	7
	6.1%	0.0%	0.0%	0.0%	4.6%
9. 就職支援	9	3	0	0	12
	7.9%	9.1%	0.0%	0.0%	7.9%
10. 経済的支援	6	4	0	0	10
	5.3%	12.1%	0.0%	0.0%	6.6%
11. 金銭管理	7	2	0	0	9
	6.1%	6.1%	0.0%	0.0%	5.9%
12. 行政の窓口紹介	6	1	0	0	7
	5.3%	3.0%	0.0%	0.0%	4.6%
13. その他	4	0	0	0	4
	3.5%	0.0%	0.0%	0.0%	2.6%
14. 特に無し	33	19	2	1	55
	28.9%	57.6%	66.7%	50.0%	36.2%
15. わからない	1	2	0	0	3
	0.9%	6.1%	0.0%	0.0%	2.0%
計	114	33	3	2	152
	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

分析 施設調査

(1) 対象者の確認

Q1 この調査の対象者

結果として205人であった。

(2) 基本属性

Q2 性別

性別については、児童養護施設は女子52.6%、男子47.4%、自立援助ホームは女子42.1%、男子57.9%と男女ほぼ同じ比率となっている。ファミリーホームは女子66.7%、男子33.3%と女子が多く、児童自立支援施設は女子36.4%、男子63.6%と差がみられる。

(3) 措置時点の状況

Q3 貴施設の入所年数

児童養護施設は1年未満から19年未満まで万遍なく存在しているが、自立援助ホーム、ファミリーホーム、児童自立支援施設はほとんどが5年未満という特徴があった。

Q4 措置時点の養育者

両親世帯22.9% 父子世帯14.1%、母子世帯46.8%、計83.8%は親がいて施設入所となっている。特に母子世帯が多い。

Q5 措置時点の父母など主な養育者の状況（複数回答）

Q4と合わせて考えると、親が精神障害13.4%、経済的困難を抱えている低所得の家が17.9%と多い。「その他」「わからない」が合わせて25.4%となっており、措置時点での個別情報が施設入所等にあたって把握され、的確に対応されていることが重要と思われる。

Q6 措置時点の子どもの状況（被虐待経験）（複数回答）

284例のうち227例と、ほぼ80%が何らかの虐待を受けていたことがわかる。性的虐待を受けていたのが10例というのは少ない印象があるが、いずれにしても虐待予防に力を入れていく必要がある。

Q7 措置時点の子どもの障害等の状況（複数回答）

231人中知的障害13.9% 発達障害11.7%となっている。2022年の文部科学省調査によると、発達障害出現率は小学生10.4% 中学生5.6% 高校生2.2%であった。比較すると入所児童の割合がかなり高くなっている。近年、被虐待児の愛着障害の研究が進み、愛着障害が発達障害と見られて、誤った対応をされている傾向があることも指摘されている。

Q8 措置時点の子どものヤングケアラーだった場合の状況（複数回答）

養育者やきょうだいの世話を日常的にしている、いわゆるヤングケアラーだったと思われる数は169人中14人で8.3%、その他（特になし・わからない・ヤングケアラーではなかったと思われる）が155人で91.7%であった。最近注目されているヤングケアラーであるが、この調査ではそれほど多くはなかった。

(4) 措置解除時の状況

Q9 措置解除年度

年度ごとに30人台から50人台まで解除者数に差があるが、その要因は今回の調査では明らかにすることができていない。

Q10 措置解除時の年齢

18歳が最多となっている。措置延長の制度もあるが、多くは18歳で自立という傾向が見られる。

Q11 措置解除時の学歴

高校卒業が78人、38.2%と最多だが、高校中退も41人20.1%いる。高校中退では中学卒業の学歴しかないので、就職にも影響があると思われる。できれば高校中退となった原因も調査して、サポートをしていく必要があるのではないかとと思われる。

Q12 措置解除時、どのような面での困難が心配されておりましたか（複数回答）

児童を支援している職員にとって、すべてにわたって心配なことが多いことが表れた回答となっている。特に実親・親戚との関係が13.0%となっており、施設の中では守られているが、施設を出ると、親の干渉や親戚との付き合いが難しくなっていることが感じられる。

Q13 措置解除時の施設等との関係性

「良好・とても良好」を合わせて69.3%となっており、概ね良好といえる。対象者のQ31③でも「ふつう・まあよかった・よかった」を合わせて88.9%、④では75.9%と評価は高かった。

(5) 措置解除後の状況

Q14-1 措置解除後の進路 ※福祉的就労は、1または2としてください。

就労が42.0%、進学23.4%となっている。対象者Q6で同様の質問をしているが就職は本人33.9%、進学35.5%となっており、対象者で回答を寄せてくれた人の割合は進学をした人が多かったことがわかる。

Q15 措置解除後の住まい

対象者調査では0だった公的賃貸住宅入居者が5名あるということは、家族を持ったためではないかと思われる。

(6) 貴所とのつながり

Q16-1 この1年間で、貴所(あなた)との直接の交流(対面・電話・SNS等、形式不問)はありますか。

週1回以上1年に1回以下が72.1%と、つながりを持っている対象者が多い。一方、年に1回もない人が57人おり、施設からアンケートが発送できなかった114人と合わせると、171人が、つながりがなくなって生活状態も不明となっている。

Q16-2 Q16-1で「6.」と回答した場合、交流のない主な理由として、次のどれが当てはまりますか。

対象者調査Q26で施設とのつながりを聞いた結果は「どちらともいえない、やや少ない、とても少ない」をあげた人が48人で77.4%あった。Q27では「つながりがなくつながらなくてよい」が30人で46.9%あった。数値上だけでは気持ちが見えないこともあり、もっと多くの退所者の本音を聞いて今後の支援体制を考えていく必要があるのではないかとと思われる。

Q16-3 Q16-2で「9.」と回答した場合、「その他」の具体的な内容をご記入ください

理由は不明だが本人が住基ブロックをしたケースなどもあることがわかった。

(7) 直近1年間(2022年12月10日～2023年12月10日)で把握できている生活状況

Q17-1 最終学歴について学校の種類

57.3%が高校を卒業しており、専門学校・短大・4年制大学卒が15.2%、中学校卒9.3%となっている。「わからない」は11.3%、23人であった。

Q17-2 卒業等の有無

中退者が26人、不明が30人あり、その後のフォローアップがどうなっているかの調査も必要と思われる。

Q18-1 就労状況について就労の有無

「働いている」が59.6%、「働いていない・わからない」が40.4%となっている。「働いていない」の中には通学中も含まれる可能性があるが、「わからない」の率が25.8%、51人であることは、施設にとっても心配の種であると思われる。

Q18-2 雇用形態(複数回答)

把握している対象者の43.0%が正社員とかなり高率となっている。本人調査では34.1%である。このことから、施設との交流がある人は、比較的安定した生活を送っている人ではないかと思われる。

Q19 同居者を教えてください(複数回答)

本人調査Q13ではひとり暮らしが60.0%であったのに対し、こちらは35.1%とかなり差が見られる。恋人、配偶者、子ども、親などと暮らしている人が多く、Q18-2の雇用形態と合わせて考えると、家族と安定した生活を送っている人が多いとみられる。今回調査で回答してくれた対象者と、施設とつながっている退所者とは、少し状況が異なっている結果ではないかと思われる。

Q20 現在の居住地

本人調査では83.9%が宮城県内居住、16.1%が県外居住であった。それと比較すると、今回本人に調査票が届いたのは県内居住者の割合が多く、県外在住は10人、県外にいて施設で動向を把握している人が22人あるという結果となった。重複している人もあると思われるが、回答できる可能性のある人がこのほかに12人いたという見方もできる。

(8) 現在の困難

Q21 現在、どのような面での困難が心配されていますか(複数回答)

現在アフターケアを実施している対象者が抱える問題と、施設側が心配している問題はほぼ一致している。具体的には金銭管理、就業の継続、人間関係、精神的健康など。将来のことというのはいかなり漠然としているが、退所者の今後を気づかう気持ちの表れであろう。実親、親戚との関係も10.8%あり、施設入所中は家族との関係をある程度制限できていたが措置解除後は直接接触できる環境となるため心配があるケースが63あるという現状となっていると見てよいだろう。

Q21の具体的な内容(自由記述)

詳細に記載してくれた施設と、記載のない施設に二分された。記載のあった施設では、人間関係、親子関係、金銭管理、仕事などが多く記載され、懸念されている。精神的な問題や男女トラブル、薬物の問題など、かなりハードな対応を迫られている施設は、職員はかなりの専門性を求められるのではないかとと思われる。

(9) 施設退所者等へのアフターケアの状況

Q22-1 貴所や自治体等が提供するアフターケアを受けていますか。

「受けていない、わからない」が52.2%となっている。Q21では特に心配が無い対象者は5名しか挙げられていない。すでに行方不明の対象者が多いことが今回の調査ではっきりしたことから、今後は退所して困難な状況にある人たちへのアフターケアをどう届けていったらよいかを考え、実行していくことが求められているといえよう。

Q22-2 Q22-1で「1.」と回答した場合、貴所が提供するどんなアフターケアを受けていますか。
(複数回答)

児童自立支援施設を除くとどの施設も日常的雑談や相談支援を多く行っている様子が見えがえた。その他は個人のニーズに応じて支援を行っていると思われ、施設とつながっていることで得られる支援が多くあることが想像できた。

Q22-3 Q22-1で「1.」と回答した場合、自治体等（宮城県・仙台市から受託しているアフターケア事業所を含む）が提供するどんなケア・サービスを受けていますか（複数回答）

サービスを受けている人が10人未満のものは「イベント・交流会、記念行事のお祝い、学業の相談支援、食事提供、住宅支援、金銭管理、行政の窓口相談」などであり、これらのニーズがないのか、ニーズがあっても受けられないのか詳細を調べる必要が感じられた。

C. 里親対象調査結果

(1) 対象者の確認

Q1 この調査の対象者

結果として29人であった。

(2) 基本属性

Q2 性別

性別	女性	男性	その他	計
	16	13	0	29
	55.2%	44.8%	0.0%	100.0%

Q3 対象者の委託年数

0～1年未満	1	5～6年未満	2	10～11年未満	1	15～16年未満	0	
1～2年未満	3	6～7年未満	3	11～12年未満	2	16～17年未満	1	
2～3年未満	2	7～8年未満	1	12～13年未満	2	17～18年未満	0	
3～4年未満	5	8～9年未満	0	13～14年未満	2	18～19年未満	0	
4～5年未満	0	9～10年未満	1	14～15年未満	1	19年以上	1	
							計	28
							(未記入1)	29

(3) 委託時点の状況

Q4 委託時点の養育者

1. 両親世帯	2. 父子世帯	3. 母子世帯	4. 親族・知人	5. その他	計
5	0	8	11	5	29
17.2%	0.0%	27.6%	37.9%	17.2%	100.0%

Q5 委託時点の父母など主な養育者の状況（複数回答）

※「主な養育者」には、父母から養・継父母の場合、父母のどちらかの場合も含めてお答えください

1. 死亡・行方不明	14	25.5%
2. 就労	1	1.8%
3. 失業・不就労	3	5.5%
4. 拘禁	0	0.0%
5. 疾病・身体障害	2	3.6%
6. 知的障害	1	1.8%
7. 精神障害	5	9.1%
8. 依存問題	2	3.6%
9. DV	3	5.5%
10. 経済的困難・低所得	8	14.5%
11. 不安定な住環境	4	7.3%
12. 不和・孤立	4	7.3%
13. その他	7	12.7%
14. わからない	1	1.8%
計	55	100.0%

Q6 委託時点の対象者の状況（被虐待経験）（複数回答）

※児童相談所から提示された主たる理由に限らずお答えください

1. ネグレクト	6	15.4%
2. 身体的虐待	5	12.8%
3. 性的虐待	1	2.6%
4. 心理的虐待	7	17.9%
5. その他	5	12.8%
6. 特になし	14	35.9%
7. わからない	1	2.6%
計	39	100.0%

Q7 措置時点の対象者の障害等の状況（複数回答）

※「情緒障害」とは、何らかの要因により、感情・情緒が著しく不安定である状態が続くことで、学校生活や社会生活に適応できない状態のこと

1. 知的障害	1	3.0%
2. 発達障害	1	3.0%
3. 身体障害	0	0.0%
4. 情緒障害	3	9.1%
5. 精神障害	1	3.0%
6. 難病	0	0.0%
7. 病弱	2	6.1%
8. その他	3	9.1%
9. 特になし	20	60.6%
10. わからない	2	6.1%
計	33	100.0%

Q8 委託時点の対象者がヤングケアラーだった場合の状況

1. 養育者の世話や家事	2. きょうだいの世話	3. 特になし	4. わからない/ ヤングケアラーではなかった	計
4	3	14	2	23
17.4%	13.0%	60.9%	8.7%	100.0%

(未記入2)

(4) 委託解除時の状況

Q9 委託解除年度

2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	計
3	6	4	2	14	29
10.3%	20.7%	13.8%	6.9%	48.3%	100.0%

Q10 委託解除時の年齢

15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	計
1	0	2	10	8	6	0	1	28
3.6%	0.0%	7.1%	35.7%	28.6%	21.4%	0.0%	3.6%	100.0%

(未記入1)

Q11 委託解除時の学歴 ※卒業見込みの方は卒業としてください

1. 中学卒業	1	3.4%
2. 高校在学中	1	3.4%
3. 高校中退	0	0.0%
4. 高校卒業	15	51.7%
5. 大学・専門学校等在学中	6	20.7%
6. 大学・専門学校等中退	1	3.4%
7. 大学・専門学校等卒業	5	17.2%
8. その他	0	0.0%
計	29	100.0%

Q12 委託解除時に、どのような面での困難を心配されておりましたか（複数回答）

1. 進学・学業の継続	8	7.8%
2. 就職・就業の継続	12	11.7%
3. 生活費・学費	10	9.7%
4. 住居	3	2.9%
5. 金銭管理	13	12.6%
6. 実親・親戚との関係	5	4.9%
7. 人間関係	8	7.8%
8. 孤独	4	3.9%
9. 健康（身体的）	9	8.7%
10. 健康（精神的）	8	7.8%
11. 家事・食事	5	4.9%
12. 家族形成	2	1.9%
13. 将来のこと	11	10.7%
14. その他	0	0.0%
15. 特に無い	5	4.9%
計	103	100.0%

Q13 委託解除時の施設等との関係性

1. とても良好	8	28.6%
2. 良好	16	57.1%
3. どちらともいえない	4	14.3%
4. 悪い	0	0.0%
5. とても悪い	0	0.0%
計	28	100.0%

(未記入1)

(5) 委託解除後の状況

Q14 委託解除後の進路 ※福祉的就労は、1または2としてください

1. 就職	13	44.8%
2. 当時の勤務先継続	1	3.4%
3. 進学	8	27.6%
4. 当時の進学先継続	6	20.7%
5. 未定	1	3.4%
6. 把握していない	0	0.0%
7. その他	0	0.0%
計	29	100.0%

Q15 委託解除後の住まい

1. 民間賃貸住宅	14	48.3%
2. 公的賃貸住宅	3	10.3%
3. 持ち家	1	3.4%
4. 親の家	0	0.0%
5. 親せき・祖父母・きょうだいの家	1	3.4%
6. 友人の家	0	0.0%
7. 交際中の人の家	0	0.0%
8. 会社・学校の寮	2	6.9%
9. 福祉施設・自立援助ホーム	1	3.4%
10. 里親の家	6	20.7%
11. 措置施設	0	0.0%
12. その他	1	3.4%
13. 把握していない	0	0.0%
計	29	100.0%

(6) あなたとのつながり

Q16-1 この1年間で、あなたとの直接の交流（対面・電話・SNS等、形式不問）はありますか

1. 週に1回	10	35.7%	34.5%
2. 月に1回	6	21.4%	20.7%
3. 2～3か月に1回	5	17.9%	17.2%
4. 半年間に1回	1	3.6%	3.4%
5. 1年間に1回	6	21.4%	20.7%
6. 1年間に1回もない	0	0.0%	0.0%
計	28	100.0%	100.0%

(未記入1)

Q16-2 Q16-1で「6.」と回答した場合、交流のない主な理由として、次のどれが当てはまりますか

※該当なし

(7) 直近1年間（2022年12月10日～2023年12月10日）で把握できている生活状況

※把握していない場合は「わからない」を選択

Q17-1 対象者の最終学歴について学校の種類

1. 中学校	0	0.0%
2. 全日制高校	9	33.3%
3. 定時制・通信制高校	2	7.4%
4. 専門学校・短期大学	9	33.3%
5. 4年制大学	7	25.9%
6. その他	0	0.0%
7. わからない	0	0.0%
計	27	100.0%

(未記入2)

Q17-2 卒業等の有無

1. 在学中	7	26.9%
2. 休学	0	0.0%
3. 中退	3	11.5%
4. 卒業	16	61.5%
5. わからない	0	0.0%
計	26	100.0%

(未記入3)

Q18-1 対象者の就労状況について就労の有無

1. 働いている	17	65.4%
2. 働いていない	8	30.8%
3. わからない	1	3.8%
計	26	100.0%

(未記入3)

Q18-2 雇用形態（複数回答）

1. 正社員	6	31.6%
2. 契約社員・派遣社員	3	15.8%
3. パート・アルバイト	4	21.1%
4. 日雇い・期間工	0	0.0%
5. 自営業	0	0.0%
6. その他	3	15.8%
7. わからない	3	15.8%
計	19	100.0%

(未記入2)

Q19 同居者を教えてください(複数回答)

1. ひとり暮らし	9	27.3%
2. 恋人・配偶者	5	15.2%
3. 子ども	3	9.1%
4. 親	2	6.1%
5. 交際中の人・配偶者の親	0	0.0%
6. きょうだい	3	9.1%
7. 親せき・祖父母	2	6.1%
8. 元里親	6	18.2%
9. 友人	1	3.0%
10. その他	1	3.0%
11. わからない	1	3.0%
計	33	100.0%

(未記入2)

Q20 現在の居住地

1. 宮城県内	21	77.8%
2. 宮城県以外	6	22.2%
3. わからない	0	0.0%
計	27	100.0%

(未記入2)

(8) 現在の困難 ※把握していない場合は「わからない」を選択

Q21 現在、対象者についてどのような面での困難を心配されていますか (複数回答)

※当てはまる番号を選択し、具体的な内容をご記入ください

1. 進学・学業の継続	5	5.6%
2. 就職・就業の継続	5	5.6%
3. 生活費・学費	5	5.6%
4. 住居	0	0.0%
5. 金銭管理	11	12.4%
6. 実親・親戚との関係	4	4.5%
7. 人間関係	8	9.0%
8. 孤独	3	3.4%
9. 健康(身体的)	11	12.4%
10. 健康(精神的)	9	10.1%
11. 家事・食事	5	5.6%
12. 家族形成	4	4.5%
13. 将来のこと	13	14.6%
14. その他	1	1.1%
15. 特に無い	5	5.6%
16. わからない	0	0.0%
計	89	100.0%

(9) 施設退所者等へのアフターケアの状況

Q22-1 貴所や自治体等が提供するアフターケアを受けていますか

※対面・電話・SNS等による相談支援等も含む

1. 受けている	13	44.8%
2. 受けていない	15	51.7%
3. わからない	1	3.4%
計	29	100.0%

Q22-2 Q22-1 で「1.」と回答した場合、あなたが提供するどんなアフターケアを受けていますか
(複数回答)

1. イベント・交流会	5	11.4%
2. 記念事のお祝い	5	11.4%
3. 日常的な雑談	10	22.7%
4. 相談支援	5	11.4%
5. 学業の相談・支援	1	2.3%
6. 食事の提供	5	11.4%
7. 住まい・職場訪問	4	9.1%
8. 住宅支援	2	4.5%
9. 就職支援	1	2.3%
10. 経済的支援	3	6.8%
11. 金銭管理	0	0.0%
12. 行政の窓口紹介	1	2.3%
13. その他	2	4.5%
14. 特に無し	0	0.0%
計	44	100.0%

Q22-3 Q22-1 で「1.」と回答した場合、自治体等（宮城県・仙台市から受託しているアフターケア事業所を含む）が提供するどんなケア・サービスを受けていますか（複数回答）

1. イベント・交流会	3	16.7%
2. 記念事のお祝い	0	0.0%
3. 日常的な雑談	2	11.1%
4. 相談支援	1	5.6%
5. 学業の相談・支援	0	0.0%
6. 食事の提供	0	0.0%
7. 住まい・職場訪問	1	5.6%
8. 住宅支援	1	5.6%
9. 就職支援	0	0.0%
10. 経済的支援	1	5.6%
11. 金銭管理	0	0.0%
12. 行政の窓口紹介	0	0.0%
13. その他	0	0.0%
14. 特に無し	7	38.9%
15. わからない	2	11.1%
計	18	100.0%

分析 里親家庭アンケート

(1) 対象者の確認

Q1 この調査の対象者

各里親へは児童相談所から情報を得て、89人へ発送し、29人の回答を得た。里親からはもう少し回答数が多いと予想していたが、回収率は33%という結果であった。

(2) 基本属性

Q2 性別

女性16人、男性13人と、女性が若干多い。

Q3 対象者の委託年数

1年未満から19年以上まで幅広く分布している。

(3) 委託時点の状況

Q4 委託時点の養育者

施設入所者は母・父・両親がいる人が83.8%いたのに対し、里親委託では44.8%しかおらず、親族・知人が37.9%であったのが特徴としてあげられる。

Q5 委託時点の父母など主な養育者の状況（複数回答）

死亡、行方不明が25.5%と非常に多い。東日本大震災の影響がある可能性も考えられる。経済的困難・低所得は施設でも同様の傾向がみられた。

Q6 委託時点の対象者の状況（被虐待経験）（複数回答）

39件中19件、48.7%が被虐待経験有となっている。施設では80%ほどとなっていたのに比べるとかなり少ない結果となっている。

Q7 措置時点の対象者の障害等の状況（複数回答）

60.6%は特に障害がなかった一方、情緒障害9.1%、病弱が6.1%となっていて、こちらも施設とは異なる結果となっている。

Q8 委託時点の対象者がヤングケアラーだった場合の状況

世話をしている対象が、養育者ときょうだいの重複があるかもしれないが、7人とごく少数であった。

(4) 委託解除時の状況

Q9 委託解除年度

2022年度が最多となっている。理由は調査していないので不明であるが、宮城県で里親委託を推進してきた結果委託人数が増えていることがあるかもしれない。

Q10 委託解除時の年齢

18歳から20歳までが多くなっている。学校の卒業年度となっていると思われる。

Q11 委託解除時の学歴

高校・大学卒業を期に委託解除となることが多いという結果がみられる。

Q12 委託解除時に、どのような面での困難を心配されていましたか（複数回答）

対象者・施設調査と同様の傾向がみられた。就業継続、金銭管理、実親・親戚、他の人間関係等が多かった。

Q13 委託解除時の施設等との関係性

「悪い、とても悪い」は0であった。関係性が悪い対象者については、この調査へ回答するのいやという気持ちもあるかもしれない。回答率が低い原因となっていることも想像できる。

（5）委託解除後の状況

Q14 委託解除後の進路

1位就職、2位進学、3位当時の進学先継続、こちらも施設退所者とほぼ同様の結果となっている。

Q15 委託解除後の住まい

施設調査で5名であった「公的賃貸住宅入居」が3名あり、Q19の配偶者と共に入居しているのではないと思われる。里親の家にそのまま居住している人が6人あり、社会的養護自立支援制度によるものなのか、どのような制度によってそれが可能になっているのかも調査してみたい。

（6）あなたとのつながり

Q16-1 この1年間で、あなたとの直接の交流（対面・電話・SNS等、形式不問）はありますか

この項目では、里親との交流がかなり密であるという結果が出ている。交流があるからこそ、今回の調査回答につながったということが想像できる。

Q16-2 Q16-1で「6.」と回答した場合、交流のない主な理由として、次のどれが当てはまりますか

※該当なし

（7）直近1年間（2022年12月10日～2023年12月10日）で把握できている生活状況

Q17-1 対象者の最終学歴について学校の種類

施設調査では4年制大卒が204人中10人であったが里親委託対象者は27人中7人と高い割合を示している。

Q17-2 卒業等の有無

「休学、わからない」が0であるのは、交流があるからこそ対象者の動向が把握できているということであろう。里親の関わりで卒業にこぎつけられている児童もあるかもしれない。

Q18-1 対象者の就労状況について就労の有無

「働いていない」の中に在学中も含まれている結果ではないかと思われる。次のQ18-2の回答数が19であることを見ると働いている人は19人ほどと考えられる。

Q18-2 雇用形態（複数回答）

施設調査と比較すると、正社員の割合は11.4ポイント低く、契約社員・派遣社員の割合は7.5ポイント高く、パート・アルバイトは2.9ポイント高くなっている。

Q19 同居者を教えてください（複数回答）

特徴的なこととして元里親と暮らしている人が6人、18.2%となっている。どのような経緯で同居に至ったのか、社会的養護自立支援のあり方がいろいろ変化している中で、聞いてみたいことである。

Q20 現在の居住地

やはり県内居住が多く、割合も本人、施設と同様の傾向を示している。

（8）現在の困難 ※把握していない場合は「わからない」を選択

Q21 現在、対象者についてどのような面での困難を心配されていますか（複数回答）

身体的健康を心配している割合が多いのが特徴的であった。金銭管理、実親・親戚との関係は施設調査でもとり上げられている。

（9）施設退所者等へのアフターケアの状況

Q22-1 貴所や自治体等が提供するアフターケアを受けていますか

「受けている」と「受けていない」が半々であった。元里親自身がアフターケアを行っているという自覚を持ちにくいかもしれない。

Q22-2 Q22-1で「1.」と回答した場合、あなたが提供するどんなアフターケアを受けていますか（複数回答）

上記Q22-1では「受けていない」「わからない」と回答があったが、具体的に聞いていくと多くのサポートをしていたことがわかる。

Q22-3 Q22-1で「1.」と回答した場合、自治体等（宮城県・仙台市から受託しているアフターケア事業所を含む）が提供するどんなケア・サービスを受けていますか（複数回答）

里親委託の対象者については、まだ十分なアフターケアサービスが行き届いていないという結果が出ている。2年前から里親里子対象のイベントや研修会を始めたところ、参加者も少しずつ増加し、里親からの相談が入ることも増えている。

D. 考察

平成 29 年に宮城県で社会的養護自立支援事業業務委託企画提案募集要項の一節に次のような記述があった。

「里親等への委託や児童養護施設入所措置を受けていた者で 18 歳（措置延長の場合は 20 歳）に達したことにより措置解除をされた者が地域社会において、自立生活を送る際には様々な生活・就業上の問題を抱えながら、自らの努力で生活基盤を築いていかなければならない。しかしながら、退所後の生活保護受給率の高さや、退所後 3 年で措置解除された者の 3 割が連絡先不明となるなど、自立が困難な生活に陥りやすい状況を指摘する声も多い。」

今回、本調査を実施した調査対象者は 318 人であったが、対象者本人の回答数は 62 で、回答率は 19.5%であった。施設出身の対象者は 229 人あり、施設からの回答は 205 人分あったが、実際に対象者の現状を把握したり、対応をしたりしているかをアンケート結果から見ていくと「1年に1回も交流がない」という数は 57 人であったので、現在の状況を施設側が把握できているのは 172 人で、75.1%あるということになる。里親からの回答はアンケート発送数 89 通のうち、返信が 29 人で、回答率 32.6%であった。

この結果を整理すると、対象者本人 318 人のうち、139 人は住所不明となっており、その割合は 43.7%であり、上記平成 29 年の募集要項にある「3 割が行方不明」より増加していて、状況が改善されているとは言い難い。

社会的養護経験者のうちの多くが児童養護施設で生活をしてきたため、施設調査から一番多くの情報が得られるのではという予想をしていたが、調査では、最近までの施設との接触がある対象者の情報しか把握できず、それらの対象者は施設に報告できるような、一定安定した生活を送っている層と、最近問題が発覚して施設も支援しなければならない層の二極となっている傾向が見られた。

里親調査では、成人して家庭を持ち、時々子どもも含めた家族で里親を訪れるといった光景が想像できる回答が多く見られた。一方で回答がない理由は想像しかできないが、現在は交流がないとか、関係が不調であったなど、調査に回答する気持ちになれなかったこともありうると思われた。

本人対象の調査は回答 62 名とごく少なかったが、施設や里親と接点がある人たちの結果とかなり異なっていたのはひとり暮らしの割合が 60.0%と多いことである。

連絡協議会の中で出た意見をもとに、回答の謝礼としてクオカード 2,000 円分を準備したのは、現在アフターケアを行っている対象者の中に、金銭的な面で苦勞している人が多いことから、少しでも支援につながればという思いもあったためであるが、インターネットを活用できる若者向きの回答システムを導入したことで、困窮している層や、進学してがんばっている層の対象者など、多様な回答が寄せられたという手ごたえがあった。

各回答の分析は調査結果に掲載したが、以下に、令和 2 年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親託等が解除された者の実態把握に関する全国調査（対象者 2015 年 4 月～2020 年 3 月に中学校卒業以降で施設等を退所した人 全国調査対象者数 20,629 人のうち回答 2,980。回答率 14.4%。そのうち宮城県の調査対象者数は 287 人、うち回答 27、回答率 9.4%）」と今回の調査の比較をおこなってみた。

令和 2 年度の調査と、今回の宮城県の調査は平成 30 年（2018 年）4 月～令和 5 年（2013 年）3 月と調査年も異なっており、2020 年からは新型コロナウイルス感染症の影響もあるため、単純に比較はできないが、参考となる部分もあると思われる。

令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」
と
「宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査（令和5年度）」の比較

凡例

- ・Q番号は、今回調査「宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査（令和5年度）」の対象者本人への質問項目の番号
- ・「全国調査」とは「令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査」（サンプル数全国2,980）のこと。
- ・「宮城県調査」は今回調査「宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査（令和5年度）」（サンプル数62）のこと。
- ・表に示されている％は、各質問項目全回答の選択肢の％のみを示しているため、100％とは限らない。

Q番号	上段：選択肢 下段：コメント	全国調査	宮城県調査
Q7	働いている	63.6%	61.8%
	学校に通っている	15.6%	25.0%
働いている割合はほぼ同じ。宮城県が学校に通っている割合が多い。			
Q8-2	正社員	57.3%	34.1%
	パート・アルバイト	27.9%	38.6%
	契約社員・派遣社員	9.2%	18.2%
宮城県は正社員の割合が少なく、パート・アルバイト・契約社員・派遣社員の割合が高い。			
Q9	4年制大学	35.7%	35.0%
	専門学校・短期大学	30.9%	35.0%
	全日制高校	19.1%	15.0%
	定時制・通信高校	9.9%	10.0%
傾向はほぼ同じだが、宮城県は専門学校・短期大学の割合がやや高く、全日制高校の割合がやや低い。			
Q12	民間賃貸住宅	52.0%	51.6%
	親の家	11.9%	9.7%
	会社や学校の寮	11.6%	6.5%
	福祉施設・自立援助ホーム	2.6%	14.5%
	公的賃貸住宅	2.7%	0.0%
全国は親の家・寮・公的賃貸住宅の割合が高い。宮城県は福祉施設・自立援助ホームの割合が全国の約6倍を示している。			
Q13	ひとり暮らし	51.7%	60.0%
	親	21.3%	9.2%
	交際中の人・結婚相手	17.2%	4.6%
	きょうだい	10.7%	1.5%
	子ども	6.5%	0.0%
	親戚	4.8%	10.8%
全国では親・交際中の人・結婚相手・きょうだい・子どもと暮らしている人の割合が高い。宮城県はひとり暮らし、親戚と暮らしている人の割合が高い。			
Q15	収入のほうが多い	26.8%	35.5%
	同じくらい	31.4%	32.3%
	支出のほうが多い	22.9%	9.7%
	わからない	17.9%	22.6%
宮城県は収入の方が多くと感じている人の割合が高く、全国は支出の方が多くと感じている人の割合が多い。どちらかわからないと答えている人の割合は宮城県が高くなっている。			

Q18-1	最近1ヶ月間健康だった	79.8%	67.7%
	最近1ヶ月間健康でない日があった	18.5%	32.3%
健康度は全国より宮城県が低い傾向がみられる。			
Q19	最近1年間病院受診できない日があった	20.4%	24.2%
	あまり差はない。		
Q20	<受診できない日があった理由>		
	お金がかかるから	66.7%	38.5%
	時間がないから	45.8%	23.1%
	どの病院に行けばいいかわからないから	17.1%	11.5%
	病院が遠いから	8.4%	11.5%
全国では、お金がかかるから・時間がないからの割合が非常に高い。 宮城県で病院が遠いからの割合が多いのは地域性もあるか。			
Q25	<この1年間で施設・里親などどのくらい連絡をとりましたか>		
	週に1回以上	7.2%	14.5%
	月に1回以上	20.7%	25.8%
	2～3カ月に1回以上	27.2%	21.0%
	半年間に1回以上	18.8%	21.0%
	1年間に1回以上	14.2%	6.5%
	1年間に1回もない	8.9%	11.3%
それほど大きな差は見られないが、週に1回以上が宮城県で14.5%、全国では7.2%ということに特徴がみられる。			
Q30	<退所した後退所した施設や相談支援機関から受けたサポート>		
	日常的な雑談・相談	36.0%	11.6%
	不安やトラブル等の悩み相談	24.4%	14.0%
	誕生日や成人式などのお祝い	18.8%	4.1%
	食事・食料の提供	15.9%	10.5%
	金銭管理サポート	9.4%	7.0%
	職場訪問	8.6%	5.8%
	住まい探し	7.9%	5.2%
	わからない	14.3%	9.3%
	サポートは受けていない	19.4%	5.2%
	お金の借り入れ、補助	6.2%	3.5%
全国の支援内容が手厚く見えるが、一方で、わからない・サポートは受けていないの全国の割合が高く、二極化の傾向もみられる。			
Q31	退所後の施設のサポート		
	①よかった+まあまあよかった	61.3%	53.2%
	②よくなかった+あまりよくなかった	5.9%	3.2%
	児童相談所のサポート		
	①よかった+まあまあよかった	60.4%	51.6%
	②よくなかった+あまりよくなかった	11.3%	9.7%
	一時保護所		
	①よかった+まあまあよかった	36.8%	28.1%
	②よくなかった+あまりよくなかった	13.0%	9.7%
	施設の生活		
	①よかった+まあまあよかった	75.7%	33.8%
②よくなかった+あまりよくなかった	7.6%	0.0%	

	退所に向けたサポート ①よかった+まあまあよかった ②よくなかった+あまりよくなかった	67.1% 3.9%	33.8% 4.8%
退所後の施設のサポート・児童相談所のサポート・一時保護所については、全国の「よかった+まあまあよかった」という評価が宮城県より高く、「よくなかった+あまりよくなかった」も全国の割合が高くなっており、全国での評価は二極化している。施設の生活については、「よかった+まあまあよかった」に大きな差があり、全国が75.7%に対して宮城県は33.8%であった。反面、「よくなかった+あまりよくなかった」は宮城県で0%、全国で7.6%となっている。退所に向けたサポートについても大きな開きがあり、「よかった+まあまあよかった」は全国で67.1%に対し、宮城県は33.8%であった。「よくなかった+あまりよくなかった」はそれほどの差はなかった。			

総合的な所見と今後の課題

全国調査は平成27年（2015年）4月～令和2年（2020年）3月に中学卒業以降で施設等を退所した人を対象とした調査であるのに対し、今回の調査は平成30年（2018年）4月～令和5年（2023年）3月に中学卒業以降で施設等を退所した人を対象としているため、調査年度の違いも勘案する必要があるが、傾向を比較して、宮城県の実態を浮き彫りにしてみる。

2020年から新型コロナウイルス感染症の流行もあり、飲食店などを中心に事業の縮小を余儀なくされた社会の状況もあり、施設入所者の中には当面進学をして様子を見るという選択をした人もあったと聞く。その影響もあるのか、宮城県の対象者で学校に通っている人の割合が高かった。

しかし、進学先は専門学校・短期大学の割合がやや高く、4年制大学を選択するまでに至っていない。また、全日制高校に在学する者の割合がやや低めであり、中途退学が多い可能性がある。高校中途退学となると、中学卒の資格しかなく、就労も難しいことが想像される。何とか高校を卒業できるサポート体制が望まれる。

今回の調査で現在学校に通っているについては、25.0%となっており国が15.6%であるのに対し、高い割合となっている。奨学金や貸付の有無も調べてみないとわからないが、本人の調査の心配事に「生活費や学費のこと」が13.4%となっていることの要因にもなっているのではないかと考えられる。

新型コロナウイルス感染症の流行は長く続き、求人が少なかった時期に就職をしたということもあったかと考えられるが、宮城県の調査では、正社員の割合が低く、パート・アルバイト・契約社員・派遣社員の割合が高かった。このことが、現在の生活を不安定にしていることも考えられる。

現在の住居については、全国調査では親の家・寮・公的賃貸住宅の割合が高く、宮城県ではひとり暮らしの民間賃貸住宅が多くなっており、公的賃貸住宅入居者はいなかった。社会的養護経験者の中には保証人がいない、収入が不安定であるなど、困難を抱えた人が多いため、アフターケアとして生活保護受給の申請をせざるを得ない人もあるが、若いうちから生活保護を受けてしまうと就労意欲をなくす場合もあるため、状況に応じて公的賃貸住宅を社会的養護経験者に貸し出すなどの制度もできるとよいのではないだろうか。

また、宮城県は全国に比べ、福祉施設・自立援助ホームの割合が全国の約6倍を示している。それだけ様々な障害を抱えた人が多いのかもしれないが、近年愛着障害の研究がすすみ、被虐待児が発達障害と思

われて、適切な対応がなされていないという専門家の所見もあり、幼少期から専門的治療を受けられる体制づくりが必要かと思われる。

入所児童の抱える問題が複雑化、多様化する中で、対応する職員の増員は十分でないという声も多く聞かれる。少子化が進む日本で、虐待によって子どもたちが破壊されていくのを見過ごすことなく、子どもへの支援を手厚くしていかなければならない。

金銭管理は社会的養護経験者の大きな課題である。施設入所中にひとり暮らしのイメージを作れるよう、職員もサポートしているほか、宮城県ではアフターケア事業者によるソーシャルスキルの学習会を行っているが、受講は任意のため、すべての対象者に届けることはできていない。自分の生活の中で、収入と支出どちらが多いかと聞かれて「わからない」という回答が22.6%という宮城県の対象者の状況は大変心もとない状況と言わざるを得ない。

金銭に関することでは、体調が悪くても受診しない理由に「お金がかかるから」が全国、宮城県共に多いことも懸念材料となっている。「時間がないから」という理由の中にも、受診で時間を取られると、その分収入が減ってしまうパート・アルバイトなどの雇用形態が影響していることも考えられる。

その他について概観すると、全国の支援内容は手厚く見えるが、その恩恵を受けている人と受けていない人の二極化が見られる。地域による格差もあるかもしれない。

宮城県では退所してからも県内に居住している人が多いため、施設や里親と会う頻度も高い傾向があるようだが、今回の調査の回答数では推測の域を出ない。宮城県の施設での生活の満足度はあまり高くなかったが、不満を示す回答はほとんどなかった。全国調査で、施設での満足度が良い評価と悪い評価に大きく二分されているところからすると、何らかの格差があるか、対象者にとってよい記憶がないためか、詳細を調べないとわからないところではある。

退所にむけたサポートに関しては、全国に比べ宮城県では満足度が低い結果となっている。

今後、社会的養護自立支援事業として推進すべきこととしては次の5つをあげておきたい。

1. 自立支援事業と施設や里親、児童相談所等の連携を深めて、入所の時期からそれぞれの対象者に合わせたサポートを行う。
2. 自立支援事業と施設や里親、児童相談所等の連携で、アフターケアにつなげる体制を整える。
3. 自立支援事業と施設や里親、児童相談所等、アフターケア事業実施者が協力して、これまで対応してきたケースでのノウハウを蓄積し、支援プログラムを充実させていく。
4. 様々な問題に対応する専門家を交えた支援者のチームを構成し、社会的養護経験者への理解に基づいて、本人の希望を尊重しながら自己実現を支援する環境を整えていく。
5. 社会的養護経験者本人の自己責任を問えない、虐待などの結果による環境や行動には、社会の責任として彼らを育てていくという視点を持った支援体制を、国や自治体、民間で構築していくこと。

おわりに

本調査では、対象者本人、施設、里親対象より寄せられた回答の各データを入力、集計、分析、考察し、加えて、令和2年度に実施された「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査『令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金』の採択案件の成果報告書の公表について / 三菱UFJリサーチ&コンサルティング (murc.jp)」を参考に、比較検討し、更に今後の課題についての考察を行った。

また、宮城県「社会的養護自立支援事業業務」「仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア事業」に専門家の立場で関わっていただいている仙台弁護士会有志による「子どもリーガルサポートチーム:略称CLT (Children Legal-support Team)」の弁護士4名をアドバイザーとして、日頃入所児童等のソーシャルスキル獲得のための学習会（多くは施設内で行っているため「出前授業」とも呼んでいる。）や個別支援を含むアフターケア事業から感じていることなどを寄稿していただいた。

今回の調査を足掛かりとして、様々な困難を抱える社会的養護経験者をサポートする輪が広がることを期待したい。

社会的養護経験者の自立に向けて

弁護士 勝田亮 (アネスティ法律事務所)

1 はじめに

児童養護施設入所児童の自立支援事業として、これまでいくつかの児童養護施設において、子どもたちに、施設自立後の社会生活において必要な契約の知識、法的な知識についての講義を担当してきました。また、児童養護施設を退所した人たちからの法的な相談を担当いたしました。これらの経験を踏まえて、弁護士という視点から、児童養護施設を退所する子どもたちに対するソーシャルスキルとしての法的な知識が重要であること、児童養護施設を退所した人たちに対するアフターケアの大切さについて感じたことについて述べさせていただきます。

2 ソーシャルスキルとしての法的な知識の重要性

(1) 成人年齢が18歳となったことから、児童養護施設を退所して社会にでる子どもたちたちの多くは成人になっています。

成人になると一人でアパートを借りたり、ローンを組んだりすることができるようになりますが、その一方でいろいろな責任も負担することにもなります。契約して責任を負担した場合、責任を果たさないとどのようなペナルティが課せられるのかということについて知っておくことも大切です。

法的知識の習得は、子どもたちが社会に出るにあたって必要であり、とても意義のあることではありますが、子どもたちは、自分たちにとって身近ではない小難しい法律の話を時間かけて聞くということには消極的であり、学習会の参加者を増やすというのはなかなかハードルが高いようです。

(2) 実際に進学が決まっている、就職が決まっているという子どもたちの場合は、自分たちが施設を退所することについて現実味を帯びているので、例えばアパートを借りる賃貸借契約の話とか、仕事を

してどうして給与をもらうことができるのかという雇用契約の話とかについて関心を有しているの
で、真剣に耳を傾けてくれます。

一方で、まだ社会にでるとい状況にない子どもたちたちに対しては、例えば、スマホを題材に
して、オンラインゲームの課金の問題や多重債務の問題などを取り上げて講義するなど、子どもた
ちが身近で気になるテーマを取り上げて契約の話をするなど興味を持ってもらえるように我々が努
力する必要があると思います。

- (3) 法律の話は難しい話なのかもしれませんが、子どもたちが生活をしていくにあたって必要な知識で
あり、できるだけ多くの施設で、複数回、継続的に実施していただくのが効果的であると思いま
す。

3 児童養護施設を退所した子どもたちに対するアフターケア

- (1) 前述した弁護士によるソーシャルスキルトレーニングを通じて社会的養護の子どもたちに、弁護
士を少しでも身近な存在と感じてもらい、「法的トラブルに巻き込まれた際には弁護士に相談するこ
とができる」ということを認識してもらうという効果も得られると思います。

- (2) 私がアフターケアとしてかかわったケースで印象的であったのは、子どもの引受先との調整が不
分で子どもと引受先がトラブルとなったケースと、大人から騙されて借金をさせられたケースがあ
りました。

いずれのケースも、アフターケア事業のおかげで、早めに弁護士への相談ルートが出来上がった
ことから解決に結びつけることが出来ました。

このようなアフターケア事業がまだなかった時は、退所した児童養護施設の職員に個人的に相談
するということが行われていたようですが、制度として児童をフォローするという体制にはなって
いませんでした。職員の個別のネットワークによる属人的なフォローとなっていたので、十分な支
援は難しかったのだらうと思います。

もちろん、アフターケア事業の制度設計は、各地域によって異なっており、必ず弁護士がかかわ
らなければならないという仕組みにはなっていないため、弁護士によるアフターケアを受けられる
地域とそうでない地域があります。前述しましたように、児童養護施設の児童が社会にでるとい
う場合は、法的社会に出るといことであり、弁護士がアフターケア事業にかかわる必要性は高いと
感じております。今後の課題としては、児童養護施設を退所した児童に対するアフターケア事業に
弁護士が積極的にかかわれる仕組みづくりができないだろうか、ということにあると思いま
す。

4 最後に

成年年齢が18歳となったことで、児童が自立できる時期が前倒しされましたが、その一方で多重債
務や契約トラブルといった法的な紛争に巻き込まれる可能性も増えました。児童養護施設を退所する児
童の多くが成人であるということ踏まえた、子どもたちの自立に向けた支援の在り方とはどのような
ものか、現在行われているアフターケア事業を検証しつつ検討していくことが必要であらうと思いま
す。

弁護士 北島みどり（ゆずりは法律事務所）

児童養護施設等で生活をする子供達にとって、施設から離れ、自立して生活することの困難さは想像に難くない。出前授業は、今後直面するかもしれない困りごとを念頭において、法律などの観点から話をしているが、子供達自身が将来の自分の具体的なイメージを持つことは難しいように感じている。

しかし、出前授業を含めたアフターケア事業を継続的に行うことによって、将来のイメージの具体化に結び付けることが可能となるのではないかと思われる。また、内容について十分理解ができなくても「あの時こんな話を聞いたな」などと思い出してもらえれば、何か困ったときに自分自身を守る手掛かりやきっかけになることを期待したい。

我々としても施設職員の方々のニーズや子供達の実態を踏まえつつ、また、本調査結果を参考にしながらより有用な関わりを検討していきたい。

弁護士 坂口真理子（I S - C a l m法律事務所）

児童養護施設では、主に「生活上のお金のこと」と題し、一人暮らしにかかるお金や契約、クレジットやスマホ決済など幅広い内容で講義をしています。

ここ数年の間に、携帯での支払方法が一般的になったり、成人年齢が18歳になったりするなど社会の目まぐるしい変化に合わせて講義の内容もアップデートしていますが、事前に施設からのリクエスト（例えば奨学金や賃貸借契約のこと）に対応して、子どもたちが退所後不安に思ったり心配に感じていることも講義内容に加え、少しでもその不安や心配が払拭できるよう、講義をしています。退所後一人暮らしが決まっている子どもは、やはりこれから自分が一人暮らしをするにあたって必要な知識、ということで、子ども達も興味のある内容のようです。報告書中 Q29 でも、一定数の子どもが講義を受けていることがわかります。

もともと、退所後も報告書中 Q34 によれば、生活費や学費のこと、住まいのことで不安に感じている子どもが多いことから、一人でもその不安を感じない子どもが増えるような講義を提供できるように努力したいと思います。また、講義の最後には、少しでも困ったことがあれば施設の職員や専門家に相談するようにアドバイスをしており、報告書でも退所後施設や相談支援機関から不安やトラブルなど悩み相談のサポートを受けていることから、退所後も子どもたちにはぜひつながりを持ってほしい、と感じています。

1 出前授業を通じて

アフターケア事業の前提として、法律にまつわるテーマ（男女交際、18歳成年と契約関係など）を中心に児童養護施設（小規模施設も含む）やファミリーホームへの出前授業を行っている。その狙いは、①社会的養護を離れた後に、安心して相談してくれる選択肢として児童の記憶に刻まれること、②児童養護施設の職員と連携してリービングケアから児童に関わることでアフターケアへの円滑な移行を図ること、③自立後のトラブル予防に役立つ知識を児童自身に身につけてもらうことにある。授業中に児童が普段とは違う反応を見せ、職員がその様子に触れることで、支援の材料が増えるメリットもある。

ただ、出前授業実施に至る調整について施設職員側に余裕がない等の理由で、実施に至らない施設もあり、アフターケア事業の網羅性・公平性の実現が緊急の課題となっている。この点については、宮城県及び仙台市による児童向けの「自立支援事業」であることからすれば、事業の実施を施設の判断に委ねるのは妥当でない。折しも、「意見表明支援事業」の全面実施が課題とされるタイミングにあるだけに、措置元である児童相談所から施設に対して出前授業実施に向けた働きかけを強化すべきである。

2 個別相談を通じて

個別相談につながる児童が抱えるトラブルとしては、多重債務問題（背景には金銭管理のスキル不足や軽度知的障害の影響、スマホによる債務負担の容易さ等がある）が多く、中には、友人に誘われてホストクラブを利用し、高額な利用料の請求を受けて、サラ金からの借入れ金、風俗業やパパ活（売春）で得た金を弁済に充てていた（実態はそれらを強要されていた）ケースもあった。

その根底には、社会的養護から「自立」（家庭復帰できずに施設や里親宅からそのままアパート暮らしを始めるかグループホームに入所すること）した児童が直面する複数の生き辛さがある。社会で出会う他者との人間関係を構築する難しさはもちろん、一人暮らしに必要な生活スキルの不足を補う支援の乏しさ、さらには、予想に反して猛烈な孤独感に襲われることへの耐えがたさがあり、孤独感に付け込む者たちの存在がある。そして、児童が困難に直面してから相談に至るまでにタイムラグができる（その結果、状況を悪化させてしまう）要因としては、「叱られるのではないか」「心配をかけてはいけないのではないか」という児童側の心理が強く働いている。

結果として相談につながっているのは、直接アフターケア事業に連絡をくれるケースを除けば、出身施設におけるアフターケア担当者に熱意があり、児童もその担当者を信頼して慕っているケースである。

こうしたトラブルを予防するには、安全な他者と日常的に話せる機会が重要であり、SNSの活用や定期的に集うことのできるサロンの運営などが検討されてよいが、そのための予算や人的資源の確保が急務である。

宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査事業

資 料

1. 事業実施の経過……………P2～P5
2. 本人対象調査票
3. 施設対象調査票
4. 里親対象調査票

事業実施の経過

児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第1回の実施

第1回 連絡協議会

開催日 令和5年6月2日（金）14時～15時
場所 宮城県自治会206号室
主催 宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課

<参加者>

宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課 課長 野呂英樹
総括課長補佐（児童・家庭支援担当） 佐々木博
宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課子ども育成班 課長補佐（班長）大場毅 主事 鈴木亜紀
一般社団法人パーソナルサポートセンター 執行役員 平井知則
社会福祉法人キリスト教育児院丘の家子どもホーム 副園長 藤田毅
社会的養護経験者 松浦綾佳
みやぎ里親支援センターけやき センター長 ト蔵康行
仙台市こども若者未来局こども支援給付課 係長 佐藤薫
仙台市児童相談所相談指導課 児童福祉司 鈴木優希
宮城県中央児童相談所家庭支援第三班 主幹（班長） 齋藤早苗
宮城県北部児童相談所家庭支援第二班 技術主幹（班長） 菊池祐子
宮城県東部児童相談所家庭支援第二班 技師 鈴木佑治
宮城県東部児童相談所気仙沼支所家庭支援班 技術次長（班長） 伊藤弘見
宮城県立さわらび学園指導班 次長（班長） 内海尚彦
特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子

<議題>

- (1) 「宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査」について
- (2) その他

<委員の意見>

- 対象者の回答率を上げるための工夫が必要
- 令和2年度の国の調査での宮城県の回答数は27
- 当事者であった委員から「これまで様々なアンケートに回答してきたが、結果を知らせてもらったことがない。フィードバックが大切」という意見が出た。
- 回答したメリットがあるとよい。謝礼を出してはどうか。
- 郵便物をあまり見ない対象者が多い。オンライン回答ができれば、施設職員からURLやQRコードを知らせることができる。

児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会第2回の実施

開催日 令和5年12月1日（金）
場所 まなウェルみやぎ
主催 宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課

<参加者>

宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課 課長 野呂英樹
同 総括課長補佐（児童・家庭支援担当） 佐々木博
同 子ども育成班 課長補佐（班長）大場毅
同 主事 鈴木亜紀
社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家子どもホーム 副園長 藤田毅
特定非営利活動法人まきばフリースクール 峠のまきば 管理者 中山崇志
みやぎ里親支援センターけやき センター長 ト蔵康行
仙台市こども若者未来局こども支援給付課 係長 佐藤薫
宮城県中央児童相談所 家庭支援第三班 技術主任主査（副班長） 沢田忠義
宮城県北部児童相談所 家庭支援第二班 主事 樋田竜仁
宮城県東部児童相談所 家庭支援第二班 次長（班長） 佐藤信男
宮城県東部児童相談所 気仙沼支所家庭支援班 技術次長（班長） 伊藤弘見
特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子 職員 門脇美香

<議題>

1. 調査事業計画案及び各種アンケートについて意見聴取
 - (1) 宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査事業計画案
 - (2) 対象者アンケート依頼文書
 - (3) 対象者アンケート項目
 - (4) 対象者アンケート回答用紙

説明事項

前回の委員会の意見を反映し、下記のことを実施。

○対象者本人の回答方法に郵便とオンライン回答を併用する。

○対象者本人へフィードバックする。

○アンケートに回答し、希望して住所を提供した対象者本人にクオカード2,000円分を協力謝礼として送付する。

2. 施設あて調査について意見聴取

<委員の意見>

○個人情報の扱いに留意しなければならない。

「宮城県における児童養護施設退所児童等実態調査に係る施設向け説明会」の実施

開催日 令和5年12月1日(金)

場所 まなウェルみやぎ

主催 宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課

<参加者>

宮城県保健福祉部子ども・家庭支援課 課長 野呂英樹
同 子ども育成班 課長補佐(班長) 大場毅
同 主事 鈴木亜紀
社会福祉法人旭が丘学園 園長 菅原竜喜
社会福祉法人キリスト教育児院 丘の家子どもホーム 副園長 藤田毅
小松島子どもの家 副園長 ニツ山亮
社会福祉法人ラ・サール会 ラ・サール・ホーム 自立支援担当職員 高橋美夏子
社会福祉法人ロザリオの聖母会 仙台天使園 自立支援担当職員 根岸真貴子
社会福祉法人善き牧者会 小百合園 主任・家庭支援専門相談員 相澤千秋
特定非営利活動法人まきばフリースクール 峠のまきば 管理者 中山崇志
認定特定非営利活動法人ロージーベル 事務局 神保久子
一般社団法人児童福祉経営支援協会 自立援助ホーム部門長 小林努
ざおうホーム 養育者 ト蔵康行
子どもの家きむら 事務局長 櫻井恭仁
どんぐりとやまねこ 養育者 樋口洋一
仙台市こども若者未来局こども支援給付課 係長 佐藤薫
宮城県中央児童相談所家庭支援第三班 技術主任主査(副班長) 沢田忠義
宮城県北部児童相談所家庭支援第二班 主事 樋田竜仁
宮城県東部児童相談所家庭支援第二班 次長(班長) 佐藤信男
宮城県東部児童相談所気仙沼支所家庭支援班 技術次長(班長) 伊藤弘見
特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ 代表理事 小林純子
同 職員 門脇美香

第3回児童養護施設退所児童等実態調査に係る連絡協議会

3月6日 書面開催の通知文書発出

3月13日締め切りで意見集約 特に意見なし

調査票などの作成

(1) 対象者本人用

- ①調査依頼状
- ②アンケート用紙
- ③回答用紙

調査はGoogleフォームを作成し、QRコードにて回答を求める方法と、スマホを持たないなどQRコードにアクセスできない対象者にはアンケート用紙に記入して郵送する方法のいずれかを取れる形とした。

(2) 施設用

- ①調査依頼状
- ②回答記入シート

記入シートを作成し、オンラインで回答してもらう形式とした。オンラインが難しい施設には記入シートを印刷した用紙を送って、回答を郵送してもらう形とした。

(3) 里親用

- ①調査依頼状
- ②記入シート様式のアンケート回答用紙

里親は高齢の方も多いため委員からの意見をもとに、アンケート用紙を郵送し、記入して返送してもらう形とした。

(4) 返信用封筒

料金受取人払い返信用封筒作成について、12月7日に郵便局へ申請し、12月19日に申請許可が下り、印刷会社に発注、12月21日に納品された。

調査表の発送にあたっての対象者名簿について

県の担当課より令和5年12月18日に名簿を受け取り、送付方法については下記の①～④に分類し、①～③は発送、④は発送無しとして作業を進めた。

- ① 住所、氏名等の記載を受託団体が宛名を記載し発送するもの
- ② 住所、氏名等を記載し、調査票を封入したものを受託団体が作成し、施設・児童相談所へ送付し、施設・児童相談所から発送するもの
- ③ 住所、氏名等は記載せず、調査票を封入したものを受託団体が作成し、施設・児童相談所へ送付し、施設・児童相談所で宛名を記入し、発送するもの
- ④ 居所不明で送付できないもの

調査表などの発送 令和5年12月22日

上記対象者本人用、里親用、郵送が必要な施設用それぞれの依頼状と調査票に加え、郵送で返信する料金受取人払封筒と社会的養護自立支援事業パンフレットを封入して発送した。

調査表回収・集計

1月20日を〆切としていたが、2月1日まで延長し、それまでに届いたものを対象として集計を開始した。2月29日に速報値などを宮城県担当課に提出。

調査協力者（個人）への謝礼品準備・発送

①謝礼品：クオカード（2000円×50～100枚）

②礼状

アンケートに回答した対象者本人に対し、謝礼品として2000円のクオカードを送付した。

希望した人の数は52名 希望しなかった人10名

謝礼品希望としながら匿名希望になっていた人、住所記載が誤っていて返送された人には、電話などで連絡を取って確認し、全員に送付、令和6年2月6日 発送終了

調査票集計結果のデータ入力・集計・分析・考察

対象者本人、施設、里親対象の各データを入力、集計し、令和2年度に実施された「児童養護施設等への入所措置や里親委託等が解除された者の実態把握に関する全国調査『令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業費補助金』の採択案件の成果報告書の公表について | 三菱UFJリサーチ&コンサルティング (murc.jp)」を参考に、分析、考察を行った。その際、宮城県「社会的養護自立支援事業業務」「仙台市児童養護施設等入所児童自立支援・アフターケア事業」に専門家の立場で関わっていただいている仙台弁護士会有志による「CLT」の弁護士4名をアドバイザーとして、日頃のアフターケア事業から感じていることなどを寄稿していただき、報告書に記載した。

宮城県 児童養護施設や里親家庭などで生活していた方へのアンケート ご協力をお願い

(本調査実施主体：宮城県 委託先：NPO 法人チャイルドラインみやぎ)

1. アンケートの目的

みなさんが児童養護施設や里親家庭などで生活していた時のこと、そのころ感じていたこと、また、これまでの経験や今の生活についてなどをお聞きし、県や国として、これからどのような取り組みをしたらよいかを検討する大切な意見とすることを目的としています。

2. アンケートの対象者

過去5年間(平成30年=2018年4月～令和5年=2023年3月)のうちに、中学校を卒業以上で施設を退所した人、里親の委託が解除となった人、およそ330人。

3. アンケートの方法

みなさんが生活していた施設や里親家庭等からの情報、または仙台市・宮城県からアフターケア事業を委託されている特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎに登録してくださった情報によってアンケートを送り、お返事をいただきます。アンケートは、ひとり一回の回答で結構です。

質問は全部で46問、回答時間はおよそ20分です。

4. お返事をいただく方法 以下の①か②いずれかでお願いします。

- ① QRコードを読み込む、または <https://forms.gle/fK5GxQ6RCZiwmhmu5> にアクセスして
グーグルフォームで回答する。
- ② QRコードを読み込めない場合、アンケート回答用紙に記入して、同封の返信用封筒で
郵送する。



ご回答〆切 2024年 1月20日 でお願ひします。

5. アンケートへのご協力謝礼

- ① 回答してくださった方で、住所を記入してくださった方に、謝礼として2,000円のクオカードをお送り
します。
- ② アンケートの結果は後日県のHPで報告します。グーグルフォームで回答してくださった方にはメールでお知らせします。

6. お約束

- ① このアンケートに書いていただいた情報は、個人情報としてしっかり管理し、調査終了後は適切に破棄
します。
- ② アンケート内容について、個人が特定されることはありません。
- ③ 答えたくない、答えるのが難しいところは記入しなくても大丈夫ですが、できるだけ記入にご協力をお願
いします。

7. お願ひ

- ① できるだけ多くの方の意見をお聞きしたいので、みなさんの知り合ひで、このアンケートが届いていない
という方に伝えてください。
ただし、対象者の条件(上の「2. アンケートの対象者」)を満たしていることが必要です。
- ② お知り合ひへのお知らせの方法 (下記のa、bいずれかでお願いします。)
 - a. アンケート回答のQRコードを転送してあげてください。
 - b. アンケート用紙を送ってもらう方法(以下)を教えてあげてください。
 - ・チャイルドラインみやぎ携帯番号090-2990-9977へ電話するか、ショートメールで「アンケート用紙を送ってほしい」と連絡する。

8. アンケートに関してのお問合せ先

ご不明な点や不安なことがありましたら、下記へご連絡ください。

〒981-0954 仙台市青葉区川平1-16-5スカイハイツ102

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ「宮城県児童養護施設退所者等の実態調査事務局」

022-279-7210

E-mail: info@cl-miyagi.org

アンケート回答用紙 (本調査実施主体：宮城県 委託先：NPO 法人チャイルドラインみやぎ)

- ①記入する (QRコードを読み込んでグーグルフォームに記入するか、この用紙に記入するか、どちらか選ぶ)
②送る (グーグルフォームで送信するか、記入した用紙を同封の返信用封筒で送るか、どちらか選ぶ)
③もらう (送ってくれた人で、希望する人にはクオカード2000円分をお礼として送ります。)

質問は全部で46問、回答時間はおよそ20分です。

○オンライン (スマホなど) で回答する方

右のQRコードにアクセスしてグーグルフォームに記載されている質問に順次お答えください。オンラインで回答した方はこの回答用紙の郵送は不要です。

○QRコードを読み込めない方 ⇒このアンケート回答用紙に記入して郵送してください。



※施設や里親・ファミリーホームのことを「施設等」としています。「施設等を退所した後のこと」をたずねている質問は、最後に生活していた施設や里親家庭などを離れた後のことをお答えください。

以下質問です。お答えください。

(1) あなたのこと

Q1 このアンケートは誰から送られてきましたか？ または紹介されましたか？ (○はいくつでも)

1. 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ (宮城県からの委託団体)
2. これまで生活したことのある施設等 3. もと里親 4. 社会的養護経験者の当事者団体
5. 「1.2」以外の団体 6. 友人・知人 7. その他(具体的に： _____)

Q2 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

1. 女性 2. 男性 3. その他 4. 回答しない

Q3 年齢を教えてください。(数字を記入)

2023年12月1日時点で _____ 歳

Q4 現在住んでいる場所(都道府県)を教えてください。(都道府県名を記入)

(_____)都・道・府・県

Q5 最後に生活していた施設についてお聞きします。

①最後に生活していた施設を以下から選んでください。(○は1つ)

1. 児童養護施設 2. 児童自立支援施設 3. 児童心理治療施設(旧：情緒障害児短期治療施設)
4. ファミリーホーム 5. 自立援助ホーム 6. 里親 7. その他(具体的に： _____)

②入所期間を教えてください。(数字を記入) 約(_____)年 (_____)か月間

③退所年度を教えてください。(数字を記入) 西暦(_____)年度

④退所時の年齢は何歳でしたか。(数字を記入) (_____)歳

Q6 最後に生活していた施設等を退所、または里親の委託が解除された直後はどうしていましたか？(○は1つ)

1. 就職した 2. 働いていた職場で引き続き働いた 3. 進学した
4. 通っていた学校に引き続き通学した 5. 進路は未定だった
6. その他(具体的に： _____)

(2) 仕事・学校のこと

Q7 現在のお仕事や学校について、教えてください。(〇はいくつでも)

1. 働いている(パート・アルバイト・日雇いを含む)
2. 学校に通っている(実際には通学せず、オンライン授業の受講や通信制の学校等を含む)
3. その他(具体的に_____)

Q8 前のQ7で「1. 働いている」を選んだ人にお聞きします。

① 現在、あなたはいくつの勤務先で働いていますか。(〇は1つ)

1. 1か所
 2. 2か所
 3. 3か所以上
- ② 現在の働き方は、以下のどれに当てはまりますか。(〇はいくつでも)
1. 正社員
 2. 契約社員・派遣社員
 3. パート・アルバイト
 4. 日雇い・期間工(数か月間などある期間だけ工場などで働くこと)
 5. 自営業
 6. わからない
 7. その他(具体的に_____)

Q9 前のQ7で「2. 学校に通っている」を選んだ人にお聞きします。現在、どの学校に通っていますか。(〇は1つ)

1. 全日制高校
2. 定時制, 通信制高校
3. 専門学校・短期大学
4. 4年制大学
5. その他(具体的に_____)

Q10 最終学歴(最後に卒業・修了した学校)を教えてください。(〇は1つ)

1. 中学校
2. 全日制高校
3. 定時制・通信制高校
4. 専門学校・短期大学
5. 4年制大学
6. その他(具体的に_____)

(3) 住まい・家計のこと

Q11 施設等を退所した直後、どのようなところに住みましたか。(〇は1つ)

1. 民間：賃貸住宅(アパート・マンション等)
2. 公的：賃貸住宅(公団・県営・市営住宅など)
3. 自分の持ち家(戸建・マンション等)
4. 自分の親の家
5. 親せき・祖父母・きょうだいなどの家
6. 友人の家
7. 交際中の人の家
8. 会社や学校の寮
9. 福祉施設・自立援助ホーム
10. その他(具体的に_____)

Q12 現在は、どのようなところに住んでいますか。(〇は1つ)

1. 民間：賃貸住宅(アパート・マンション等)
2. 公的：賃貸住宅(公団・県営・市営住宅など)
3. 自分の持ち家(戸建・マンション等)
4. 自分の親の家
5. 親せき・祖父母・きょうだいなどの家
6. 友人の家
7. 交際中の人の家
8. 会社や学校の寮
9. 福祉施設・自立援助ホーム
10. 以前住んでいた里親の家や施設
11. その他(具体的に_____)

Q13 現在、誰と暮らしていますか。(〇はいくつでも)

1. ひとり暮らし
2. 交際中の人
3. 配偶者(結婚相手)
4. 自分の子ども
5. 自分の親
6. 配偶者の親
7. きょうだい
8. 祖父母
9. 親せき
10. 友人
11. その他(具体的に_____)

Q14 前の Q13 で「4. 自分の子ども」を選んだ人にお聞きします。

- ① 現在、何人の子と一緒に暮らしていますか。(数字を記入) _____人
- ② またその子は何歳ですか。全ての子どもの年齢を記入してください。(数字を記入)
_____ 歳 _____ 歳 _____ 歳 _____ 歳 _____ 歳

Q15 現在、毎月の収入(給料、アルバイト料、年金、奨学金など)と支出(家賃、食費、生活費、学費など)を比べるとどちらが多いですか。(○は1つ)

1. 収入のほうが多い(黒字)
2. 収入と支出はほとんど同じくらい
3. 支出のほうが多い(赤字)
4. わからない

Q16 現在の家計の状況として、当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 貯金がある
2. 返す必要のある奨学金がある
3. 2. の奨学金以外に、ローンや借金がある
4. わからない

(4) 健康・医療のこと ※施設や里親・ファミリーホームのことを「施設等」としています。

Q17 現在の心身の状態等として、当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. 健康である
2. 通院している
3. 入院中である
4. 通院していないが体調が悪い
5. 障害認定を受けている(難病を除く)
6. 難病の指定を受けている
7. その他(具体的に _____)

Q18 ①最近1か月の間に、健康上の理由で寝込んだり、仕事や学校を休んだり、家事ができなかったことはありますか。(○は1つ)

1. なかった
2. あった

②「2. あった」を選んだ人にお聞きします。合計で何日くらいでしたか。

1か月のうち(_____)日くらい(数字を記入)

Q19 過去1年間に、病院や歯医者に行きたいのに、行けなかったことがありますか。(○は1つ)

1. なかった
2. あった

Q20 前の Q19 で「2. あった」と回答した方にお聞きします。その理由として、当てはまるものを選んでください。(○はいくつでも)

1. お金がかかるから
2. 保険証がないから
3. 時間がないから
4. 病院が遠いから
5. 通院等について相談できる人や付き添ってくれる人がいないから
6. どの病院に行けばいいかわからないから
7. その他(具体的に _____)

Q21 施設等で生活していた時に治療・通院・カウンセリング等を受けていましたか。(○は1つ)

1. はい
2. いいえ

Q22 前の Q21 で「1. はい」を選んだ方にお聞きします。施設等を退所した後に、治療・通院・カウンセリング等を受けたいけれど受けられなくなったことがありますか。(○は1つ)

1. なかった
2. あった

Q23 前の Q22 で「2. あった」を選んだ人にお聞きします。治療・通院等がしづらくなった理由は何ですか。

(○はいくつでも)

1. お金がかかるから
2. 保険証がないから
3. 時間がないから
4. 通院等について相談できる人や付き添ってくれる人がいないから
5. 引っ越しなどで、今までの通院先やカウンセリング先に行けなくなったから
6. どの病院に行けばいいかわからないから
7. その他(具体的に_____)

Q24 これまでに病院にかかった時、どのように治療費を支払いましたか。(○はいくつでも)

1. 保険証を見せる
2. 医療券・調剤券を渡す
3. 全額を自費で支払う
4. わからない
5. その他(具体的に_____)

(5) 退所前・退所後のサポートのこと

Q25 この1年間で、施設職員、里親、ファミリーホーム職員等とどのくらい連絡をとりましたか。

(「連絡」とは対面・手紙・電話・メール・SNSなどによるもの) (○は1つ)

1. 週1回以上
2. 月に1回以上
3. 2～3か月に1回以上
4. 半年間に1回以上
5. 1年間に1回程度
6. 1年間に1回もない

Q26 施設等との連絡の頻度は多いと感じますか、少ないと感じますか? (○は1つ)

1. とても多い
2. やや多い
3. どちらともいえない
4. やや少ない
5. とても少ない

Q27 施設等で生活していた人たちの集まり(交流会)や団体とのつながりや関わりはありますか。

(○はいくつでも)

1. 同じ施設等で生活していた人たちの集まり(同窓会等)とつながりがある
2. 施設等で生活していた人たちが中心となっている団体とつながりがある
3. 1・2以外の施設等で生活していた人の集まり(交流会参加など)とつながりがある
4. つながりがないが、つながりたい
5. つながりがなく、つながらなくてよい

Q28 もし困ったことがあったときに、相談できる相手はだれ(どこ)ですか。(○はいくつでも)

1. 施設等で生活したことのある友人
2. 「1.」以外の友人
3. 交際中の人または配偶者(結婚相手)
4. 自分の親
5. 交際中の人(または配偶者)の親
6. 元里親
7. きょうだい
8. 親せき・祖父母
9. 施設の(元)職員
10. 職場の人
11. 相談支援機関の人
12. 児童相談所の人
13. チャイルドラインみやぎ
14. いない
15. 誰かに相談したいと思わない
16. わからない
17. その他(具体的に_____)

Q29 施設にいる間や退所するまでに、どのようなサポートを受けたり、学習会で学んだりしましたか。

(○はいくつでも)

1. 困りごとやわからないことの相談先の紹介や相談方法についての学習
2. 勉強の指導
3. 履歴書の書き方や面接指導など就職活動のサポート
4. 退所後の住まい探し・同行
5. 学習会 (生活費について)
6. 家事(料理・掃除等)の練習・学習
7. 学習会 (性に関すること)
8. 学習会 (仕事に関すること)
9. 学習会 (食事と栄養)
10. 学習会 (スマホ・インターネット・SNS)
11. 退所後の生活に関する冊子や資料の配布
12. 行政サービスの利用方法や年金、医療保険の説明
13. 保証人の確保
14. 奨学金制度の案内や申請
15. 職場訪問・職場体験
16. 施設等以外での一人暮らし体験
17. 退所後の不安の相談
18. 何もサポートは受けなかった
19. わからない
20. その他(具体的に_____)

Q30 施設等を退所した後、退所した施設等や相談支援機関(チャイルドラインみやぎを含む)から、どのようなサポートを受けましたか。(○はいくつでも)

1. イベントや交流会
2. 誕生日や成人式などのお祝い
3. 日常的な雑談・相談
4. 不安やトラブルなどの悩み相談
5. 学業の相談・サポート
6. 食事や食料の提供
7. 住まいや職場への訪問
8. 住まい探し
9. 就職先探し
10. お金の借り入れ・補助
11. 金銭管理のサポート
12. 行政の窓口の紹介
13. 住まいの提供
14. サポートは受けていない
15. わからない
16. その他(具体的に:_____)

Q31 施設等で生活していたときから現在までをふり返って、これまで受けたサポートをどう思っていますか。

①～⑥それぞれについて、教えてください。(それぞれ、1～7の数字の1か所に○)

	←よくなかった					よかった→		わからない・ 覚えていない	利用したこと がない
	3が普通								
①児童相談所の職員の対応	1	2	3	4	5	6			
②一時保護所の職員の対応	1	2	3	4	5	6	7		
③施設等での生活・施設職員等の対応	1	2	3	4	5	6			
④退所に向けたサポート	1	2	3	4	5	6	7		
⑤退所後の施設等からのサポート	1	2	3	4	5	6	7		
⑥退所後の施設等以外からのサポート	1	2	3	4	5	6	7		

②の一時保護所とは、施設等に入る前、または、施設入所中に一時的にいた児童相談所の保護所のことです。

利用したことがないところは「7」に○をしてください。

⑥は、施設や里親家庭以外の役所、福祉事務所、保健所、自立支援事業所、児童相談所、チャイルドラインみやぎなどのことです。

Q32 前の Q31 について、今後改善してほしいことなどがあれば具体的に教えてください。(自由記述)

Q33 施設等を退所する前に、不安だったことや心配だったことはどんなことでしたか。(〇はいくつでも)

1. 学校のこと
2. 仕事のこと
3. 生活費や学費のこと
4. 住まいのこと
5. 借金のこと
6. 家族・親せきのこと
7. 人間関係のこと
8. 孤独感のこと
9. 健康のこと(身体的)
10. 健康のこと(精神的)
11. 家事や食事のこと
12. 妊娠や出産、子育てのこと
13. 将来のこと
14. 不安なことはなかった
16. 覚えていない
17. その他(具体的に_____)

Q34 現在の暮らしのなかで、困っていること、不安なこと、心配なことはありますか。(〇はいくつでも)

1. 学校のこと
2. 仕事のこと
3. 生活費や学費のこと
4. 住まいのこと
5. 借金のこと
6. 家族・親せきのこと
7. 人間関係のこと
8. 孤独感のこと
9. 健康のこと(身体的)
10. 健康のこと(精神的)
11. 家事や食事のこと
12. 妊娠や出産、子育てのこと
13. 将来のこと
14. 困っていることはない
15. その他(具体的に_____)

Q35 現在の暮らしのなかでの不安・心配なことに対して、今後利用したいサポートやサービスはありますか。

(〇はいくつでも)

1. 現在の悩みやメンタルヘルス等について電話や SNS で相談できる非対面の相談窓口
2. 「1.」以外で、気軽に訪問・相談できる公的な相談窓口
3. 行政サービス、医療、年金など公的な制度・サービスに関する情報の提供
4. 退所者同士で交流できる場・イベント
5. 不安やトラブルなどを相談できる機会や場所
6. 住宅の確保に活用できる給付金など住居に関する支援
7. 食事の提供など食事・食料に関する支援
8. 地域若者サポートステーションやハローワーク、公共職業訓練など就業・就労に関する支援
9. 奨学金や、生活費の貸付、生活保護などの金銭面に関する支援
10. 妊娠・出産に関する相談や、子育て相談、育児講座など妊娠・出産・子育てに関する支援
11. 利用してみたいサポート・サービス等はない
12. その他(具体的に_____)

Q36 いま目標としていることや向き合いたいこと、生活する上での希望や願望があれば教えてください。犬を飼いたい、資格を取りたいなど、転職したい、結婚したいなど、自由に記入してください。(自由記述)

Q37 前の Q36 のことを実現するためには、どのようなサポートやサービスなどがあつたらいいと思いますか。

(自由記述)

◆アンケートにお答えいただいた方に、謝礼としてクオカード2,000円分をお送りします。

希望する場合は下記に記入してください。

住所	〒 (-)
ふりがな	
お名前	
送っても届かなかったときにお問合せするために、念のため連絡できる電話番号、メールアドレスなども教えてもらえるようでしたら以下に記入をお願いします。	
電話番号	
メールアドレス	

回答用紙を送っても2024年3月末になってもクオカードが届かない場合は下記にお問合せください。

- ・チャイルドラインみやぎ携帯番号090-2990-9977へ電話するか、ショートメールで連絡。
- ・特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ事務局へ 022-279-7210 (平日9:30~17:30)

※クオカード発送についてお聞きした個人情報は、クオカード送付のためだけに使用し、送付後は適切に破棄します。

記入し終わったら、記入済みのこのアンケート用紙を同封の返信用封筒に入れて投函してください。

ご協力ありがとうございました。

令和5年度
宮城県における児童養護施設退所者等の実態調査事業
(施設等記入用紙)

養護施設の名前についてご記入をお願いします。

(1) 別名

(2) 施設種別: 施設A 施設B 施設C

(3) 養育の所在地(市区町村)

依頼事項

- 過去5年間(平成30年4月から令和5年3月)に、中学卒業以降で措置解除、委託解除及び補助解除となった児童等について、1人につき1行ずつご記入をお願いします。
- 番号や数字を入力する際には、当鳥取県で入力をお願いします。半角数字以外を入力する場合は、このセルに半角カタカナのフリガナを記入してください。
- このアンケートシートに記入し、1月20日(火)までに、cal.house@wind.com.jp(調査事務局受付用メールアドレス)までメール添付にて送信をお願いします。
- 送信の際は、ファイル名を「養護施設名●養育施設名●養育施設名」に変更してご提出ください。
- 設問内容を把握するために本調査票を印刷する際は、①横方向、②A3、③すべての行を1ページに印刷と設定してください。
- ご不明の点がありましたら、3. のメール、またはチャットラインや電話 022-279-7210 (平日10時~17時、但し12月29日~1月8日を除く)へお問い合わせください。
- 記入欄が足りない場合は、別シートにNO2として記入していただき、エクセルの行を追加してご記入ください。
- 自由記述欄は文字数を気にせず一つのセルの中に2記入ください。

1. 対象者の 属性	2. 基本属性			3. 措置時点の状況													4. 措置解除時の状況														
	問1-1 この調査 対象者	問2 性別	問3 養護施設 の 入所年数	問4 措置時点 の 養育者	問5 措置時点の父親など生活実態 の状況 (※生活実態) ※(生活実態)とは、父(母)から養育を受ける場合、 児童のどちらかの養育(含めてお答えください)	問6 措置時点の子どもの状況 (※虐待状況) ※(虐待状況)とは、虐待の疑念により、虐待、虐待 が疑われて保護された児童(児童)を指すこと また虐待の疑念が認められた児童(児童)を指すこと お答えください	問7 措置時点の子どもの養育者の状況 (※虐待状況) ※(虐待状況)とは、虐待の疑念により、虐待、虐待 が疑われて保護された児童(児童)を指すこと また虐待の疑念が認められた児童(児童)を指すこと お答えください	問8 措置時点の子どもの 養育者の状況 (※虐待状況) ※(虐待状況)とは、虐待の疑念により、虐待、虐待 が疑われて保護された児童(児童)を指すこと また虐待の疑念が認められた児童(児童)を指すこと お答えください	問9 措置解除 の 理由	問10 措置解除 時の 年齢	問11 措置解除 時の 養育者 の 状況	問12 措置解除 時の 理由	問13 措置解除 時の 養育者 の 状況	5. 措置解除後の状況																	
1. 女性 2. 男性 3. その他	1. 1ヶ月 2. 1年以上 3. 2年以上 4. 3年以上 5. 4年以上 6. 5年以上 7. 6年以上 8. 7年以上 9. 8年以上 10. 9年以上 11. 10年以上 12. 11年以上 13. 12年以上 14. 13年以上 15. 14年以上 16. 15年以上 17. 16年以上 18. 17年以上 19. 18年以上 20. 19年以上 21. 20年以上 22. 21年以上 23. 22年以上 24. 23年以上 25. 24年以上 26. 25年以上 27. 26年以上 28. 27年以上 29. 28年以上 30. 29年以上 31. 30年以上 32. 31年以上 33. 32年以上 34. 33年以上 35. 34年以上 36. 35年以上 37. 36年以上 38. 37年以上 39. 38年以上 40. 39年以上 41. 40年以上 42. 41年以上 43. 42年以上 44. 43年以上 45. 44年以上 46. 45年以上 47. 46年以上 48. 47年以上 49. 48年以上 50. 49年以上 51. 50年以上 52. 51年以上 53. 52年以上 54. 53年以上 55. 54年以上 56. 55年以上 57. 56年以上 58. 57年以上 59. 58年以上 60. 59年以上 61. 60年以上 62. 61年以上 63. 62年以上 64. 63年以上 65. 64年以上 66. 65年以上 67. 66年以上 68. 67年以上 69. 68年以上 70. 69年以上 71. 70年以上 72. 71年以上 73. 72年以上 74. 73年以上 75. 74年以上 76. 75年以上 77. 76年以上 78. 77年以上 79. 78年以上 80. 79年以上 81. 80年以上 82. 81年以上 83. 82年以上 84. 83年以上 85. 84年以上 86. 85年以上 87. 86年以上 88. 87年以上 89. 88年以上 90. 89年以上 91. 90年以上 92. 91年以上 93. 92年以上 94. 93年以上 95. 94年以上 96. 95年以上 97. 96年以上 98. 97年以上 99. 98年以上 100. 99年以上 101. 100年以上 102. 101年以上 103. 102年以上 104. 103年以上 105. 104年以上 106. 105年以上 107. 106年以上 108. 107年以上 109. 108年以上 110. 109年以上 111. 110年以上 112. 111年以上 113. 112年以上 114. 113年以上 115. 114年以上 116. 115年以上 117. 116年以上 118. 117年以上 119. 118年以上 120. 119年以上 121. 120年以上 122. 121年以上 123. 122年以上 124. 123年以上 125. 124年以上 126. 125年以上 127. 126年以上 128. 127年以上 129. 128年以上 130. 129年以上 131. 130年以上 132. 131年以上 133. 132年以上 134. 133年以上 135. 134年以上 136. 135年以上 137. 136年以上 138. 137年以上 139. 138年以上 140. 139年以上 141. 140年以上 142. 141年以上 143. 142年以上 144. 143年以上 145. 144年以上 146. 145年以上 147. 146年以上 148. 147年以上 149. 148年以上 150. 149年以上 151. 150年以上 152. 151年以上 153. 152年以上 154. 153年以上 155. 154年以上 156. 155年以上 157. 156年以上 158. 157年以上 159. 158年以上 160. 159年以上 161. 160年以上 162. 161年以上 163. 162年以上 164. 163年以上 165. 164年以上 166. 165年以上 167. 166年以上 168. 167年以上 169. 168年以上 170. 169年以上 171. 170年以上 172. 171年以上 173. 172年以上 174. 173年以上 175. 174年以上 176. 175年以上 177. 176年以上 178. 177年以上 179. 178年以上 180. 179年以上 181. 180年以上 182. 181年以上 183. 182年以上 184. 183年以上 185. 184年以上 186. 185年以上 187. 186年以上 188. 187年以上 189. 188年以上 190. 189年以上 191. 190年以上 192. 191年以上 193. 192年以上 194. 193年以上 195. 194年以上 196. 195年以上 197. 196年以上 198. 197年以上 199. 198年以上 200. 199年以上 201. 200年以上 202. 201年以上 203. 202年以上 204. 203年以上 205. 204年以上 206. 205年以上 207. 206年以上 208. 207年以上 209. 208年以上 210. 209年以上 211. 210年以上 212. 211年以上 213. 212年以上 214. 213年以上 215. 214年以上 216. 215年以上 217. 216年以上 218. 217年以上 219. 218年以上 220. 219年以上 221. 220年以上 222. 221年以上 223. 222年以上 224. 223年以上 225. 224年以上 226. 225年以上 227. 226年以上 228. 227年以上 229. 228年以上 230. 229年以上 231. 230年以上 232. 231年以上 233. 232年以上 234. 233年以上 235. 234年以上 236. 235年以上 237. 236年以上 238. 237年以上 239. 238年以上 240. 239年以上 241. 240年以上 242. 241年以上 243. 242年以上 244. 243年以上 245. 244年以上 246. 245年以上 247. 246年以上 248. 247年以上 249. 248年以上 250. 249年以上 251. 250年以上 252. 251年以上 253. 252年以上 254. 253年以上 255. 254年以上 256. 255年以上 257. 256年以上 258. 257年以上 259. 258年以上 260. 259年以上 261. 260年以上 262. 261年以上 263. 262年以上 264. 263年以上 265. 264年以上 266. 265年以上 267. 266年以上 268. 267年以上 269. 268年以上 270. 269年以上 271. 270年以上 272. 271年以上 273. 272年以上 274. 273年以上 275. 274年以上 276. 275年以上 277. 276年以上 278. 277年以上 279. 278年以上 280. 279年以上 281. 280年以上 282. 281年以上 283. 282年以上 284. 283年以上 285. 284年以上 286. 285年以上 287. 286年以上 288. 287年以上 289. 288年以上 290. 289年以上 291. 290年以上 292. 291年以上 293. 292年以上 294. 293年以上 295. 294年以上 296. 295年以上 297. 296年以上 298. 297年以上 299. 298年以上 300. 299年以上 301. 300年以上 302. 301年以上 303. 302年以上 304. 303年以上 305. 304年以上 306. 305年以上 307. 306年以上 308. 307年以上 309. 308年以上 310. 309年以上 311. 310年以上 312. 311年以上 313. 312年以上 314. 313年以上 315. 314年以上 316. 315年以上 317. 316年以上 318. 317年以上 319. 318年以上 320. 319年以上 321. 320年以上 322. 321年以上 323. 322年以上 324. 323年以上 325. 324年以上 326. 325年以上 327. 326年以上 328. 327年以上 329. 328年以上 330. 329年以上 331. 330年以上 332. 331年以上 333. 332年以上 334. 333年以上 335. 334年以上 336. 335年以上 337. 336年以上 338. 337年以上 339. 338年以上 340. 339年以上 341. 340年以上 342. 341年以上 343. 342年以上 344. 343年以上 345. 344年以上 346. 345年以上 347. 346年以上 348. 347年以上 349. 348年以上 350. 349年以上 351. 350年以上 352. 351年以上 353. 352年以上 354. 353年以上 355. 354年以上 356. 355年以上 357. 356年以上 358. 357年以上 359. 358年以上 360. 359年以上 361. 360年以上 362. 361年以上 363. 362年以上 364. 363年以上 365. 364年以上 366. 365年以上 367. 366年以上 368. 367年以上 369. 368年以上 370. 369年以上 371. 370年以上 372. 371年以上 373. 372年以上 374. 373年以上 375. 374年以上 376. 375年以上 377. 376年以上 378. 377年以上 379. 378年以上 380. 379年以上 381. 380年以上 382. 381年以上 383. 382年以上 384. 383年以上 385. 384年以上 386. 385年以上 387. 386年以上 388. 387年以上 389. 388年以上 390. 389年以上 391. 390年以上 392. 391年以上 393. 392年以上 394. 393年以上 395. 394年以上 396. 395年以上 397. 396年以上 398. 397年以上 399. 398年以上 400. 399年以上 401. 400年以上 402. 401年以上 403. 402年以上 404. 403年以上 405. 404年以上 406. 405年以上 407. 406年以上 408. 407年以上 409. 408年以上 410. 409年以上 411. 410年以上 412. 411年以上 413. 412年以上 414. 413年以上 415. 414年以上 416. 415年以上 417. 416年以上 418. 417年以上 419. 418年以上 420. 419年以上 421. 420年以上 422. 421年以上 423. 422年以上 424. 423年以上 425. 424年以上 426. 425年以上 427. 426年以上 428. 427年以上 429. 428年以上 430. 429年以上 431. 430年以上 432. 431年以上 433. 432年以上 434. 433年以上 435. 434年以上 436. 435年以上 437. 436年以上 438. 437年以上 439. 438年以上 440. 439年以上 441. 440年以上 442. 441年以上 443. 442年以上 444. 443年以上 445. 444年以上 446. 445年以上 447. 446年以上 448. 447年以上 449. 448年以上 450. 449年以上 451. 450年以上 452. 451年以上 453. 452年以上 454. 453年以上 455. 454年以上 456. 455年以上 457. 456年以上 458. 457年以上 459. 458年以上 460. 459年以上 461. 460年以上 462. 461年以上 463. 462年以上 464. 463年以上 465. 464年以上 466. 465年以上 467. 466年以上 468. 467年以上 469. 468年以上 470. 469年以上 471. 470年以上 472. 471年以上 473. 472年以上 474. 473年以上 475. 474年以上 476. 475年以上 477. 476年以上 478. 477年以上 479. 478年以上 480. 479年以上 481. 480年以上 482. 481年以上 483. 482年以上 484. 483年以上 485. 484年以上 486. 485年以上 487. 486年以上 488. 487年以上 489. 488年以上 490. 489年以上 491. 490年以上 492. 491年以上 493. 492年以上 494. 493年以上 495. 494年以上 496. 495年以上 497. 496年以上 498. 497年以上 499. 498年以上 500. 499年以上 501. 500年以上 502. 501年以上 503. 502年以上 504. 503年以上 505. 504年以上 506. 505年以上 507. 506年以上 508. 507年以上 509. 508年以上 510. 509年以上 511. 510年以上 512. 511年以上 513. 512年以上 514. 513年以上 515. 514年以上 516. 515年以上 517. 516年以上 518. 517年以上 519. 518年以上 520. 519年以上 521. 520年以上 522. 521年以上 523. 522年以上 524. 523年以上 525. 524年以上 526. 525年以上 527. 526年以上 528. 527年以上 529. 528年以上 530. 529年以上 531. 530年以上 532. 531年以上 533. 532年以上 534. 533年以上 535. 534年以上 536. 535年以上 537. 536年以上 538. 537年以上 539. 538年以上 540. 539年以上 541. 540年以上 542. 541年以上 543. 542年以上 544. 543年以上 545. 544年以上 546. 545年以上 547. 546年以上 548. 547年以上 549. 548年以上 550. 549年以上 551. 550年以上 552. 551年以上 553. 552年以上 554. 553年以上 555. 554年以上 556. 555年以上 557. 556年以上 558. 557年以上 559. 558年以上 560. 559年以上 561. 560年以上 562. 561年以上 563. 562年以上 564. 563年以上 565. 564年以上 566. 565年以上 567. 566年以上 568. 567年以上 569. 568年以上 570. 569年以上 571. 570年以上 572. 571年以上 573. 572年以上 574. 573年以上 575. 574年以上 576. 575年以上 577. 576年以上 578. 577年以上 579. 578年以上 580. 579年以上 581. 580年以上 582. 581年以上 583. 582年以上 584. 583年以上 585. 584年以上 586. 585年以上 587. 586年以上 588. 587年以上 589. 588年以上 590. 589年以上 591. 590年以上 592. 591年以上 593. 592年以上 594. 593年以上 595. 594年以上 596. 595年以上 597. 596年以上 598. 597年以上 599. 598年以上 600. 599年以上 601. 600年以上 602. 601年以上 603. 602年以上 604. 603年以上 605. 604年以上 606. 605年以上 607. 606年以上 608. 607年以上 609. 608年以上 610. 609年以上 611. 610年以上 612. 611年以上 613. 612年以上 614. 613年以上 615. 614年以上 616. 615年以上 617. 616年以上 618. 617年以上 619. 618年以上 620. 619年以上 621. 620年以上 622. 621年以上 623. 622年以上 624. 623年以上 625. 624年以上 626. 625年以上 627. 626年以上 628. 627年以上 629. 628年以上 630. 629年以上 631. 630年以上 632. 631年以上 633. 632年以上 634. 633年以上 635. 634年以上 636. 635年以上 637. 636年以上 638. 637年以上 639. 638年以上 640. 639年以上 641. 640年以上 642. 641年以上 643. 642年以上 644. 643年以上 645. 644年以上 646. 645年以上 647. 646年以上 648. 647年以上 649. 648年以上 650. 649年以上 651. 650年以上 652. 651年以上 653. 652年以上 654. 653年以上 655. 654年以上 656. 655年以上 657. 656年以上 658. 657年以上 659. 658年以上 660. 659年以上 661. 660年以上 662. 661年以上 663. 662年以上 664. 663年以上 665. 664年以上 666. 665年以上 667. 666年以上 668. 667年以上 669. 668年以上 670. 669年以上 671. 670年以上 672. 671年以上 673. 672年以上 674. 673年以上 675. 674年以上 676. 675年以上 677. 676年以上 678. 677年以上 679. 678年以上 680. 679年以上 681. 680年以上 682. 681年以上 683. 682年以上 684. 683年以上 685. 684年以上 686. 685年以上 687. 686年以上 688. 687年以上 689. 688年以上 690. 689年以上 691. 690年以上 692. 691年以上 693. 692年以上 694. 693年以上 695. 694年以上 696. 695年以上 697. 696年以上 698. 697年以上 699. 698年以上 700. 699年以上 701. 700年以上 702. 701年以上 703. 702年以上 704. 703年以上 705. 704年以上 706. 705年以上 707. 706年以上 708. 707年以上 709. 708年以上 710. 709年以上 711. 710年以上 712. 711年以上 713. 712年以上 714. 713年以上 715. 714年以上 716. 715年以上 717. 716年以上 718. 717年以上 719. 718年以上 720. 719年以上 721. 720年以上 722. 721年以上 723. 722年以上 724. 723年以上 725. 724年以上 726. 725年以上 727. 726年以上 728. 727年以上 729. 728年以上 730. 729年以上 731. 730年以上 732. 731年以上 733. 732年以上 734. 733年以上 735. 734年以上 736. 735年以上 737. 736年以上 738. 737年以上 739. 738年以上 740. 739年以上 741. 740年以上 742. 741年以上 743. 742年以上 744. 743年以上 745. 744年以上 746. 745年以上 747. 746年以上 748. 747年以上 749. 748年以上 750. 749年以上 751. 750年以上 752. 751年以上 753. 752年以上 754. 753年以上 755. 754年以上 756. 755年以上 757. 756年以上 758. 757年以上 759. 758年以上 760. 759年以上 761. 760年以上 762. 761年以上 763. 762年以上 764. 763年以上 765. 764年以上 766. 765年以上 767. 766年以上 768. 767年以上 769. 768年以上 770. 769年以上 771. 770年以上 772. 771年以上 773. 772年以上 774. 773年以上 775. 774年以上 776. 775年以上 777. 776年以上 778. 777年以上 779. 778年以上 780. 779年以上 781. 780年以上 782. 781年以上 783. 782年以上 784. 783年以上 785. 784年以上 786. 785年以上 787. 786年以上 788. 787年以上 789. 788年以上 790. 789年以上 791. 790年以上 792. 791年以上 793. 792年以上 794. 793年以上 795. 794年以上 796. 795年以上 797. 796年以上 798. 797年以上 799. 798年以上 800. 799年以上 801. 800年以上 802. 801年以上 803. 802年以上 804. 803年以上 805. 804年以上 806. 805年以上 807. 806年以上 808. 807年以上 809. 808年以上 810. 809年以上 811. 810年以上 812. 811年以上 813. 812年以上 814. 813年以上 815. 814年以上 816. 815年以上 817. 816年以上 818. 817年以上 819. 818年以上 820. 819年以上 821. 820年以上 822. 821年以上 823. 822年以上 824. 823年以上 825. 824年以上 826. 825年以上 827. 826年以上 828. 827年以上 829. 828年以上 830. 829年以上 831. 830年以上 832. 831年以上 833. 832年以上 834. 833年以上 835. 834年以上 836. 835年以上 837. 836年以上 838. 837年以上 839. 838年以上 840. 839年以上 841. 840年以上 842. 841年以上 843. 842年以上 844. 843年以上 845. 844年以上 846. 845年以上 847. 846年以上 848. 847年以上 849. 848年以上 850. 849年以上 851. 850年以上 852. 851年以上 853. 852年以上 854. 853年以上 855. 854年以上 856. 855年以上 857. 856年以上 858. 857年以上 859. 858年以上 860. 859年以上 861. 860年以上 862. 861年以上 863. 862年以上 864. 863年以上 865. 864年以上 866. 865年以上 867. 866年以上 868. 867年以上 869. 868年以上 870. 869年以上 871. 870年以上 872. 871年以上 873. 872年以上 874. 873年以上 875. 874年以上 876. 875年以上 877. 876年以上 878. 877年以上 879. 878年以上 880. 879年以上 881. 880年以上 882. 881年以上 883. 882年以上 884. 883年以上 885. 884年以上 886. 885年以上 887. 886年以上 888. 887年以上 889. 888年以上 890. 889年以上 891. 890年以上 892. 891年以上 893. 892年以上 894. 893年以上 895. 894年以上 896. 895年以上 897. 896年以上 898. 897年以上 899. 898年以上 900. 899年以上 901. 900年以上 902. 901年以上 903. 902年以上 904. 903年以上 905. 904年以上 906. 905年以上 907. 906年以上 908. 907年以上 909. 908年以上 910. 909年以上 911. 910年以上 912. 911年以上 913. 912年以上 914. 913年以上 915. 914年以上 916. 915年以上 917. 916年以上 918. 917年以上 919. 918年以上 920. 919年以上 921. 920年以上 922. 921年以上 923. 922年以上 924. 923年以上 925. 924年以上 926. 925年以上 927. 926年以上 928. 927年以上 929. 928年以上 930. 929年以上 931. 930年以上 932. 931年以上 933. 932年以上 934. 933年以上 935. 934年以上 936. 935年以上 937. 936年以上 938. 937年以上 939. 938年以上 940. 939年以上 941. 940年以上 942. 941年以上 943. 942年以上 944. 943年以上 945. 944年以上 946. 945年以上 947. 946年以上 948. 947年以上 949. 948年以上 950. 949年以上 951. 950年以上 952. 951年以上 953. 952年以上 954. 953年以上 955. 954年以上 956. 955年以上 957. 956年以上 958. 957年以上 959. 958年以上 960. 959年以上 961. 960年以上 962. 961年以上 963. 962年以上 964. 963年以上 965. 964年以上 966. 965年以上 967. 966年以上 968. 967年以上 969. 968年以上 970. 969年以上 971. 970年以上 972. 971年以上 973. 972年以上 974. 973年以上 975. 974年以上 976. 975年以上 977. 976年以上 978. 977年以上 979. 978年以上 980. 979年以上 981. 980年以上 982. 981年以上 983. 982年以上 984. 983年以上 985. 984年以上 986. 985年以上 987. 986年以上 988. 987年以上 989. 988年以上 990. 989年以上 991. 990年以上 992. 991年以上 993. 992年以上 994. 993年以上 995. 994年以上 996. 995年以上 997. 996年以上 998. 997年以上 999. 998年以上 1000. 999年以上 1001. 1000年以上 1002. 1001年以上 1003. 1002年以上 1004. 1003年以上 1005. 1004年以上 1006. 1005年以上 1007. 1006年以上 1008. 1007年以上 1009. 1008年以上 1010. 1009年以上 1011. 1010年以上 1012. 1011年以上 1013. 1012年以上 1014. 1013年以上 1015. 1014年以上 1016. 1015年以上 1017. 1016年以上 1018. 1017年以上 1019. 1018年以上 1020. 1019年以上 1021. 1020年以上 1022. 1021年以上 1023. 1022年以上 1024. 1023年以上 1025. 1024年以上 1026. 1025年以上 1027. 1026																														

4枚目

9. 施設退所者等へのアフターケアの状況		問22-3																	
問22-1		問22-2																	
問22-1		問22-1で「1.」と回答した場合																	
1. 対象者の確認	問22-1 あなたや自治体等が提供するアフターケアを受けていますか ※対面・電話・SNS等による相談支援等も含む	問22-2 あなたが提供するどんなアフターケアを受けていますか	問22-3 自治体等（宮城県・仙台市）から受託しているアフターケア事業所を含むが提供するどんなケア・サービスを受けていますか																
この調査の対象者	1. 受けている →1を選んだ方は 問22-2 問22-3へ お進みください 2. 受けていない 3. わからない →3を選んだ方は 設問は以上です。	1. イベント・交流会 3. 日常的な雑談・相談支援 5. 学業の相談・支援 7. 住まい・職場訪問 9. 就職支援 11. 金銭管理 13. その他	2. 記念事のお祝い 4. 不安・トラブル等への相談支援 6. 食事の提供 8. 住宅支援 10. 経済的支援（資金貸与・補助支援） 12. 行政の窓口の紹介 14. 特になし	1. イベント・交流会 3. 日常的な雑談・相談支援 5. 学業の相談・支援 7. 住まい・職場訪問 9. 就職支援 11. 金銭管理 13. その他 15. わからない 設問は以上です。ありがとうございます。 記入済の調査表は返信用封筒に入れてお送りください。 ※里親委託について、また、委託中の困難ややりがいについて、対象者についての今後の心配など、感じておられることがありましたら、右の余白や別紙に記載の上、同封してお送りください。	あてはまる番号全てに○														
依頼事項 1)に記載されている対象者すべてを 番号で表してください。				あてはまる番号全てに○															
右は記入例	1			あてはまる番号全てに○															
01				あてはまる番号全てに○															
02				あてはまる番号全てに○															
03				あてはまる番号全てに○															
04				あてはまる番号全てに○															
05				あてはまる番号全てに○															
06				あてはまる番号全てに○															
07				あてはまる番号全てに○															
08				あてはまる番号全てに○															
09				あてはまる番号全てに○															
10				あてはまる番号全てに○															

